

武庫川水系河川整備計画 進行管理報告書

[平成 28 年度版]

～第 1 期（H23 年度～H27 年度）の主な取り組み～

平成 28 年 9 月

兵 庫 県

目 次

1	進行管理項目一覧	1
2	進行管理結果	
	(洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項)	
	管理番号1 (下流部築堤区間)	4
	管理番号2 (下流部掘込区間)	6
	管理番号3 (中流部)	7
	管理番号4 (上流部及び支川)	8
	管理番号5 (支川の堤防強化)	10
	管理番号6 (下流部築堤区間の堤防強化)	11
	管理番号7 (新規遊水地の整備・青野ダムの活用)	12
	管理番号8 (洪水調節施設の継続検討)	13
	管理番号9 (流域対策)	14
	管理番号10 (減災対策)	17
	(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項)	
	管理番号11 (正常流量の確保)	21
	管理番号12 (緊急時の水利用)	23
	管理番号13 (健全な水循環の確保)	24
	(河川環境の整備と保全に関する事項)	
	管理番号14 (「2つの原則」の適用等)	26
	管理番号15 (天然アユが遡上する川づくり)	29
	管理番号16 (良好な景観の保全・創出)	30
	管理番号17 (河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保)	32
	管理番号18 (水質の向上)	34
	(河川の維持管理等に関する事項)	
	管理番号19 (河川の維持管理)	36
	管理番号20 (流域連携)	39
	管理番号21 (モニタリング)	42
	管理番号22 (河川整備計画のフォローアップ)	44

武庫川水系河川整備計画 進行管理項目一覧

河川整備計画(第4章「河川整備の実施に関する事項」に記載された事項・項目)		管理番号	【実施目標】	【取組方針】	【点検指標】	必要に応じて実施する項目		
第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	1. 河川対策	(1)河道対策	①下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量3,200m ³ /s(甲武橋基準点)を安全に流下させる。	国道43号橋梁の基礎が河床から突出しない深さまでの河床掘削 流域下水道管渠に影響しない箇所での低水路拡幅、部分的な高水敷掘削	河床掘削(No.7～No.50) L=5,700m 低水路拡幅・高水敷掘削(右岸No.10～No.31) L=2,000m 低水路拡幅・高水敷掘削(左岸No.25～No.31) L=580m		
			②下流部掘込区間 (仁川合流点～名塩川合流点)	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量2,700m ³ /s(生瀬地点)を河道内で流下させ、暫定的に浸水被害の防止を図る。	護岸整備やバラベツ等による溢水対策(仁川合流点～生瀬大橋) 河床掘削等(生瀬大橋～名塩川合流点)	護岸整備、バラベツ等(9.0k～15.9k) L=6.9km 河床掘削等(15.9k～18.4k) L=2.5km		
			③中流部 (名塩川合流点～羽東川合流点)	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量2,600m ³ /s(武田尾地点)を河道内で流下させ、暫定的に浸水被害の防止を図る。	護岸整備等による溢水対策(武田尾地区)	護岸整備等(武田尾地区) L=0.8km		
			④上流部(羽東川合流点～本川上流端)及び支川	各河川の目標流量を安全に流下させる。 ・大堀川 50m ³ /s ・波豆川(宝塚市) 160m ³ /s ・山田川 100m ³ /s ・相野川 45m ³ /s ・波賀野川 25m ³ /s ・荒神川 39m ³ /s ・波豆川(三田市) 65m ³ /s ・大池川 40m ³ /s ・武庫川及び真南条川 110m ³ /s	大堀川(宝塚市)の整備 荒神川(宝塚市)の整備 波豆川(宝塚市)の整備 波豆川(三田市)の整備 山田川(三田市)の整備 大池川(三田市)の整備 相野川(三田市)の整備 武庫川及び真南条川(篠山市)の整備 波賀野川(篠山市)の整備	河床掘削等(西田川橋～西ノ町橋) L=1.2km 河床掘削等(国道176号～荒神橋) L=0.6km 河道拡幅等(滝本橋～鳥橋) L=0.3km 河道拡幅等(中河原橋～護魔池) L=0.6km 河道拡幅等(山田滑谷ダム上流1050m～砥石橋上流500m) L=1.9km 河道拡幅等(JR福知山橋梁～国道176号上流50m) L=0.1km 河道拡幅等(洞橋～2級河川上流端) L=1.4km 河床掘削等(岩鼻橋～山崎橋) L=1.9km 河道拡幅等(JR福地山線橋梁～西角橋) L=0.4km		
		⑤下流部築堤区間の堤防強化 (南武橋～仁川合流点)	計画高水位以下の洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。 また、治水上特に注意が必要な箇所を対象に、計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくする。	天王寺川(伊丹市、宝塚市)の整備 天神川(伊丹市、宝塚市)の整備 計画高水位以下の洪水に対する浸透対策、侵食対策 計画高水位以上の洪水に対する堤防強化 堤防に近接する一部の家屋等の対応	堤防強化[ドレーン工による浸透対策](伊丹市荻野～宝塚市中筋) L=0.2km 堤防強化[表のり面被覆工による浸透対策](伊丹市荻野西～宝塚市山本西) L=3.8km ・ドレーン工法等による浸透対策 ・護岸工による侵食対策 ・計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくする浸透対策 ・侵食対策及び巻堤等による越水対策 堤防に近接する一部の家屋等の対応の検討			
		(2)洪水調節施設の整備	①新規遊水地の整備	新規遊水地の整備により20m ³ /s、青野ダムの活用により40m ³ /sを確保し、甲武橋基準点において280m ³ /sの洪水調節を行う。	遊水地整備 洪水調節容量の拡大	遊水地整備 洪水調節容量の拡大(操作規則の適切な変更)		
			②青野ダムの活用	河川整備基本方針の目標達成に向けたさらなる洪水に対する安全度の向上の検討。	さらなる洪水に対する安全度の向上等の検討	千苅ダム治水活用や新規ダム建設等の必要性・実現可能性の検討		
			③洪水調節施設の継続検討					
		2. 流域対策(武庫川流域総合治水推進計画の内容も考慮)	(1)貯留施設の設置による流出抑制対策の実施 (2)様々な流出抑制対策の推進	①防災調整池の設置指導	「武庫川流域総合治水推進計画」と整合を図り、流域内の学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の設置を考慮して、流出抑制量を甲武橋基準点において30m ³ /sとする。 また、付加的な流出抑制効果が期待できる様々な流出抑制対策についても、流域市等と連携し、住民の理解と協力を得て取り組んでいく。	「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置、「武庫川流域総合治水推進計画」の策定 学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の整備 「調整池指導要領及び技術基準」に基づく設置指導 流出抑制機能の更なる強化に向けた検討	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定 学校・公園・ため池等を利用した貯留施設等の整備(貯留量約64万m ³) 「調整池指導要領及び技術基準」に基づく設置指導 ・指導対象面積の引き下げ ・調整池の恒久化等	
				②森林保全と公益的機能向上	森林の水源涵養機能、土砂流出防止機能など公益的機能の維持・向上	人工林の間伐等(関係機関連携・住民連携) 急傾斜地等にある間伐対象人工林の表土浸食防止対策 高齢人工林の広葉樹林への一部誘導(混交林整備)		
				③水田への雨水貯留	無秩序な伐採・開発行為の規制等を通じた森林の適正な保全 豪雨時に発生する土砂崩壊や流木の流出による河川埋塞や橋梁部の閉塞による洪水被害の防止 水田の持つ多面的機能の維持・向上 水田貯留の実施	保安林・林地開発許可制度の適切な運用 砂防事業による流木・土砂災害防止対策 治山事業等による流木・土砂災害防止対策 水田の保全(関係機関連携・農業者連携) 課題解決に向けた取組等の検討		
				④その他の雨水貯留・浸透の取り組み	その他公共施設での雨水貯留・浸透施設の設置促進	公共施設での貯留・浸透施設の設置 各戸への雨水貯留タンクの設置 道路側溝等の浸透化 透水性舗装		

武庫川水系河川整備計画 進行管理項目一覧

河川整備計画(第4章「河川整備の実施に関する事項」)に記載された事項・項目	管理番号	【実施目標】	【取組方針】	【点検指標】	必要に応じて実施する項目
第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	3. 減災対策 (武庫川流域総合治水推進計画の内容も考慮)	<p>計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力以上の洪水が発生した場合でも、人的被害の回避・軽減及び県民生活や社会経済活動への深刻なダメージの回避を目指し洪水被害を軽減させる。</p>	「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置、「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	
			住民が水害リスクを知る機会を多く提供 水害リスクを知るツールの整備	我がまちを歩く体験型講座の開催等 水害リスクを正確に理解でき、わかりやすいハザードマップへの改良・強化 CGハザードマップで整備した映像等の継続公開と活用方法の検討	
			行政、住民、NPO等様々な主体の防災の担い手を育成	ひょうご防災リーダー講座等の研修や防災に関する出前講座の実施 行政担当職員に対する研修の充実	
			市及び住民の避難判断の支援 避難勧告等に関する情報を迅速に提供(市)	防災情報の提供体制の充実 同報無線・移動無線の充実	
			武庫川下流部における「洪水予報」の実施(気象台共同)	「洪水予報」の実施	
			迅速な避難活動の支援 <水防上重要な箇所>	増水する河川の画像情報の提供・配信 サイレン・回転灯の設置	
			水防活動や避難勧告等の発令の支援	洪水時の水位予測等の配信	
			地上デジタル放送等を利用した水位情報等の配信	地上デジタル放送等を利用した水位情報等の配信	
			大規模洪水時における職員の危機管理能力及び地域防災力の向上 防災態勢の強化(市)	実践的な演習の実施 県、防災関係機関と連携した防災訓練の実施	
			住民が被害に遭わないために必要な知識の啓発 各種防災情報の入手方法の啓発	住民主体で作成したハザードマップ等の一層の利活用 「ひょうご防災ネット」への加入促進等	
			水害発生時の災害時要援護者の円滑な避難(市) 住民の避難判断の支援	地区内で住民同士が助け合う取組の促進 「再掲」防災情報の提供体制の充実	
			住民の避難判断の助けとなるような公助の取組(市)	・隣接市間で避難情報の共有 ・隣接市の避難所の相互活用の検討 避難経路等の屋外表示の検討	
水害に備えたまちづくりの実現に向けた検討	・水害リスクに対する認識の向上 ・減災のための土地利用や上層階避難が可能でかつ堅牢な建物への誘導等				
浸水による建築物の被害を未然に防止し、水害に備えたまちづくりへの誘導を図る	避難所や公共施設等重要施設の浸水対策(電気設備等を浸水想定水位より上に設置、地下室への浸水を防止等)				
水害に対する保険制度への加入促進	「フェニックス共済」等への加入促進				
第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	1. 正常流量の確保	(1)流水利用の適正化	既存の水利用や流れの連続性の確保、動植物の生活環境や景観の保全などを考慮しつつ、合理的な水利用を促進することによって、より豊かな流量の確保に努める。	流水利用の適正化 農業用水の償行水利権の取水要態の把握 農業用水の償行水利権から許可水利権への切替等	
		(2)適正な水利用	適正な水利用の推進(関係機関連携)	節水の啓発・水利用の合理化 雨水・再生水利用の促進(各戸への雨水貯留タンクの設置)	
	2. 緊急時の水利用	(1)洪水調整および広域的水融通の円滑化	洪水時には、利水者間での相互調整が円滑に行われるよう必要な情報提供に努めるとともに、関係機関及び利水者と連絡体制を構築したうえで、相互に連携しつつ、広域的な水融通の円滑化に取り組み、被害を最小限に抑える。また、震災などの緊急時には、河川水を消火用水、生活用水などに利用できるように配慮する。	(洪水時)利水者間の相互調整の円滑化 広域的な水融通の円滑化(関係機関連携・利水者連携)	洪水調整会議等における利水者への必要な情報提供、取水制限等の調整 給水ネットワークの整備
(2)緊急時の河川水利用	緊急時の河川水利用の円滑化	消火用水や生活用水等としての河川水の取水への配慮、ダムからの緊急放流等		○	
3. 健全な水循環の確保	関係機関や地域住民と連携して、流域が本来有している保水・貯留機能や地下水かん養機能の保全等に努め、健全な水循環系を確保する。	流域水循環の把握 森林、農地、ため池の整備や適正な管理(関係機関連携)	流域水循環の把握 [再掲]人工林の間伐等(関係機関連携・住民連携) [再掲]急傾斜地等にある間伐対象人工林の表土侵食防止対策 [再掲]高齢人工林の広葉樹林への一部誘導(混交林整備) [再掲]水田の保全(関係機関連携・農業者連携) ため池の保全		
貯留浸透施設の整備(関係機関連携)	[再掲]透水性舗装 浸透ます等の整備(道路側溝の浸透化)				
第3節 河川環境の整備と保全に関する事項	1. 動植物の生活環境の保全・再生	武庫川水系の多種多様な動植物が今後も生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生を図る。	「2つの原則」の留意事項等をとりまとめた手引きの作成 「2つの原則」のパンフレット作成 地域住民や団体等による生態系の保全・再生活動の円滑化	手引きの作成 パンフレットの作成 ・行政手続きの迅速化 ・技術面でのサポート	
		(1)「2つの原則」の適用にあたっての考え方	河川整備に際して「2つの原則」を適用 重点化を図りつつ優先順位の高いものから配慮を検討すべき「生物の生活空間」を改善	「2つの原則」の適用	
		(2)「2つの原則」を適用した河川整備の実施箇所における主な対策	<汽水域の拡大と干潟の創出> 魚類等の移動の連続性確保	河床掘削に併せた潮止堰等の撤去 上流側床止め魚道改良	
		①武庫川下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流 約5.0km)	干潟の創出 磯河原と瀬・淵の再生 外来植物の除去	水制工等の設置 現状の砂州形状や磯河原の比高を考慮した河床掘削 ・河床掘削によるシタダレスマカヤの除去 ・関係機関や地域住民と連携したシタダレスマカヤの除去	
		②武庫川下流部掘込区間 (生瀬大橋～名塩川合流点 約2.5km)	区間外での磯河原の再生 移動性が低い生物の移植対策	区間外での磯河原の再生 オグラコウホネ等の植物やカタハガイ等の二枚貝類の移植対策	○
③武庫川上流部 (岩鼻橋～山崎橋 約1.9km)	みお筋の再生 瀬・淵の再生 ワンド・たまりの再生	現況と同様の蛇行部確保 河道が直線的で河床勾配が一定な区間での木杭や根固工等の設置 ・河床の横断方向に傾斜や凹凸をつけ冠水頻度に変化 ・ワンド・たまりの再生			
(3)天然アユが遡上する川づくり	アユをシンボル・フィッシュと位置付け、魚類にとってより望ましい川づくりに取り組む。	オギ群集の再生 現地発生した表土の再利用 区間外での瀬・淵やワンド等の創出	○		
関係機関や地域住民との適切な役割分担のもと、必要な対策を検討し実施可能な対策に取り組む(住民連携)	魚道の改善やみお筋の確保などによる移動の連続性の向上 ・産卵場及び稚魚期の生息場所の確保 ・必要に応じた生息要態の追加調査等				

武庫川水系河川整備計画 進行管理項目一覧

河川整備計画(第4章「河川整備の実施に関する事項」)に記載された事項・項目	管理番号	【実施目標】	【取組方針】	【点検指標】	必要に応じて実施する項目				
第3節 河川環境の整備と保全に関する事項	2. 良好な景観の保全・創出	周辺の地域景観と調和した武庫川らしい景観を保全・創出する。	地域固有の景観資源の保全沿川の地域特性に配慮しつつ地域と一体となった景観形成多様性の恵みとして得られる景観の創成	・地域固有の生態系の保全 ・自然素材や多自然工法の採用 ・構造物の明度・彩度・肌理と周囲との調和などへの配慮 治水支障がない範囲での堤防法面や高水敷の緑化修景 <下流部築堤区間>樹木伐採を必要最小限とする工法の検討等					
			魅力ある河川景観の創出(住民連携)	汽水域拡大・干潟創出を活用した魅力ある河川景観の創出					
	3. 河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保	自然とのふれあいや環境学習の場を整備・保全する。また、適正な河川利用を確保する。	自然環境・治水計画との調和に留意しつつ多様な要請に対応	多様な要請への対応	地域の個性に配慮した景観づくり	○			
			武庫川の自然環境や水辺を利用した環境学習の支援(関係機関連携)	・河川利用の利便性の確保 ・自然を生かした水辺の創出や施設の整備					
			秩序ある水面利用(流域市連携・関係機関連携) 汽水域拡大・干潟創出を活かした魅力ある水辺とのふれあいの場の創出(住民連携)	秩序ある水面利用 魅力ある水辺とのふれあいの場の創出					
	4. 水質の向上	(1)下水道整備の推進	関係機関や地域住民と連携して、更なる水の「質」の向上を図る。	放流水のさらなる水質改善	下水処理施設の高度処理化 合流式下水道改善事業等				
				水質状況的確な把握	定期的な水質調査や底質調査(関係機関連携)				
				水質事故時の情報の迅速な伝達と共有化(関係機関連携)	「武庫川水質連絡会議」等との連携	○			
				地域住民が身近な河川の水質調査を通じて川とのつながりを深める	わかりやすい水質指標による調査の実施を検討(関係機関連携)				
				河積に余裕がある箇所での自然浄化機能の向上	オギやヨシ等の水生植物の再生(住民連携)				
	第4節 河川の維持管理等に関する事項	1. 河川の維持管理	(1)維持・修繕工事の実施	河道の確保、堤防・護岸の機能維持、河川利用者の安全確保、不法行為等の防止、施設の機能維持、占用許可工作物への適切指導に取り組む。	河道の確保、堤防・護岸の機能維持	河床低下や異常な洗掘箇所における根固工などの洗掘対策、流下能力が著しく低下している箇所における河道掘削等、堤防・護岸の変状箇所における修繕工事 ・<下流部築堤区間>定期的な横断測量や堤防・護岸の点検 ・必要に応じた維持掘削や堤防・護岸の修繕工事	○		
					②親水施設等	河川利用施設及び警報システムや避難誘導施設の機能確保	老朽化した河川利用施設及び警報システムや避難誘導施設の更新	○	
③樹木等					適切な樹木管理	・河川区域内樹木等の巡視・点検 ・堤防の安全性に悪影響を及ぼす樹木の伐採・抜根等			
④水文観測施設					適正な樹木管理についての検討 水文観測施設の機能確保	治水支障となる樹木の伐採や治水上の支障がない範囲での植樹等 ・適切な維持管理 ・老朽施設の更新	○		
(2)不法行為等への指導					治水上著しい支障がある不法行為者への指導(関係部局連携)	不法行為者への指導	○		
(3)除草・清掃の実施					安全な河川利用の促進、防火防火等を目的とした除草・清掃の実施	・クリーン作戦(県市共同) ・利用者の多い箇所における定期的な除草・清掃 河川愛護活動・ひょうごアドプト等に対する清掃資材提供等の支援 回収ゴミの適切な処理(県市連携)			
(4)適切な施設操作の実施					樋門等の適正な機能発揮 水防倉庫の適正活用(水防時)	樋門等の操作の実施・指導 水防倉庫の適正活用	○		
(5)占用許可工作物への適切指導					河川管理上支障となる占用許可工作物の改善、現行の構造基準を満たしていない施設の改善 出水時における排水ポンプ場の合理的な運転調整方法の検討	施設管理者への指導 運転調整方法の検討	○		
2. 流域連携					(1)地域社会と河川の良好な関係の構築	参画と協働による武庫川づくりを基本として、地域住民等、大学等の研究機関、流域市、県が適切な役割分担のもと連携を進め、「地域共有の財産」である武庫川を守り育てる。	地域住民等と連携した河川の維持管理等	ひょうごアドプト等の実施	
							「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置、「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	
							学校、公園、ため池を利用した貯留施設の整備(流域市連携)	学校・公園・ため池等を利用した貯留施設等の整備(貯留容量約64万m3)	
							水害リスクに対する認識の向上や避難方法の周知	わがまちを歩く体験型講座や住民主体のハザードマップづくりなどの支援	
	動植物の生活環境の保全・再生(住民連携)	アユが遡上する川づくりや外来種除去を通じた在来種の保全等							
(2)多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援	①連携・交流のための機会提供 ②連携・交流のための情報提供	地域住民が水質調査を通じて川とのつながりを深める	地域住民が水質調査を通じて川とのつながりを深める	わかりやすい水質指標による調査の実施を検討(関係機関連携)					
			公平性・透明性を基本に活動主体の自発性、自律性を損なわないように配慮した支援	活動資金の助成 ・活動主体の情報発信 ・相互の連携・交流の支援等					
			流域ネットワークの自律的な形成に向けた支援	他の活動主体との連携・交流の機会となるシンポジウム等の開催 活動主体の概要とその活動内容などの情報提供 流域ネットワークとの連携の具体化					
3. モニタリング	(1)定期的な観測によるデータの把握 (2)事業実施前後のモニタリング (3)流量観測データの蓄積	治水、利水、環境の観点から河川の総合的な管理を行う。	観測データの活用、住民等との情報共有	・河川管理技術の向上 ・河川整備計画の進行管理等への観測データの活用 住民等との情報共有					
			観測精度の維持、向上	日常の保守点検 必要に応じた観測施設の配置・観測手法等の改善	○				
			定期的・継続的な観測の実施、データの蓄積	流域内雨量、河川水位、土砂堆積、水質、水温、潮位の継続調査・データ蓄積					
			環境への影響把握、順応的管理、知見の蓄積、事業への反映	魚類、底生動物、植生、瀬・淵の状況、河川景観等のモニタリング					
			増水時や平常時の流況把握	増水時や平常時の流量観測データの蓄積					
4. 河川整備計画のフォローアップ	(1)河川整備計画の進行管理 (2)フォローアップ委員会の設置 (3)地域住民等との情報の共有	河川整備計画の着実な推進。	PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を図る仕組みの導入	PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理の実施					
			フォローアップ委員会の設置	フォローアップ委員会の開催					
			地域住民等との情報の共有化	施策・事業の実施状況等の情報発信					

河川整備計画の事項・項目

第4章 河川整備の実施に関する事項
 第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項
 1 河川対策
 (1) 河道対策
 ① 下流部築堤区間 (河口～JR 東海道線橋梁下流)

実施目標

戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量3,200m³/s (甲武橋基準点) を安全に流下させる。

施策の概要

河道への配分流量3,200m³/s を安全に流下させる範囲内で、国道43号橋梁の基礎が河床から突出しない深さまで河床掘削するとともに、流域下水道管渠に影響しない箇所では低水路拡幅と、部分的な高水敷掘削を行う。河床掘削に伴い必要となる橋梁の補強又は改築の方法については、橋梁管理者と協議、調整を行う。潮止堰は、周辺の地下水の利用状況等を勘案し適切に対応することを前提に撤去する。また、床止工は、同様のことを前提に撤去または改築する。

1. 期別計画 (P)			期別計画 (P)				2. 実績 (D)						
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)						
			第1期 (H23～H27)	第2期 (H28～H32)	第3期 (H33～H37)	第4期 (H38～H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期 (H23～H27) 計	
(1) 河道対策	① 下流部築堤区間 (河口～JR 東海道線橋梁下流)	国道43号橋梁の基礎が河床から突出しない深さまでの河床掘削	700m	工事継続	工事継続	工事完了						累計 L=0m (進捗率 0%)	
		低水路拡幅・南武橋等の施工に必要な航路幅分の掘削	—	—	—	—			[No.7～No.1+32] L=832m (H26 継続)	[No.7～No.1+32] L=832m (完) [No.1+32～No.4+17] L=285m (完)	[No.4+17～No.5+23] L=106m (完) [No.5+23～No.10] L=477m (H28 継続)	累計 L=1,223m (進捗率 —) ※追加工種	
		流域下水道管渠に影響しない箇所での低水路拡幅、部分的な高水敷掘削	1,500m	工事完了	—	—			【矢板打設(護岸)】 [No.11+1.9～No.14+73] L=371m (完)	【矢板打設(護岸)】 [No.9+80.2～No.11+3.8] L=123m (完) [No.19+0.35～No.23] L=400m (完)	【矢板打設(護岸)】 [No.14+73～No.16+1.1] L=126.9m (完) [No.18+17～No.19+0.4] L=83.7m (完)	【着手済み】 累計 L=1,104.6m (着手率 74%)	
		低水路拡幅・高水敷掘削 (右岸 No.10～No.31) L=2,000m	—	—	—	—			【掘削(拡幅)】 [No.9+80.2～No.11+3.8] L=123m (H26 継続) [No.11+3.8～No.14+69.5] L=370m (H26 継続)	【掘削(拡幅)】 [No.14+73～No.16+1.1] L=123m (完) [No.11+3.8～No.14+69.5] L=370m (完) ※L=335.8m 矢板未撤去	【掘削(拡幅)】 [No.14+73～No.16+1.1] L=126.9m (完) [No.18+17～No.19+0.4] L=83.7m (完) ※L=335.8m 矢板未撤去	【完了】 累計 L=703.8m (進捗率 47%) ※L=335.8m 矢板未撤去	
		低水路拡幅・高水敷掘削 (左岸 No.25～No.31) L=580m	—	工事着手・工事完了	—	—							
		南武橋(改築)	工事着手	工事継続	工事完了	—							
		河床掘削に伴い必要となる橋梁の補強又は改築	—	—	—	—							
		国道43号橋梁、阪神高速橋梁(護床工)	—	工事着手・工事完了	—	—							
		阪神電鉄橋梁(補強)	—	—	—	工事着手・工事完了							
		武庫川橋(旧国道)(護床工)	—	—	—	工事着手・工事完了							
		ガス管橋(補強又は改築)	—	工事着手・工事完了	—	—							
		国道2号橋梁(補強)	—	工事着手	工事継続	工事完了							
		潮止堰(撤去)	工事着手	工事完了	—	—							
		潮止堰の撤去	—	—	—	—							
		塩水化対策	—	—	—	—							
1号床止工(撤去)	—	—	—	工事着手・工事完了									
床止工の撤去又は改築	—	—	—	—									
2号床止工(撤去又は改築)	—	—	—	—									
3号床止工(改築)	—	—	—	—									

※ 工事着手には用地補償を含む

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 実施計画の策定にあたり、計画内容の周知や住民意見聴取に積極的に取り組んだ結果、ホームページ[※]へのアクセス数 [243件/月 (7~9月の平均) →485件/月 (1~3月の平均)] や、住民からの計画に対する問合せが増加したことは、説明会等の効果と考えている。 [※]「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04_hs04_000000033.html また、聴取した意見については「武庫川河川整備地域懇談会」で共有し、できるだけ実施計画への反映に努めた。 今後も、計画内容の周知や住民意見の聴取に努め、円滑な事業推進に取り組む。 〔事業説明会、現地説明会、出前講座〕 H23.5~H24.3 (50回開催) 参加者累計約1,900人 <武庫川河川整備地域懇談会> H23.8~H24.1 (全3回完了) <パンフレット (5,000部)、リーフレット (50,000部) の発行> <事業概要説明チラシの配布> 下流部築堤区間の沿川約17戸を対象に配布<広報誌、ホームページへの掲載> <アンケート調査の実施> <現地広報看板 (21箇所)、意見募集箱 (6箇所) の設置> 【主な意見】 ・治水安全度の向上が最優先 ・津波に対する安全性確保 ・利用面を考慮して、高水敷の段差はなくしてほしい ・干潟の創出やアユの生息環境改善 ・景観保全上、高水敷の樹木は切らないでほしい 等 ・橋梁の補強又は改築の方法について、今後、橋梁管理者との協議・調整を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月より河道対策工事に着手した。今後も更なる事業推進を図る。 (河床掘削工事) 河床掘削工事に係る調整を行い、翌年度より本格実施 (護岸工事) 右岸 (西宮市側) の矢板護岸工事 L=371mに着手 潮止堰撤去・河床掘削にともなう地下水の影響について調査検討に着手した。地下水への影響検討にあたっては、地下水の水位・水質等の経年変化を把握する必要があることから、今後も地下水のモニタリングを継続していく。 沿川住民や河川敷利用者へ工事内容の周知に努めた。今後とも円滑な事業進捗に取り組む。 〔1. 矢板工事現場の高水敷にインフォメーションセンターを設置し、浸水想定区域を表した立体模型や事業概要のパネルを展示するとともに、河川整備計画の内容を説明するビデオ映写を行った。〕 〔2. 事業説明会等 21回 (655人)〕 〔3. チラシ配布等 14万部〕 各橋梁管理者に対し、河川改修事業の概要やスケジュールについて説明を行った。引き続き、橋梁の補強又は改築の方法について橋梁管理者と調整を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道対策工事を継続実施。今後も更なる事業推進を図る。 (河床掘削工事) 河床掘削工事に係る調整を行い、L=832m(航路)に着手 [H26継続] (護岸工事) 右岸 (西宮市側) の矢板護岸 L=514m完了、低水路拡幅 L=484mに着手 [H26継続] 潮止堰撤去・河床掘削にともなう地下水の影響調査検討、地下水のモニタリングを継続実施 沿川住民や河川敷利用者へ工事内容の周知に努めた。今後とも円滑な事業進捗に取り組む。 〔1. 矢板工事現場の高水敷にインフォメーションセンターを設置し、浸水想定区域を表した立体模型や事業概要のパネルを展示するとともに、河川整備計画の内容を説明するビデオ映写を行った。〕 〔2. 事業説明会等 20回 (370人)〕 〔3. チラシ配布等 1万部〕 南武橋改築の詳細設計に着手。他橋梁については、引き続き補強又は改築に向けて橋梁管理者と調整を進めていく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 河道対策工事を継続実施。今後も更なる事業推進を図る。 (河床掘削工事) ①L=832m(航路) [完了]、②L=285m(航路) [完了] (護岸工事) 右岸 (西宮側) の低水路拡幅 L=493m [完了] 潮止堰撤去・河床掘削に伴う地下水の影響調査検討、地下水のモニタリングを継続実施 潮止堰撤去の詳細設計に着手。撤去後の塩水化対策を検討 沿川住民や河川敷利用者へ工事内容の周知に努めた。今後とも円滑な事業進捗に取り組む。〔事業説明会等 11回 (438人)〕 南武橋架替の詳細設計継続実施および関係機関協議に着手。他橋梁については、引き続き補強又は改築に向けて橋梁管理者と調整を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道対策工事を継続実施。今後も更なる事業推進を図る。 (河床掘削工事) L=113m(航路) [完了] (護岸工事) 右岸 (西宮側) の低水路拡幅 L=210.6m [完了] 潮止堰撤去・河床掘削に伴う地下水の影響調査検討、地下水のモニタリングを継続実施 潮止堰等撤去後の塩水化対策工事に着手 (潮止矢板工事) 右岸 (西宮側) の矢板打設 L=250m [完了] 沿川住民や河川敷利用者へ工事内容の周知に努めた。今後とも円滑な事業進捗に取り組む。〔事業説明会等 12回 (808人)〕 南武橋改築に向け、関係機関 (阪神・公安・関電)、地元等との協議を継続 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)		
<河床掘削> ・河床掘削については、低水路拡幅の土砂搬出や南武橋改築の実施に必要な航路を確保するための河床掘削を優先して実施した。第2期において、低水路拡幅 (第2期完了予定) 等に必要な航路確保のための河床掘削を引き続き行うこととし、計画幅の河床掘削については第3期から本格的に実施していく予定である。		
<低水路拡幅> ・低水路拡幅については、既設矢板の引抜き撤去作業において、周辺家屋への振動に配慮した施工を行うことで予定より時間を要したことなどから、第1期計画延長1,500mに対し、1,104m着手 (着手率74%)、704m完了 (進捗率47%) にとどまっており、目標を達成出来ていない。現在は、既設矢板の撤去については引抜きから切断に工法変更したことなどから順調に進んでおり、第2期においては、当初予定のH32年度完了を目指し、引き続き進捗を図る。		
<橋梁の補強又は改築> ・南武橋改築については、第1期において、道路管理者等関係者協議を行うとともに、コスト削減・工期短縮が可能な工法・施工計画の検討を行いながら詳細設計を進めているところである。第1期には工事着手に至っていないが、第2期においても引き続き工期短縮が可能な工法・施工計画の検討を進めるとともに、当初予定の第3期の完了に向け早期着手に努めていく。		
<潮止堰の撤去> ・潮止堰の撤去については、撤去による周辺井戸の塩水化の調査・検討を行い、撤去に先立ち塩水化対策工事 (矢板打設) を実施することとし、H27年度に着手したところである。第2期においては、引き続き実施する塩水化対策工事の完了後に潮止堰撤去工事に着手する予定であり、地下水のモニタリングと合わせて、早期完了に向けて必要な対策を進めていく。		
(参考) ・なお、築堤区間の決壊を防止し安全に洪水を流下させるための堤防強化対策 (管理番号6参照) については、浸透対策では第1期計画延長6.1kmに対して6.2km完了 (進捗率102%)、侵食対策では第1期計画延長0.7kmに対して0.7km完了 (進捗率100%) となっており、第2期においても、低水路拡幅と合わせて下流部築堤区間の治水安全度を高める工事を着実に実施していく。		

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項	実施目標	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量2,700m ³ /s(生瀬地点)を河道内で流下させ、暫定的に浸水被害の防止を図る。
	第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項		
施策の概要	1 河川対策		
	(1) 河道対策		
	② 下流部掘込区間(仁川合流点～名塩川合流点)		
掘込区間全体にわたって戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水(生瀬地点における河道への配分流量2,700m ³ /s)に対する護岸の整備やパラベット等による溢水対策を行う。当面は、生瀬大橋上流の未整備区間のうち、家屋の多い青葉台地区等について、下流の整備済区間と同水準の流量(生瀬地点における河道への配分流量1,900m ³ /s)を安全に流下させるとともに平成16年台風23号洪水(生瀬地点2,600m ³ /s)による再度災害防止のため、地元住民の意向を踏まえながら河床掘削等の対策を検討し実施する。			

1. 期別計画(P)			期別計画(P)				2. 実績(D)					
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期	第2期	第3期	第4期	実績(D)					
			(H23～H27)	(H28～H32)	(H33～H37)	(H38～H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期(H23～H27)計
(1) 河道対策	②下流部掘込区間(仁川合流点～名塩川合流点)	護岸整備やパラベット等による溢水対策(仁川合流点～生瀬大橋)	-	-	工事着手	工事完了	-	-	-	-	-	-
		河床掘削等(生瀬大橋～名塩川合流点)	左岸拡幅0.5km	工事継続	工事継続	工事完了	・地元協議を実施 ・道路管理者(国交省及び市)との協議を実施	・地元及び道路管理者(国交省及び市)との協議を継続中	・地元及び道路管理者(国交省及び市)との協議を継続中	・地元及び道路管理者(国交省及び市)との協議を継続中 ・地形測量、護岸設計を実施	・地元及び道路管理者(国交省及び市)との協議を継続中 ・用地測量を実施	累計L=0m (進捗率 0%)
※工事着手には用地補償を含む												

3. 点検・評価(C) (第1期 [H23～H27])			点検・評価(C) H24		点検・評価(C) H25	
点検・評価(C) H23			点検・評価(C) H24		点検・評価(C) H25	
<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点については、事業化に向けて改修案の提示、地元住民意見の聴取に努めた。今後も引き続き、意見聴取に努めていく。 河川改修と関連する国道176号の改良に関して、道路管理者である国土交通省と拡幅工法について協議を実施した。今後も引き続き、協議を継続していく。 			<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点については、改修案(左岸拡幅案)を提示したものの地元との合意には至っていない。今後も地元合意が得られるよう協議を継続していく。 河川改修と関連する国道176号の改良に関して、道路管理者である国土交通省協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。また、西宮市道西宝橋架け替えについても道路管理者である西宮市と協議を実施していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点については、青葉台地区において、具体的な改修案(左岸拡幅案)を提示するための調査測量を依頼したが、地元総意は得られなかったため、同意が得られた地権者から個別、段階的に調査を進めることとした。今後も地元合意が得られるよう協議を継続していく。 河川改修と関連する国道176号の改良に関して、道路管理者である国土交通省協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 西宮市道西宝橋架け替えについても、道路管理者である西宮市と協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 	
点検・評価(C) H26			点検・評価(C) H27			
<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点については、青葉台地区において、地権者に対して具体的な改修案を提示するために必要な調査測量、及び設計を実施した。今後は、同意を得られた地権者について用地測量、物件調査を実施し、個別に用地補償交渉に着手していく。併せて、地元合意が得られるよう継続協議していく。 河川改修と関連する国道176号の改良に関して、道路管理者である国土交通省協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 西宮市道西宝橋架け替えについても、道路管理者である西宮市と協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 			<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点については、青葉台地区において用地測量に係る意向確認により同意を得られた地権者について測量を実施。今後は個別に用地補償交渉に着手していくと並行して、全ての地権者の合意が得られるよう継続協議していく。 河川改修と関連する国道176号の改良に関して、道路管理者である国土交通省協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 西宮市道西宝橋架け替えについても、道路管理者である西宮市及び事業者である国土交通省と協議を継続し、円滑な事業執行に向けて調整していく。 			

4. 改善(A) (第2期 [H28～H32] に向けて)		
<ul style="list-style-type: none"> 生瀬大橋～名塩川合流点の整備については、第1期(H23～H27)において、左岸を拡幅、護岸整備する青葉台地区の用地測量に着手した。 第2期(H28～H32)において、青葉台地区については事業用地確保に向け粘り強く協議、交渉をおこない事業への理解を求め、一定範囲の用地買収、移転補償ができた箇所から工事に着手する。 国道176号(名塩道路)改良事業については、H28年度より本格着手する予定であることから、河床掘削の実施時期等、双方の事業が円滑に進捗するよう、道路管理者である国土交通省とより緊密な協議、調整を図っていく。 西宝橋架け替えについては、詳細設計をH28年度に実施予定。H29年度以降、引き続き仮橋設置に着手していく予定であり、国土交通省、西宮市に加え、橋梁添架者との緊密な協議、調整により進めていく。 		

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 1 河川対策 (1) 河道対策 ③ 中流部(名塩川合流点～羽東川合流点)	実施目標	戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水に対し、流域対策を考慮し、洪水調節施設により洪水調節した結果、河道への配分流量2,600m ³ /s(武田尾地点)を河道内で流下させ、暫定的に浸水被害の防止を図る。
	施策の概要		中流部の武田尾地区において、戦後最大の洪水である昭和36年6月27日洪水(武田尾地点における河道への配分流量2,600m ³ /s)に対し、河川整備を実施する。

1. 期別計画(P)				2. 実績(D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画(P)				実績(D)					
			第1期(H23~H27)	第2期(H28~H32)	第3期(H33~H37)	第4期(H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期(H23~H27)計
(1)河道対策	③中流部(名塩川合流点～羽東川合流点)	〔住宅地区〕 護岸整備等 L=490m	L=250m	工事完了	-	-	事業化に向けて地元協議を実施	用地・補償、県道詳細設計、土地区画整理組合の設立に向けた支援を実施	県道改良工事着手。土地区画整理組合を設立。	県道改良工事完成(僧川との合流部を除く)。 僧川法線見直し部除く。	本川護岸工事完成(僧川との合流部を除く)。 僧川改修工事(準備工)。	累計L=250m (進捗率 100%)
		〔温泉地区〕 護岸整備等 L=355m	L=90m	工事完了	-	-	事業化に向けて地元協議を実施	地元協議を継続 用地境界の確認が完了	地元協議を継続する一方、具体的な用地補償内容提示に向けて、詳細設計に着手	護岸詳細設計完了。地権者に対して具体的な用地補償交渉を開始。	用地補償契約、移転完了。 河川改修(その1)(その2)工事着手。	累計L=0m (進捗率 0%)

3. 点検・評価(C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価(C) H23	点検・評価(C) H24	点検・評価(C) H25
<p><住宅地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 事業化に向けて改修案の提示、地元住民意見の聴取に努めた。 土地区画整理事業と連携して、河川改修事業を進めることで、概ねの方針が決まった。 道路管理者・公園管理者・橋梁管理者など、関係者が多岐に渡ることから、事業の円滑な実施に向け、随時協議・調整を進めていく。 	<p><住宅地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 地区内再建を希望する方の移転先を先行して確保するための盛土を実施する範囲の用地買収及び支障家屋の移転補償が概ね完了した。また、県道改良工事(附帯工事)の詳細設計を実施するとともに、道路管理者などの関係者と協議を行い、次年度の工事着手に向けて協議・調整を進めた。 地元関係者等で構成する土地区画整理組合の設立に向けた支援を行った結果、組合設立準備会の設立を経て、組合設立認可申請書が提出された。(H25.3.8) 今後、土地区画整理組合とも連携しつつ事業推進を図る。 <p><温泉地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 用地境界確認や地元協議を実施した。今後も引き続き事業執行環境の整備に努め、H26年度の新規事業着手を目指す。 	<p><住宅地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 県道改良工事に着手、先行盛土を含めてH26年度末完成を目指す。 土地区画整理組合設立認可申請書の認可を受け正式に組合を設立、第1回総会を開催した。 今後、土地区画整理組合とも連携しつつ、先行盛土の早期完成と換地先への移転促進に向けて事業推進を図る。 <p><温泉地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 護岸設計を発注し、地権者に対して具体的な工事内容、及び用地補償内容が提示できるよう準備に着手した。 今後は、上記業務の早期完成を図り、H26年度内の用地補償契約、H27年度からの工事着手を目指す。
点検・評価(C) H26	点検・評価(C) H27	
<p><住宅地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末に県道改良工事が完成(僧川法線見直し部を除く)。 護岸設計においては、H26.8月豪雨による浸水被害の発生を受け、支川(僧川)の法線見直し等を実施。 これに伴い仮換地計画の変更が必要となるが、先行盛土の早期完成と換地先への移転促進に向けて、土地区画整理組合とも連携しつつ事業推進を図る。 <p><温泉地区></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元協議を継続するとともに、護岸設計の検討と並行して地権者に工事内容説明を行い、具体的な用地補償交渉を開始した。今後は、H27年度からの工事着手に向け、早期の契約締結を目指す。 	<p><住宅地区></p> <ul style="list-style-type: none"> H26.8月豪雨による被災に伴う事業計画の見直しにより、H27.6月の地権者全員の仮移転完了に続き、H27.7より河川改修(その1)工事と災害復旧工事に着手。災害復旧工事は年度末完了。 事業の早期完成に向け、(その2)(歩道橋設置)工事を発注済み。 引き続き先行盛土の早期完成と換地先への移転促進に向けて、土地区画整理組合とも連携しつつ事業推進を図る。 <p><温泉地区></p> <ul style="list-style-type: none"> H27.9に地権者と用地補償契約を締結、年度末に仮移転完了。 並行して、H27.10より河川改修(その1)(その2)工事に着工済み。 地権者の円滑な本移転に寄与するため、順次改修工事を進め事業の早期完成を目指す。 	

4. 改善(A) (第2期 [H28~H32] に向けて)	
<住宅地区>	<ul style="list-style-type: none"> 第1期(H23~H27)において、当初の計画ではないH26.8豪雨被害による支川(僧川)の法線の見直しを実施したが、土地区画整理事業と連携して地元調整、工事を実施しており、当初計画どおり(第2期)に完成。 地権者の換地先への円滑な移転に向けて土地区画整理組合とより緊密に連携を図るとともに、平成29年度に工事を完成させる予定。
<温泉地区>	<ul style="list-style-type: none"> 第1期(H23~H27)において、用地補償契約を締結し、支障物件の移転が完了し、護岸工事に着手。平成28年度から本格的に護岸工事を進め、当初計画どおり(第2期)に完成。 地権者の換地先への円滑な移転に向けて、工事箇所への寄り付き(左岸側から右岸側への寄りつき)に制約を受ける現場ではあるが、効率的、効果的な発注計画・施工計画により平成30年度に工事を完成させる予定。

河川整備計画の事項・項目

第4章 河川整備の実施に関する事項
 第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項
 1 河川対策
 (1) 河道対策
 ④ 上流部（羽東川合流点～本川上流端）及び支川

実施目標

各河川の目標流量を安全に流下させる。
 ・大堀川 50m³/s ・荒神川 39m³/s ・波豆川(宝塚市) 160m³/s
 ・波豆川(三田市) 65m³/s ・山田川 100m³/s ・大池川 40m³/s
 ・相野川 45m³/s ・武庫川及び真南条川 110m³/s
 ・波賀野川 25m³/s

施策の概要

それぞれの目標流量を安全に流下させるため、河道拡幅や河床掘削等を行う。これに伴い改築が必要となる橋梁の補強又は改築の方法については、橋梁管理者と協議、調整を行う。

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)									
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)								
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期 (H23~H27) 計			
(1)河道対策	④ 上流部 (羽東川合流点～本川上流端) 及び支川	大堀川 (宝塚市) の整備	河床掘削等 (西田川橋～西ノ町橋) L=1.2 km	0.2 km	工事継続	工事完了	—	橋梁架替 (尼崎宝塚線) 着手	橋梁架替 (尼崎宝塚線) を継続 L=10m	橋梁架替 (尼崎宝塚線) を継続及び起点から県道迄の護岸詳細設計	橋梁架替 (尼崎宝塚線) を継続及び県道から上流側の護岸概略設計	橋梁架替 (尼崎宝塚線) を継続及び県道から上流側の護岸概略設計	橋梁架替 (尼崎宝塚線) を継続及び県道から上流側の護岸概略設計	累計 L=10m (進捗率 5%)	
		荒神川 (宝塚市) の整備【市】	河床掘削等 (国道176号～荒神橋) L=0.6 km	0.2 km	工事完了	—	—	護岸工 L=12m を実施	護岸工 L=25m を実施	旧国道を挟んで下流側護岸 13m 及び上流側 12m を実施	旧国道から川面橋 (上流側は左岸のみ) まで約 50m を実施	川面橋から上流に護岸 (右岸) 40m 及び JR 宝塚線 上流部 12m (両岸) を実施	累計 L=0.3 km (進捗率 150%) ※H23 以前含む		
		波豆川 (宝塚市) の整備	河道拡幅等 (滝本橋～島橋) L=0.3 km	0.3 km	工事完了	—	—	橋梁管理者との協議を実施	橋梁予備設計及び土質調査を実施	県道改良計画と併せて橋梁詳細設計を実施	県道改良計画と併せて橋梁詳細設計を継続実施	県道改良事業として橋梁架替工事 (仮橋設置、旧橋撤去) に着手。	累計 L=0m (進捗率 0%)		
		波豆川 (三田市) の整備	河道拡幅等 (中河原橋～護摩池) L=0.6 km	0.3 km	工事完了	—	—	—	—	護岸工 L=90m を実施	護岸工 L=41m を実施	—	—	累計 L=0.2km (進捗率 67%) ※H23 以前含む	
		山田川 (三田市) の整備	河道拡幅等 (山田滑谷ダム上流 1050m～砥石橋上流 500m) L=1.9 km	1.3 km	工事継続	工事継続	工事完了	—	護岸工 L=157m に着工 (H25 継続中)	護岸工 L=157m を実施 (H24 継続分の完了)	—	—	—	—	累計 L=1.1 km (進捗率 85%) ※H23 以前含む
		大池川 (三田市) の整備	河道拡幅等 (JR 福知山橋梁～国道176号上流 50m) L=0.16 km	0.1 km	工事完了	—	—	(国)176号福島橋架替下部工を実施	(国)176号福島橋架替完了 (H25.5) 護岸工事 L=10m	護岸工 L=32m を実施	護岸工 L=72m を実施	近接施工に伴い、JR との協議を実施	—	—	累計 L=0.13km (進捗率 130%) ※H23 以前含む
		相野川 (三田市) の整備	河道拡幅等 (洞橋～2級河川上流端) L=1.4 km	0.7 km	工事完了	—	—	—	右岸護岸工 L=110m を実施	集落基盤整備事業にあわせ詳細設計を実施	整備主体である土地改良区と整備内容や時期についての協議を実施	用地買収を実施	—	—	累計 L=0m (進捗率 0%) ※H24 は右岸のみの施工であるため累計には含めない
		武庫川及び真南条川 (篠山市) の整備	河床掘削等 (岩鼻橋～山崎橋) L=1.9 km	1.4 km	工事完了	—	—	調査・設計を実施	河床掘削工事 L=0.2km を実施	河床掘削工事 L=0.3km を実施	護岸工事 (左岸) L=0.07 km を実施	河床掘削工事 L=0.05km を実施	—	—	河床掘削延長 累計 L=0.55km (進捗率 39%) ※H26 は護岸工事延長のため、河床掘削累計延長には含めない
		波賀野川 (篠山市) の整備	河道拡幅等 (JR 福知山線橋梁～西角橋) L=0.4 km	—	工事着手	工事完了	—	—	—	調査・予備設計を実施	地元と法線等について合意形成	護岸詳細設計を実施	橋梁の詳細設計を実施	—	—

3. 点検・評価（C）（第1期 [H23~H27]）		
<p>点検・評価（C） H23</p> <ul style="list-style-type: none"> 大堀川：狭窄部となっている県道橋の架替工に着手した。今後も、引き続き実施していく。 荒神川：護岸工 12m を実施。事業の早期完了を目指し、今後も計画的な工事進捗を図る。 波豆川（宝塚市）：河川改修と関連する橋梁の改良について橋梁管理者と協議を実施した。今後も、継続して実施していく。 大池川：H23 に（国）176 号福島橋下部工、H24 に同上部工、H25 以降に福島橋部を除く護岸工を実施予定。 武庫川及び真南条川：武庫川（L=1.4km）について調査・設計を実施。H24 年度からの工事着手を目指す。 	<p>点検・評価（C） H24</p> <ul style="list-style-type: none"> 大堀川：狭窄部となっている県道橋の架替工を実施中。今後も、引き続き実施していく。 荒神川：護岸工 L=25m を実施。事業の早期完了を目指し、今後も計画的な工事進捗を図る。 波豆川（宝塚市）：河川改修と関連する橋梁の改良について橋梁管理者と協議し、橋梁予備設計及び土質調査を実施した。今後も、継続し事業進捗を図る。 波豆川（三田市）：H24 実績はなし。H25 は水利権者と調整し工事実施予定。 山田川：護岸工 L=157m を実施。 大池川：国道 176 号の福島橋が完了。H25 護岸工を実施予定。 相野川：洞橋上流右岸護岸 L=110m を施工。事業区間のうち、JR 相野駅周辺では土地区画整理事業が計画されているため、関係者（三田市等）との調整を行った。 武庫川及び真南条川：河床掘削工事（篠山市当野）L=0.2km を実施。引き続き、工事進捗を図る。 波賀野川：調査・予備設計を実施（L=0.4km） 	<p>点検・評価（C） H25</p> <ul style="list-style-type: none"> 大堀川：県道橋の架替工を継続。事業起点から県道橋までの護岸詳細設計を実施。今後は早期事業着手に向け事業進捗を図る。 荒神川：旧国道を挟んで、護岸工 L=25m を実施。今後も事業の早期完了を目指し工事進捗を図る。 波豆川（宝塚市）：河川改修と関連する橋梁については、道路管理者の県道改良計画と併せて橋梁詳細設計を実施中。今後も、継続し事業進捗を図る。 波豆川（三田市）：護岸工 L=90m を実施。 山田川：H24 から継続中であった護岸工 L=157m が完了。 大池川：国道 176 号の福島橋上流側の護岸工 L=32m を実施。H27 完了予定。 相野川：JR 相野駅周辺の集落基盤整備事業にあわせ相野川の付替えを含めた詳細設計に着手。事業評価をうけ、H26 から補助事業にて整備を行うことが決定する。 武庫川及び真南条川：河床掘削工事（篠山市当野）L=0.3km を実施。今後も計画的な工事進捗を図る。 波賀野川：地元説明等を実施し法線等の合意形成を図った。H25 は詳細設計に着手。
<p>点検・評価（C） H26</p> <ul style="list-style-type: none"> 大堀川：県道橋の架替工を継続。県道橋から上流側の護岸概略設計を実施。今後は県道橋下流側の護岸工着手に向け関係者との調整を図る。 荒神川：旧国道から上流側へ、護岸工約 50m を実施。今後も事業の早期完了を目指し工事進捗を図る。 波豆川（宝塚市）：河川改修と関連する橋梁については、道路管理者の県道改良計画と併せて橋梁詳細設計を継続実施。今後も計画的な事業進捗を図る。 波豆川（三田市）：護岸工 L=41m を実施。 山田川：（災害復旧工事を優先して実施） 大池川：護岸工 L=72m を実施、国道 176 号の福島橋上流側の工区完了。今後は JR と国道の間約 30m を実施し、完成を目指す。 相野川：JR 相野駅周辺土地改良区と整備内容、時期について調整。また、区画整理事業の用地費を負担し、用地買収を実施。 武庫川及び真南条川：護岸工事（篠山市当野）L=0.07km（左岸）を実施。今後も計画的な工事進捗を図る。 波賀野川：新規事業評価を受け、H27 から補助事業にて整備を行うことが決定。詳細設計完了。今後も計画的な工事進捗を図る。 	<p>点検・評価（C） H27</p> <ul style="list-style-type: none"> 大堀川：県道橋の架替工を継続。県道橋から上流側（国道函渠上流側までの区間）の護岸詳細設計を実施。今後は県道橋下流側の護岸工着手に向け関係者との調整を図る。 荒神川：川面橋から上流に護岸（右岸）40m 及び JR 宝塚線上流部 12m（両岸）を実施。今後も事業の早期完了を目指し工事進捗を図る。 波豆川（宝塚市）：H27 より県道改良事業に伴う橋梁架替工に着手。H28 以降は引き続き上下部工を実施する予定であり、今後も計画的な事業進捗を図る。 波豆川（三田市）：工事実施無し 山田川：工事実施無し 大池川：JR 福知山線と国道 176 号の間約 30m について、JR と近接の協議を開始。 相野川：JR 相野駅周辺の集落基盤整備事業の用地費を負担し、用地買収を実施。また、JR と近接工事についての協議を実施。 武庫川及び真南条川：河床掘削工事（篠山市当野）L=0.05km を実施。今後も計画的な工事進捗を図る。 波賀野川：橋梁の詳細設計を実施。今後も計画的な工事進捗を図る。 	

4. 改善（A）（第2期 [H28~H32] に向けて）		
<ul style="list-style-type: none"> 大堀川については、河道掘削工事に先行する形で、県道尼崎宝塚線の拡幅事業のスケジュールに合わせて、道路事業と共同で、第一小浜橋の架け替え工事を先行して実施しており、第1期目標には届かなかったが、河道掘削工事についての用地調査、詳細設計等は並行して実施。関連する道路事業とより一層連携して第一小浜橋の架け替えを進めるとともに、河道掘削工事にも着手し、事業推進を図る。 荒神川については、第1期計画延長 0.2 km に対し、0.3 km 完了（進捗率 150%）となっており、第1期目標を上回った。引き続き護岸整備を実施し、第2期での完了を目指す。 波豆川（宝塚市）については、主に橋梁架替のための協議や詳細設計を実施し、H27 年度には道路管理者による橋梁架替に着手した。河川改修の進め方としては橋梁架替後に護岸整備を実施することとしたため、第1期での護岸整備を実施することができなかった（第1期計画延長 0.3km に対し、0m 完了（進捗率 0%））。橋梁架替工事が完了次第護岸整備を実施し、第2期での完了を目指す。 波豆川（三田市）については、護岸工事を実施し、第1期計画延長 0.3 km に対し、0.2 km 完了（進捗率 67%）となっており、第1期目標には届かなかった。引き続き護岸整備を実施し、第2期での完了を目指す。 山田川については、護岸工事を実施し、第1期計画延長 1.3 km に対し、1.1 km 完了（進捗率 85%）となっており、平成 26 年度には災害復旧工事を優先して実施したことなどから第1期目標には届かなかった。今後は市事業による橋梁架替のスケジュールに合わせて護岸整備等を進める。 大池川については、近接工事に伴う関係者との協議を重ねながら、護岸工事を概ね順調に実施し、第1期計画延長 0.1 km に対し、0.13 km 完了（進捗率 130%）となっており、第1期目標を達成した。今後も引き続き護岸工事を実施し、第2期での完了を目指す。 相野川については、JR 相野駅周辺の集落基盤整備事業等、他事業にあわせて事業促進を図ったが、用地取得のための交渉に時間を要しており、第1期計画延長 0.7 km に対し、0m（進捗率 0%）となっており、第1期目標に届かなかった。今後も他事業にあわせて河川改修に取り組む必要があり、関係者との協議も必要なことから完了目標を第3期に見直し、引き続き取り組んでいく。 武庫川及び真南条川については、県内でも貴重な生物空間であるので、自然環境に配慮し生物調査を行いながら河川改修を実施したため、第1期計画延長 1.4 km に対し、0.55 km 完了（進捗率 39%）となっており、第1期目標には届かなかった。また、今後も生物調査を実施しながら施工を進める必要があるため、完了目標を第3期に見直し、引き続き取り組んでいく。 波賀野川については、第1期目標の工事着手はできなかったものの、工事着手に向けて護岸や橋梁の詳細設計を実施した。今後も引き続き、必要な設計・用地買収等を実施し早期の工事着手に努め、第2期での完了を目指す。 		

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項 1 河川対策 (1) 河道対策 ④ 上流部（羽東川合流点～本川上流端）及び支川	実施目標	計画高水位以下の洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。
	施策の概要		計画高水位以下の洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保するため、堤防強化対策を行う。

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)							
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)						
			第1期 (H23～H27)	第2期 (H28～H32)	第3期 (H33～H37)	第4期 (H38～H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期 (H23～H27) 計	
(1)河道対策	④上流部（羽東川合流点～本川上流端）及び支川	天王寺川（伊丹市、宝塚市）の整備	0.2 km	工事完了	—	—	—	—	—	—	0.2km 完了	—	累計 L=0.2 km (進捗率 100%)
		天神川（伊丹市、宝塚市）の整備	1.4 km (H22 迄 0.92 km 済)	工事継続	工事完了	—	0.04 km 完了 (H23 末までに全体で 0.96 km 完了)	0.08 km 完了 (H24 末までに全体 1.04 km 完了)	0.22 km 完了 (H25 末までに全体 1.26 km 完了)	0.20 km 完了 (H26 末までに全体 1.46 km 完了)	0.10 km 完了 (H27 末までに全体 1.56 km 完了)	—	累計 L=1.56 km (進捗率 111%) ※H23 以前含む

※工事着手には用地補償を含む

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23～H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 平成 21 年度から行っている堤防強化を継続して実施。今後も引き続き整備推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈天王寺川〉 ・天神川の期別計画(第1期)整備に概ねの目途が立つ、平成 26 年度頃から事業着手する。 〈天神川〉 ・堤防強化(L=80m)実施。期別計画(第1期)1.4km に対し、1.04km が完了。今後も引き続き整備推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈天王寺川〉 ・H26 年度事業着手予定。 〈天神川〉 ・堤防強化(L=220m)実施。期別計画(第1期)1.4km に対し、1.26km が完了。今後も引き続き整備推進に努める。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 〈天王寺川〉 ・堤防強化(L=200m)実施。事業完了。 ※精査の結果、残り 0.4km は堤防の安全性が確認されたため、今後は目地補修など通常の維持修繕を実施する。 〈天神川〉 ・堤防強化(L=200m)実施。期別計画(第1期)1.4km に対し、1.46km が完了。今後も引き続き整備推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈天王寺川〉 ・H26 年度に完了している。 〈天神川〉 ・堤防強化(L=100m)実施。期別計画(第1期)1.4km に対し、1.56 km が完了。今後も引き続き整備推進に努める。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28～H32] に向けて)
<ul style="list-style-type: none"> 天王寺川については、浸透水の排水を良くするため、堤防の宅地側法尻に碎石を埋め込むドレーン工事による堤防強化対策工事を実施し、第1期計画延長 0.2 km に対し、0.2 km 完了(進捗率 100%)となった。残り 0.4 km については、精査の結果、堤防の安全性が確認されたため、今後は目地補修など通常の維持修繕で対応していく。 天神川については、洪水が堤防に浸透することを防ぐため、川尻や法面に遮水シートとブロック張りを行う堤防強化対策工事を下流から順調に実施し、第1期計画延長 1.4 km に対し、1.56 km 完了(進捗率 111%)となっており、第1期の目標を達成することができた。第3期に工事完了ができるよう、今後も引き続き堤防強化対策工事を実施していく。国道 176 号線以北についても引き続き整備していくが、施工計画を見直し、より効率的な工事ができるよう努めていく。

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項 1 河川対策 (1) 河道対策 ⑤ 下流部築堤区間の堤防強化(南武橋～仁川合流点)	実施目標 計画高水位以下の洪水による浸透や侵食に対して十分な安全性を確保する。さらに、計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくする工法についても検討する。
	施策の概要 築堤区間全区間14.4kmを対象に、計画高水位以下の洪水に対するドレーン工法等の浸透対策、護岸工による侵食対策を実施する。また、計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくする浸透対策、侵食対策及び巻堤等による越水対策について検討し、可能なものから実施する。併せて、堤防に近接する一部の家屋等の対応についても検討する。	

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)						
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期 (H23～H27)	第2期 (H28～H32)	第3期 (H33～H37)	第4期 (H38～H42)	実績 (D)					
							H23	H24	H25	H26	H27	第1期 (H23～H27) 計
(1)河道対策 ⑤下流部築堤区間の堤防強化(南武橋～仁川合流点)	計画高水位以下の洪水に対する浸透対策、侵食対策	・ドレーン工法等の浸透対策(対策実施延長L=7.3km [*]) ・護岸工による侵食対策(対策実施延長L=6.2km [*])	工事継続(浸透対策) L=6.1km [*] (侵食対策) L=0.7km [*]	工事完了(浸透対策) L=1.2km [*] (侵食対策) L=5.5km [*]	-	-	<浸透対策> 約0.7km完了(H23末までに全体で約2.8km完了) <侵食対策> <侵食対策> 要対策区間の抽出検討に着手	<浸透対策> 約0.6km完了(H25.5月末時点) [尼崎市武庫町、大島、西宮市日野町] (全体で約3.4km完了) <侵食対策> 約0.3km完了(H25.5月末時点) (全体で約0.3km完了)	<浸透対策> 約2.5km完了(H26.5月末時点) [尼崎市常松、武庫豊町、武庫元町、南武庫之荘、稲葉荘、大庄西町、西宮市樋ノ口町、小松東町、小松南町] (全体で約5.9km完了) <侵食対策> 約0.1km完了(H26.5月末時点) (全体で約0.4km完了)	<浸透対策> 約0.2km完了(H27.5月末時点) [西宮市日野町] (全体で約6.1km完了) <侵食対策> 約0.2km完了(H27.5月末時点) (全体で約0.6km完了)	<浸透対策> 約0.1km完了(H28.5月末時点) [西宮市上田市] (全体で約6.2km完了) <侵食対策> 約0.1km完了(H28.5月末時点) (全体で約0.7km完了)	<浸透対策> 累計L=約6.2km(進捗率102%) <侵食対策> 累計L=約0.7km(進捗率100%)
	計画高水位以上の洪水に対する被害緩和対策	・計画高水位以上の洪水に対して堤防を決壊しにくくする浸透対策 ・侵食対策及び巻堤等による越水対策	-	-	計画高水位以下の洪水に対する浸透・侵食対策の完了後、可能なものから実施		-	-	-	-	-	-
	堤防に近接する一部の家屋等の対応	堤防に近接する一部の家屋等の対応	家屋等の近接状況を把握し、対応方法について検討	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※今後実施する詳細設計の結果、対策実施延長は変動する。

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23～H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> H14 に実施した堤防安全性の概略検討で比較的安全性が低いと判定した4.4kmの区間のうち、その後の詳細検討により緊急度が高いとした箇所については、全て対策を完了している(浸透対策)。 しかしながら、侵食対策を含めた要対策区間が多く残されていることから、事業の進捗速度を上げて取り組みを進める。 津波対策、耐震対策については、東日本大震災を受けての国の検討を踏まえ、県で詳細な検討を行い、対策が必要となった場合には速やかに実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 約0.6kmの浸透対策を完了した。また、概略検討時の対策不要区間に対して詳細検討に着手。引き続き、浸透に対する堤防の安全性を確保する取り組みを進める。 侵食対策について、詳細設計業務に着手。 津波対策について、津波遡上解析に着手。今後、津波遡上解析の結果を踏まえ、必要に応じて対策を検討していく。 耐震対策について、「レベル2地震動に対する河川堤防の耐震点検マニュアル」等に基づき、耐震点検に着手。今後、必要に応じて適切な対策を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 約2.5kmの浸透対策を完了した。引き続き、浸透に対する堤防の安全性を確保する取り組みを進める。 侵食対策について、詳細設計業務を完了した。 南海トラフ巨大地震の津波遡上解析を実施し、堤防からの津波越流はないという結果を得た。 耐震対策について、「レベル2地震動に対する河川堤防の耐震点検マニュアル」に基づく点検を実施し、堤防の耐震対策は不要という結果を得た。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 約0.2kmの浸透対策を完了した。 浸透対策は累計約6.1km、侵食対策は累計約0.6kmが完了となった。 引き続き、浸透・侵食対策を行い、堤防の安全性を確保する取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 約0.1kmの浸透対策を完了した。 浸透対策は累計約6.2km、侵食対策は累計約0.7kmが完了となった。 引き続き、浸透・侵食対策を行い、堤防の安全性を確保する取り組みを進める。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28～H32] に向けて)
<ul style="list-style-type: none"> 流下能力の低い下流部築堤区間の安全性向上は喫緊の課題であり、その中で堤防強化対策については、順調に工事を実施し、浸透対策では第1期計画延長6.1kmに対して6.2km完了(進捗率102%)、侵食対策では第1期計画延長0.7kmに対して0.7km完了(進捗率100%)となっており、第1期目標を達成することができた。今後も引き続き浸透・侵食対策を積極的に推進し、第2期での完了を目指す。 堤防に近接する一部の家屋等の対応については、今後も近接状況を把握し、引き続き対応方法について検討していく。

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 1 河川対策 (2) 洪水調節施設の整備 ① 武庫川遊水地の整備 ② 青野ダムの活用	実施目標 遊水地の整備と青野ダムの活用により、甲武橋基準点において 280m ³ /s の洪水調節を行う。		
	<p>施策の概要</p> <p>武庫川本川と羽東川の合流点下流の武庫川上流浄化センター内の用地の一部を転用し、遊水地整備を実施する。 また、既設青野ダムにおいて、予備放流により確保する洪水調節容量を現在よりも 40 万 m³ 拡大する（予備放流開始雨量の設定等についての試行結果を踏まえ、操作規則を適切に変更）。</p> <p>甲武橋地点流量配分</p> <table border="1"> <tr> <td>①武庫川遊水地の整備</td> <td>0→20m³/s</td> </tr> <tr> <td>②青野ダムの活用</td> <td>220→260m³/s</td> </tr> </table>		①武庫川遊水地の整備	0→20m ³ /s
①武庫川遊水地の整備	0→20m ³ /s			
②青野ダムの活用	220→260m ³ /s			

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)						
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)					
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
(2)洪水調節施設の整備	①武庫川遊水地の整備	遊水地整備	遊水地整備	工事着手	工事完了	-	-	測量・用地境界確認を実施するとともに予備設計に着手。	下水道都市計画変更及び予備設計が完了。	詳細設計に着手。	詳細設計が完了。	掘削工事に着手。
	②青野ダムの活用	洪水調節容量の拡大	洪水調節容量の拡大 (操作規則の適切な変更)	試行操作の継続 (事前放流量を 20 万 m ³ から 40 万 m ³ に拡大)	洪水調節容量の拡大 (事前放流量を 20 万 m ³ から 40 万 m ³ に位置付け)	-	-	基準雨量*に達した 5 洪水について事前放流 (20 万 m ³) を実施。うち 2 洪水については、事前放流実施中に基準雨量を下回ったこと、また青野ダム下流部で水位が上昇したため、事前放流を中止した。	基準雨量*に達する洪水がなかったため、事前放流は未実施。H23 年度、事前放流中に青野ダム下流部で水位が上昇する事象があったことから、事前放流の一時中止基準について検討を行った。	基準雨量*に達する洪水は H25.9.15~16 に発生したが、事前放流の前に洪水調節の実施に至ったため、事前放流は未実施。事前放流の一時中止基準を設定し、事前放流マニュアルに追加。	基準雨量*に達した 1 洪水 (H26.8.9~10 の台風第 11 号) について事前放流 (20 万 m ³) を実施。	基準雨量*に達する洪水は H27.7.16~18 に発生したが、青野ダム下流部で水位が上昇していたため、事前放流は未実施。

※基準雨量：今後 12 時間の予測累加雨量が 20 mm を超えると予測され、かつ、現時刻までの累加雨量と今後 12 時間の予測累加雨量の合計が 80 mm を超えると予測される時。

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<p><武庫川遊水地></p> <ul style="list-style-type: none"> 予備設計を進めるとともに、H24 年度の下水道都市計画変更に向けた関係者調整にも取り組む。 <p><青野ダム></p> <ul style="list-style-type: none"> 5 洪水で事前放流を実施した。事前放流量 20 万 m³ から 40 万 m³ の拡大に向けて利水事業者との協議に必要な試行回数概ね 10 回を確保するため、引き続き、試行操作を継続する。 	<p><武庫川遊水地></p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道都市計画変更及び予備設計が完了した。今後、詳細設計の着手に向けて地質調査や関係者協議 (下水道管理者、神戸市) を進める。 <p><青野ダム></p> <ul style="list-style-type: none"> 事前放流操作を開始する雨量に達する洪水がなかったため、H24 年度の事前放流は実施していない。今後も引き続き、データの蓄積に努めていく。 H23 年度、事前放流中にダム下流の水位が上昇した事象があったことを踏まえ、より適切な試行操作が実施できるよう事前放流の一時中止基準の見直しについて、利水事業者と協議を進める。 	<p><武庫川遊水地></p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細設計に着手。水理模型実験を実施し洪水時の本川・遊水池の水理条件を把握したうえで設計に反映させて、遊水池の形状、容量規模など具体的な本体構造を決定する。 <p><青野ダム></p> <ul style="list-style-type: none"> 青野ダムについては、H25.9.15~16 に事前放流操作を開始する雨量に達する洪水があったが、事前放流開始の前に洪水調節の実施に至ったため、事前放流は実施していない (H25 年度に事前放流は未実施)。今後も引き続き、データの蓄積に努めていく。 事前放流の一時中止基準について検討。ダム下流の河川水位の状況を考慮した一時中止基準を設定し、事前放流マニュアルに追加した。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<p><武庫川遊水地></p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細設計が完了。遊水池の形状、容量規模など具体的な本体構造を決定した。早期完成に向け、事業推進を図る。 <p><青野ダム></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 洪水で事前放流を実施した。事前放流量 20 万 m³ から 40 万 m³ の拡大に向けて利水事業者との協議に必要な試行回数概ね 10 回を確保するため、引き続き、試行操作を継続する。(累計 6 洪水で実施済み) 事前放流は渇水リスクや下流部の水位上昇への影響等の検証が必要 	<p><武庫川遊水地></p> <ul style="list-style-type: none"> 掘削工事に着手。早期完成に向け、事業推進を図る。 <p><青野ダム></p> <ul style="list-style-type: none"> 青野ダムについては H27 年度の事前放流は未実施。事前放流量 20 万 m³ から 40 万 m³ の拡大に向けて利水事業者との協議に必要な試行回数概ね 10 回を確保するため、引き続き、試行操作を継続する。(累計 6 洪水で実施済み) 事前放流は渇水リスクや下流部の水位上昇への影響等の検証が必要 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)
<p><武庫川遊水地の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> 武庫川遊水地の整備については、第 1 期 (H23~H27) において、水理模型実験を含む詳細設計を実施したうえで遊水地の形状・容量規模等の諸元を決定し、掘削工事に着手しており、概ね順調に進んでいる。 第 2 期 (H28~H32) においても、引き続き掘削工事を進めるとともに、市道の取り付け等に関する管理者 (神戸市) 協議など必要となる関係者協議を並行して進め、早期完成 (H30 年度) に向け、より一層の事業推進を図る。 <p><青野ダムの活用></p> <ul style="list-style-type: none"> 青野ダムについては、第 1 期 (H23~H27) において、事前放流量 20 万 m³ から 40 万 m³ の拡大に向けて利水事業者との協議に必要な試行回数概ね 10 回のうち 6 回を実施済みで、概ね順調に進んでいる。 第 3 期には事前放流量 40 万 m³ の拡大が達成されるよう、引き続き試行操作を継続していく。 また、事前放流の実施に合わせて、渇水リスクや青野ダム下流部の水位上昇への影響等について検証を行うためのデータの蓄積に努めていく。

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 1 河川対策 (2) 洪水調節施設の整備 ③ 洪水調節施設の継続検討</p>	<p>実施目標</p> <p>河川整備基本方針の目標達成に向けたさらなる洪水に対する安全度の向上策の検討。</p>
<p>施策の概要</p> <p>千苜ダムの治水活用や武庫川峡谷での新規ダム建設等について、その必要性・実現可能性の検討を継続し、具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについて検討する。</p>		

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)					
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
<p>(2) 洪水調節施設の整備</p> <p>③ 洪水調節施設の継続検討</p>	<p>さらなる洪水に対する安全度の向上等の検討</p>	<p>・千苜ダム治水活用や新規ダム建設等の必要性・実現可能性の検討</p>	<p>(千苜ダム) ・治水活用の検討に必要なデータ蓄積 ・治水活用に必要施設改造や水質への影響、治水活用に伴う損失補償の取り扱い等について検討</p>				<p>(千苜ダム) ・千苜ダム地点の降雨データ等（流入量や放流量など）を蓄積 ・H23年台風第12号、15号の洪水被害を踏まえ、事前放流等による暫定的な治水活用について神戸市に協力依頼し、水道事業に支障のない範囲で協力する旨、回答を得た。 (新規ダム) 現地植栽しているサツキ、アオヤギバナ他4種のモニタリング、カギカズラの現地植栽、ヒナラン・イワチドリの栽培実験を実施</p>	<p>(千苜ダム) ・千苜ダム地点の降雨データ等（流入量や放流量など）を蓄積 ・事前放流等による暫定的な治水活用についての検討に着手。 (新規ダム) 現地植栽しているサツキ、アオヤギバナ他5種のモニタリング、ヒナラン・イワチドリの現地植栽を実施</p>	<p>(千苜ダム) ・千苜ダム地点の降雨データ等（流入量や放流量など）を蓄積 ・事前放流に必要となる施設の概略検討、および事前放流による貯水池内の水質への影響を把握するためのシミュレーションを実施中 (新規ダム) 現地植栽しているサツキ、アオヤギバナ他7種のモニタリングを実施</p>	<p>(千苜ダム) ・千苜ダム地点の降雨データ等（流入量や放流量など）を蓄積 ・事前放流に必要となる施設の概略検討、および事前放流による貯水池内の水質への影響を把握するためのシミュレーションを実施中 (新規ダム) 現地植栽しているヒメウラジロ他6種のモニタリングを実施</p>	<p>(千苜ダム) ・千苜ダム地点の降雨データ等（流入量や放流量など）を蓄積 ・事前放流に必要となる施設の概略検討、および事前放流による貯水池内の水質への影響や水道水源としての水量確保（バックアップ）の方法について管理者である神戸市と協議を実施（継続）。 (新規ダム) ・現地植栽しているヒメウラジロ他6種のモニタリングを実施 ・ヒトブの整備</p>

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])			点検・評価 (C) H24			点検・評価 (C) H25		
点検・評価 (C) H23			点検・評価 (C) H24			点検・評価 (C) H25		
<p><千苜ダム> ・平成23年度においては、台風第12号、15号といった大型の台風があったものの、千苜ダム流域においては、大きな降雨とはならなかったことから、中小規模の洪水時水文データの蓄積に留まった。引き続き、データ蓄積を継続する。 ・事前放流による治水活用等について、神戸市と協議を行う。 <新規ダム> ・「植物植生調査」については、引き続き、モニタリング等を実施する。</p>	<p><千苜ダム> ・千苜ダム流域においては、平成24年度は大きな降雨とはならなかったことから、中小規模の洪水時水文データの蓄積に留まった。引き続き、データ蓄積を継続する。 ・事前放流による治水活用については、新たな放流設備の規模や設置場所、事前放流の操作方法等についての検討に着手した。 <新規ダム> ・「植物植生調査」については、引き続き、モニタリング等を実施する。</p>	<p><千苜ダム> ・千苜ダム流域においては、平成25年度は9月の洪水時等の水文データを収集した。引き続き、データ蓄積を継続する。 ・事前放流による治水活用については、事前放流に必要となる設備の概略検討に着手するとともに、事前放流による貯水池内の水質への影響を把握するためのシミュレーションに着手した。 <新規ダム> ・「植物植生調査」については、引き続き、モニタリング等を実施する。</p>						
<p>点検・評価 (C) H26</p> <p><千苜ダム> ・千苜ダム流域においては、平成26年度は8月の洪水時等の水文データを収集した。引き続き、データ蓄積を継続する。 ・事前放流による治水活用については、事前放流に必要となる設備の概略検討や、事前放流による貯水池内の水質への影響を把握するためのシミュレーションを実施中である（継続中）。 <新規ダム> ・「植物植生調査」については、引き続き、モニタリング等を実施する。</p>	<p>点検・評価 (C) H27</p> <p><千苜ダム> ・千苜ダム流域においては、平成27年度は7月の洪水時等の水文データを収集した。引き続き、データ蓄積を継続する。 ・治水活用については、大雨の直前に放流する事前放流方式では、放流量が大きく貯水池内の水質に影響を及ぼすことが懸念されるため、現在運用している洪水制限水位から、夏期にあらかじめ時間をかけて徐々に放流し、さらに低下させた水位を維持して貯留容量を確保する運用を、管理者である神戸市へ提案し、水質への影響や水道水源としての水量確保（バックアップ）の方法について協議を進めている。 <新規ダム> ・「植物植生調査」については、引き続き、モニタリング等を実施する。 ・峡谷の貴重植物を対象として、実験的に小規模なヒトブを「バード」住宅跡地に整備した。現時点では順調に生育しており、引き続きモニタリング等を実施する。</p>							

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)
<p><千苜ダム> ・利水専用ダムである千苜ダムの治水活用については、水道水源としての使用に支障とならないことが前提であり、治水活用による貯水池内の水質への影響や、水位・水量が回復しない場合のバックアップの方法等についてさらなる具体的な検討が必要である。早期実現に向けて、今後も引き続き管理者である神戸市と協議を行っていく。</p> <p><新規ダム> ・植物植生調査については、貴重植物9種について現地での植栽実験を実施しており、このうち5種の実験が平成27年度までに完了し、概ね順調に進んでいる。 ・引き続き、残り4種の実験を継続するとともに、移植の可否等について確認していく。 ・さらに、武庫川峡谷の貴重植物の保全の取組みをPRするため、また、峡谷の貴重植物が減少した場合の供給源を峡谷外に確保することの可否について確認するため、実験的に小規模なヒトブを整備した。 ・現時点では順調に生育しており、引き続きモニタリング等を実施する。</p>

河川整備計画の事項・項目

第4章 河川整備の実施に関する事項
 第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項
 2 流域対策
 (武庫川流域総合治水推進計画の内容も考慮)

実施目標

「武庫川流域総合治水推進計画」と整合を図り、流域内の学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の設置を考慮して、流出抑制量を甲武橋基準点において 30m³/s とする。
 また、付加的な流出抑制効果が期待できる様々な流出抑制対策についても、流域市等と連携し、住民の理解と協力を得て取り組んでいく。

施策の概要

「武庫川流域における総合的な治水対策の推進に関する要綱」に基づき、県及び流域市で構成する「武庫川流域総合治水推進協議会」を設置して、「武庫川流域総合治水推進計画」を策定し、県と流域市が協力して整備を進める。

1. 期別計画 (P)			期別計画 (P)				2. 実績 (D)					
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)					
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	第1期 (H23~H27) 計
2. 流域対策	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	推進計画の着実な推進 (推進協議会を設置し、推進計画を策定済み [H22.11])				<ul style="list-style-type: none"> ・県市共同で「協議会」を設置し、「推進計画」を策定済 (H22.11) ・専門部会3回、幹事会、推進協議会を開催 ・「武庫川流域総合治水推進計画流域対策実施計画(H23~H27)」を策定 (H24.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を2回開催 ・条例に基づく推進計画を策定 (H25.3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会1回、幹事会を開催し、「武庫川流域総合治水推進計画流域対策実施計画(H28~H32)」を策定 (H28.3) ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	-
(1) 貯留施設の設置による流出抑制対策の実施	学校、公園、ため池等を利用した貯留施設等の整備	学校・公園・ため池等を利用した貯留施設等の整備(貯留量約64万m ³)	約5.7万m ³ 着手(7箇所) (注)	整備継続		整備完了	約0.3万m ³ (注) 着手(学校2箇所) [累計約0.4万m ³ (注) 着手] (H23年度までに公園1箇所、学校2箇所)	累計約1.0万m ³ (注) 着手 (累計：公園1箇所、学校3箇所着手)	累計約1.5万m ³ (注) 着手 (累計：公園1箇所、学校6箇所、その他1箇所着手)	累計約1.8万m ³ (注) 着手 (累計：公園1箇所、学校8箇所、その他1箇所着手)	累計約2.0万m ³ (注) 着手 (累計：公園1箇所、学校9箇所、その他1箇所着手)	累計約2.0万m ³ (注) 着手 (進捗率35%)
(2) 様々な流出抑制対策の推進	① 調整池設置指導	「調整池指導要領及び技術基準」に基づく設置指導	条例による義務化				<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく重要調整池の設置に関する技術的基準の検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく重要調整池の設置に関する技術的基準策定 (H25年3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要調整池の設置に関する技術的基準の適合確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要調整池の設置に関する技術的基準の適合確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要調整池の設置に関する技術的基準の適合確認 ・重要調整池の設置に関する技術的基準の適合確認 ・重要調整池の設置：2箇所(調整容量約4.2万m³) 	-
		流出抑制機能の更なる強化に向けた検討										<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象面積の引き下げ ・調整池の恒久化等
	② 森林保全と公益的機能向上	森林の水源地機能、土砂流出防止機能など公益的機能の維持・向上	人工林の間伐等(関係機関連携・住民連携) 急傾斜地等にある間伐対象人工林の表土侵食防止対策 高齢人工林の広葉樹林への一部誘導(混交林整備)	事業計画を策定し、順次実施(但し計画策定は県民局単位)				312ha (注)	85ha (注)	108ha (注)	392ha (注)	361ha (注)
無秩序な伐採・開発行為の規制等を通じた森林の適正な保全		保安林・林地開発許可制度の適切な運用	事業計画を策定し、順次実施(但し計画策定は県民局単位)	(今後検討)			125ha (注)	41ha (注)	37ha (注)	269ha (注)	274ha (注)	-
			100ha 着手 (注) (篠山市域での施工面積)	(今後検討)			30ha 着手 (注) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (注) (累計60ha) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (注) (累計90ha) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (注) (累計120ha) (篠山市域での施工面積)	-	累計120ha 着手 (注) (進捗率120%)
			継続して適切な運用を実施				適切な運用を実施	適切な運用を実施	適切な運用を実施	適切な運用を実施	適切な運用を実施	-

※ 100ha=1km²
(次ページに続く)

<凡例> (注)：武庫川流域内の合計値、(注)：関係4県民局の合計値、(注)：流域7市域全体の合計値

(前ページから続き)

河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)					
			第 1 期 (H23~H27)	第 2 期 (H28~H32)	第 3 期 (H33~H37)	第 4 期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
(2) 様々な流出抑制対策の推進	② 森林保全と公益的機能向上	豪雨時に発生する土砂崩壊や流木の流出による河川埋塞や橋梁部の閉塞による洪水被害の防止	砂防事業による流木・土砂災害防止対策	H25 までに 3 箇所 (流) 着手	(今後検討)		1 箇所 (流) 着手 (累計 1 箇所 (流) 着手)	2 箇所 (流) 着手 (累計 3 箇所 (流) 着手) ※期別計画分完了	-	-	1 箇所 (流) 着手 (累計 4 箇所 (流) 着手)	累計 4 箇所 (流) 着手 (進捗率 133%)
		治水事業等による流木・土砂災害防止対策	H25 までに 29 箇所 (流) 着手	(今後検討)		13 箇所 (流) 着手 (累計 13 箇所 (流) 着手)	14 箇所 (流) 着手 (累計 27 箇所 (流) 着手)	8 箇所 (流) 着手 (累計 35 箇所 (流) 着手)	8 箇所 (流) 着手 (累計 43 箇所 (流) 着手)	13 箇所 (流) 着手 (累計 56 箇所 (流) 着手)	累計 56 箇所 (流) 着手 (進捗率 193%)	
	③ 水田への雨水貯留	水田の持つ多面的機能の維持・向上	水田の保全 (関係機関連携・農業者連携)	10, 141ha (市) 優良農地 (農振農用地)	継続	(今後検討)	10, 123ha (市)	10, 121ha (市)	10, 099ha (市)	10, 093ha (市)	10, 098ha (市)	10, 098ha (市) (進捗率 99.6%)
		水田貯留の実施	課題解決に向けた取り組み等の検討	農業者への普及啓発と、推進方策の検討・実施			実施に向け課題を整理	水田貯留に係る広報チラシを作成し、普及啓発を実施	水田貯留の普及に向け、千種川流域で実証実験を実施、併せて県下全域を対象とした「せき板 1000 枚配布大作戦」の内容を検討	H26 年度は神戸市北区八多町 (八多川) でせき板を配布	H27 年度は神戸市北区道場町 (八多川) 等でせき板を配布	-
	④ その他の雨水貯留・浸透の取り組み	その他公共施設での雨水貯留・浸透施設の設置促進	公共施設での貯留・浸透施設の設置	公共施設での貯留浸透施設の整備を検討・実施			県営住宅で 1 箇所着手済	県営住宅で設置促進 (累計 1 箇所整備中、2 箇所検討中)	県営住宅で設置促進 (累計 1 箇所整備中、2 箇所検討中)	県営住宅で設置推進 (累計 1 箇所整備中、3 箇所検討中)	県営住宅で設置推進 (累計 1 箇所整備中、3 箇所検討中)	-
			各戸への雨水貯留タンクの設置	普及啓発に努め、設置を促進			助成基数 144 件 (市) (西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) [累計 763 件 (市)]	助成基数 174 件 (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) [累計 937 件 (市)]	助成基数 173 件 (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) [累計 1, 110 件 (市)]	助成基数 111 件 (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市の合計) [累計 1, 221 件 (市)]	・助成基数 84 件 (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市の合計) [累計 1, 305 件 (市)] ・県庁舎において、PR 用雨水貯留タンクの設置 (県下 12 基) (県)	-
			道路側溝等の浸透化	道路側溝・宅内排水等の浸透化推進策について検討・実施			・「浸透側溝設置ガイドライン」を策定 (県) ・約 4.5km (市) (尼崎市；市及び開発者) [累計約 149km (市)]	・「浸透側溝設置ガイドライン」改訂版を策定 (県) ・約 8.9km (市) (尼崎市；市及び開発者) [累計約 158km (市)]	・約 2.5km (市) (尼崎市；市及び開発者) [累計約 160km (市)]	・約 6.2km (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市) [累計約 166km (市)]	・約 4.8km (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市) [累計約 171km (市)]	-
			透水性舗装	歩道整備に併せ整備を推進			H16 年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16 年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16 年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16 年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16 年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	-

※ 100ha=1km²

<凡例> (流) : 武庫川流域内の合計値、(市) : 関係 4 県民局の合計値、(市) : 流域 7 市域全体の合計値

(前ページから続き)

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])

点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none">貯留施設については、H23.3に県立甲山森林公園の整備を完了し、H23年度には県立高校2校で工事着手した。今後は、条例をよりどころに学校側の理解と協力を得るなど、さらなる貯留量確保に向けて取り組んでいく。調整池の設置指導については、総合治水条例で1ha以上の開発に伴う設置及び保全の義務化を行うこととした。今後、H25.4の施行に向けて、新しい指導要領及び技術的基準を策定し、設置指導を実施していく。付加的効果が期待できる公益的機能の維持・向上については、新ひょうごの森づくり、災害に強い森づくり計画、山地防災・土砂災害対策緊急5箇年計画等に基づき、整備に努めた。今後も引き続き土地所有者の協力を得ながら整備を推進していく。各戸貯留についてはH23年度末迄の助成累積基数が流域全域全体で764基であり、総合治水に対する住民の意識向上を図るためにも引き続き推進する必要がある。浸透施設(道路側溝、宅内排水等)整備については民間開発者の協力も得て、尼崎・西宮・伊丹の各市で取り組みが進んでおり、特に尼崎市域ではH23年度末迄に累計約150kmの実績があるなど、浸透施設整備への取り組みが展開されている。	<ul style="list-style-type: none">貯留施設については、H24年度末時点で県立高校2校(宝塚東、阪神昆陽)の整備が完了、県立高校1校(三田西陵高校)で事業着手した。総合治水条例の普及啓発を図りながら、目標貯留量確保に向けて取り組んでいく。調整池の設置指導については、重要調整池設置に関する技術基準を作成し、開発部局や市町と連携しながら、引き続き開発行為に伴う流出抑制に努めていく。土砂崩壊や流木の流出を防止する砂防・治山事業については、5箇年計画に基づき、整備の進捗に努めた。また、水源かん養機能の維持・向上に資する森林整備については、前年度から実績値は減少したものの、期別計画の整備目標値を達成すべく、引き続き整備に取り組んでいく。各戸貯留については、尼崎市で新たに助成制度が設けられるなど、流域全体での取り組みを引き続き推進していく。浸透施設(道路側溝、宅内排水等)整備については、尼崎市で民間開発者の協力も得て約9kmの整備が実施されるなど、今後も引き続き整備に努めていく。	<ul style="list-style-type: none">貯留施設は、県立高校1校(三田西陵)で整備が概成したが、湛水実績を踏まえて改善工事を実施中である。また、県立高校3校(西宮甲山、北摂三田、宝塚北)と県有地1箇所(三田カキヤカウ太陽光発電所)で事業に着手した。引き続き、総合治水条例の普及啓発を図りながら、目標貯留量確保に向けて取り組んでいく。森林保全は、人工林の間伐や表土浸食防止を促進するとともに、篠山市域では計画に基づき混交林整備を進めた。今後も引き続き水源涵養機能と土砂流出防止に努めていく。土砂崩壊や流木の流出を防止する砂防・治山事業は、5箇年計画に基づき、整備の進捗に努めた。各戸貯留は、流域市の助成件数が累計1,100を越えるなど、着実に実績が増加している。今後も広報媒体を活用した普及啓発を図りながら、引き続き推進していく。浸透施設(道路側溝、宅内排水等)整備については、尼崎市で民間開発者の協力も得て約2.5kmの整備が実施されるなど、今後も引き続き整備に努めていく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none">貯留施設は、県立高校2校(西宮甲山、北摂三田)、県有地1箇所(三田カキヤカウ太陽光発電所)で整備が完了した。また、県立高校2校(神戸北、有馬)に着手した。引き続き、総合治水条例の普及啓発を図りながら、目標貯留量確保に向けて取り組んでいく。森林保全は、人工林の間伐や表土浸食防止を促進するとともに、篠山市域では計画に基づき混交林整備を進めた。今後も引き続き水源涵養機能と土砂流出防止に努めていく。土砂崩壊や流木の流出を防止する砂防・治山事業は、第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画(H26年3月)に基づき、引き続き整備に取り組む。神戸市北区八多町(八多川)で桝板を配布し、武庫川流域においても水田貯留の取り組みを推進。各戸貯留は、流域市の助成件数が累計1,200を越えるなど、着実に実績が増加している。今後も広報媒体を活用した普及啓発を図りながら、引き続き推進していく。浸透施設(道路側溝、宅内排水等)整備については、尼崎市、西宮市、伊丹市で約6.2kmの整備が実施されるなど、今後も引き続き整備に努めていく。	<ul style="list-style-type: none">貯留施設は、県立高校2校(神戸北、有馬)の詳細設計を完了した。また、県立高校1校(三田祥雲館)に着手した。引き続き、総合治水条例の普及啓発を図りながら、目標貯留量確保に向けて取り組んでいく。総合治水条例に基づき開発者に対し適切な指導を行い、重要調整池が2箇所(調整容量約4.2万m³)設置された。引き続き、県関係部局及び流域市と連携を図りながら開発者を指導する。森林保全は、人工林の間伐や表土浸食防止を促進するとともに、篠山市域では計画に基づき混交林整備を進めた。今後も引き続き水源涵養機能と土砂流出防止に努めていく。土砂崩壊や流木の流出を防止する砂防・治山事業は、第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画(H26年3月)に基づき、引き続き整備に取り組む。神戸市北区道場町(八多川)等で桝板を配布し、武庫川流域においても水田貯留の取り組みを推進。各戸貯留は、流域市の助成件数が累計1,300を越えるなど、着実に実績が増加している。県庁舎においてPR用雨水貯留タンクを設置。今後も広報媒体を活用した普及啓発を図りながら、引き続き推進していく。浸透施設(道路側溝、宅内排水等)整備については、尼崎市、西宮市、伊丹市で約4.8kmの整備が実施されるなど、今後も引き続き整備に努めていく。	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32]) に向けて)

- 第1期(H23~H27)において、貯留施設の整備については、校庭貯留等を先行して実施している状況であるなかで、着手箇所数は目標以上であるが、貯留量約5.7万m³に対し実績約2.0万m³と未達成である。未達成の原因は、1箇所あたりの貯留量が個々の校庭の状況等により当初見込みより小さいことが主たる原因である。しかしながら流域対策推進における学校教育やPRについては、効果が大きいいため、平成28年3月に策定した「武庫川流域総合治水推進計画流域対策実施計画(H28~H32)」に基づき県市で更に取り組んでいく。
- また、今後は1箇所あたりの貯留量が確保されやすいため池の整備を含め、貯留施設の整備に引き続き取り組んでいく。
- なお、学校・公園・ため池等の貯留施設整備には施設所有者の理解と協力が不可欠であること、水田貯留については水田への貯留に関する農業者の不安(畦や作物への影響)があることなどの課題があり、流域対策の必要性について関係部局等と連携し理解を求めていく。
- 調整池については、総合治水条例に基づく「重要調整池の設置に関する技術的基準(H25年3月)」を策定し、開発者に対し適切な指導を行った。引き続き、県関係部局及び流域市と連携を図りながら開発者を指導していく。
- 森林保全と公益的機能向上については、第1期(H23~H27)は当初の計画を達成した。第2期(H28~H32)においても、引続き推進していく。
- 調整池設置、森林保全と公益的機能向上、水田への雨水貯留、その他雨水貯留・浸透施設の設置等の取り組みなどの様々な流出抑制対策については、県関係部局、流域市と連携し推進しており、引き続き連携を緊密にしながら取り組みを推進していく。

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第1節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項 3 減災対策 (武庫川流域総合治水推進計画の内容も考慮)</p>	<p>実施目標</p> <p>計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力以上の洪水が発生した場合でも、人的被害の回避・軽減及び県民生活や社会経済活動への深刻なダメージの回避を目指し洪水被害を軽減させる。</p>
<p>施策の概要</p>	<p>減災対策については、計画規模を上回る洪水や整備途上段階での施設能力以上の洪水、いわゆる超過洪水により、河川から洪水があふれ出る可能性があることを認識し、以下の対策を進める。 (1) 水害リスクに対する認識の向上 (知る) (2) 情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る) (3) 的確な避難のための啓発 (逃げる) (4) 水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)</p>	

1. 期別計画 (P)				2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)					
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
3. 減災対策	「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 「武庫川流域総合治水推進計画」の策定	・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定 【県、市】	推進計画の着実な推進 (推進協議会を設置し、推進計画を策定済み [H22.11])				<ul style="list-style-type: none"> ・県市共同で「協議会」を設置し、「推進計画」を策定済 (H22.11) ・専門部会3回、幹事会、推進協議会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を2回開催 ・条例に基づく推進計画を策定 (H25.3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会」を1回開催 	
(1) 水害リスクに対する認識の向上(知る)	①水害リスクを知る機会を提供	住民が水害リスクを知る機会を多く提供	我がまちを歩く体験型講座の開催等 【県、市】	体験型講座の開催と手づくりHM作成等の促進				<ul style="list-style-type: none"> ・県2回(回)(シンポジウム、減災対策講習会)、市12回(回)(我がまちを歩く体験型講座等)開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・市8回(回)(我がまちを歩く体験型講座等)開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・市26回(回)(我がまちを歩く体験型講座等)開催 ・県は手づくりHM作成のポイント等をまとめた啓発パンフを作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・市42回(回)(我がまちを歩く体験型講座等)開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・市25回(回)(我がまちを歩く体験型講座等)開催
	②水害リスクを知るツールの整備	水害リスクを知るツールの整備	水害リスクを正確に理解でき、わかりやすいハザードマップ(以下、HM)への改良・強化【市】 CGHMで整備した映像等の継続公開【県】と活用方法の検討【市】	HMの改良及び内水HMの作成・公表				<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市及び三田市で各種HM改良、尼崎市で内水HMを作成(流域7市はHM作成済であり、H22迄に適宜改訂している) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市、伊丹市及び宝塚市でHM改訂【避難所等追加】 ・神戸市、尼崎市、西宮市、三田市、篠山市で内水HM作成済(既存HMに浸水実績を掲載したものを含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市及び宝塚市でHM改訂【防災啓発記事等追加】 ・神戸市、尼崎市、西宮市、宝塚市、三田市、篠山市で内水HM作成済(既存HMに浸水実績を掲載したものを含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市及び三田市でHM改訂【マップを地区別に分割等】 ・神戸市、尼崎市、西宮市、宝塚市、三田市、篠山市で内水HM作成済(既存HMに浸水実績を掲載したものを含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市でHM改訂【避難の流れや情報の入手方法等が分かりやすくなるような紙面改訂】 ・神戸市、尼崎市、西宮市、宝塚市、三田市、篠山市で内水HM作成済(既存HMに浸水実績を掲載したものを含む)
	③防災の担い手となる人材の育成	行政、住民、NPO等様々な主体の防災の担い手を育成	ひょうご防災リガー講座等の研修や防災に関する出前講座の実施【県、市】 行政担当職員に対する研修の充実【県、市】	住民やNPO等への研修及び出前講座の継続実施				<ul style="list-style-type: none"> ・県26回(防災リガー講座(県)、出前講座(市))、市210回(市)の研修会等を開催 ・防災リガー講座修了者117人(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県28回(防災リガー講座(県)、出前講座(市))、市170回(市)の研修会等を開催 ・防災リガー講座修了者184人(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県58回(防災リガー講座(県)、出前講座(市))、市171回(市)の研修会等を開催 ・防災リガー講座修了者73人(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県79回(防災リガー講座(県)、出前講座(市))、市189回(市)の研修会等を開催 ・防災リガー講座修了者74人(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県51回(防災リガー講座(県)、出前講座(市))、市168回(市)の研修会等を開催 ・防災リガー講座修了者95人(市)
				行政職員を対象にした研修の継続実施及び充実				<ul style="list-style-type: none"> ・県12回(回)、市16回(市)の研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・県10回(回)、市35回(市)の研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・県8回(回)、市28回(市)の研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・県10回(回)、市29回(市)の研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・県10回(回)、市30回(市)の研修会を開催
(2) 情報提供体制の充実と水防体制の強化(守る)	①避難情報の伝達	市及び住民の避難判断の支援	防災情報の提供体制の充実【県】	雨量、河川水位、河川監視画像、洪水予報、氾濫予測等の情報の継続発信及び充実				<ul style="list-style-type: none"> ・河川監視カメラ6基の増設、氾濫予測システムの整備を実施し、各種防災情報を継続発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は氾濫予測システムの運用を実施、各種防災情報を継続発信 ・ツイッター等による情報配信(尼崎市、西宮市)、緊急速報メール(尼崎市、三田市、篠山市)の継続配信、全国瞬時警報システム(Jアラート)の緊急情報をコミュニティFMから自動配信が可能に(宝塚市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は氾濫予測システムの運用を継続実施、各種防災情報を継続発信 ・ツイッター等による情報配信(尼崎市、西宮市)、緊急速報メール(尼崎市、三田市、篠山市)の継続配信、Jアラートの緊急情報をコミュニティFMから自動配信(宝塚市)、屋外拡声器を増設(尼崎市、伊丹市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県は氾濫予測システムの運用を継続実施、各種防災情報を継続発信 ・防災啓発ポータルサイトの開設等(神戸市)、緊急告知ラジオ購入費補助の充実等(西宮市)、防災訓練時に緊急速報メール等の提供体制の確認(伊丹市)、インターネットと災害時協定を締結し避難所情報や被害情報を掲載する仕組みを構築(宝塚市) 	

(2) 情報提供体制の充実と水防体制の強化(守る)	①避難情報の伝達	避難勧告等に関する情報を迅速に提供(市)	同報無線・移動無線の充実【市】	無線施設の整備促進及び適切な維持管理の実施	既存設備(406基)の適切な維持管理を実施	市で85基(市)の無線を整備(累計491基)	市で5基(市)の無線を整備(累計496基)	市で31基(市)の無線を整備(累計527基)	市で84基(市)の無線を整備(累計611基)	
	②河川情報の伝達	武庫川下流部における「洪水予報」の実施(気象台共同)	「洪水予報」の実施【県】	「洪水予報」の継続実施	・洪水予報河川に指定(H22.9) ・「洪水予報」の継続実施	「洪水予報」の継続実施	「洪水予報」の継続実施	「洪水予報」の継続実施	「洪水予報」の継続実施	
	②河川情報の伝達	迅速な避難活動の支援<水防上重要な箇所>	増水する河川の画像情報の提供・配信【県】	サイレン・回転灯の設置【県】	河川監視カメラ増設及び継続配信	既設の4基に加え、6基を新たに整備し継続配信を実施	河川監視カメラ(10基)による継続配信を実施	河川監視カメラ(10基)による継続配信を実施	河川監視カメラ(10基)による継続配信を実施	河川監視カメラ(10基)による継続配信を実施
			水防活動や避難勧告等の発令の支援	洪水時の水位予測等の配信【県】	市の避難勧告発令等を支援する水位予測等の継続配信	サイレン、回転灯を的確に作動させ、河川利用者等への注意喚起を実施	水位予測に加え、氾濫予測情報、河川監視画像等の情報を継続配信	水位予測に加え、氾濫予測情報、河川監視画像等の情報を継続配信	水位予測に加え、氾濫予測情報、河川監視画像等の情報を継続配信	水位予測に加え、氾濫予測情報、河川監視画像等の情報を継続配信
			地上デジタル放送等を利用した水位情報等の配信	地上デジタル放送等を利用した水位情報等の配信【県】	多様な手段による水位情報等の配信	国土交通省HP「川の防災情報」に加え、新たにNHK、テレビのデータ放送で水位及び雨量情報の配信を開始	HP「川の防災情報」、データ放送による水位・雨量情報の継続配信を実施	HP「川の防災情報」、データ放送による水位・雨量情報の継続配信を実施	HP「川の防災情報」、データ放送による水位・雨量情報の継続配信を実施	HP「川の防災情報」、データ放送による水位・雨量情報の継続配信を実施
	③水防体制の強化	大規模洪水時における職員の危機管理能力及び地域防災力の向上	実践的な演習の実施【県、市】	行政及び地域による実践的な演習の実施	県1回(県)((洪水を想定した図上訓練)、市15回(土のう積訓練等)を実施	県3回(県)(洪水を想定した図上訓練1回、災害時情報伝達訓練2回)、市13回(土のう積訓練等)を実施	県2回(県)(公共コモンズ)県域全体訓練2回)、市12回(土のう積訓練、避難所運営訓練等)を実施	県2回(県)(公共コモンズ)県域全体訓練2回)、市7回(土のう積訓練、避難所運営訓練等)を実施	県1回(県)(公共コモンズ)県域全体訓練1回)、市16回(土のう積訓練、避難所運営訓練等)を実施	
		防災態勢の強化(市)	県、防災関係機関と連携した防災訓練の実施【市】	県や防災機関と連携した訓練の実施	17回実施(県)	3回実施(県)	4回実施(県)	7回実施(県)	11回実施(県)	
	①自助の取組の推進	住民が被害に遭わないために必要な知識の啓発	住民主体で作成したHM等のより一層の利活用【市】	地域の学習会や防災訓練での手づくりHM等の活用	・地域の防災学習会や訓練等で手づくりHMを活用(西宮市、篠山市) ・上層階避難判断に活用できる危険度マップ作成について県市で検討	・市政出前講座や防災学習等で手づくりHMを活用(西宮市、篠山市)	・市政出前講座や防災学習等で手づくりHMを活用(西宮市、三田市、篠山市)	・市政出前講座や防災学習等で手づくりHMを活用(西宮市、伊丹市、三田市、篠山市)	・市政出前講座や防災学習等で手づくりHMを活用(西宮市、伊丹市、宝塚市)	
		各種防災情報の入手方法の啓発	「ひょうご防災ネット」への加入促進等【県】	「ひょうご防災ネット」等の新規登録件数40,000件/年(H25迄)(県)の確保 ※H26以降の目標:120,000件/年	H23 新規登録件数146,200件(県)	H24 新規登録件数109,100件(県)	H25 新規登録件数132,500件(県)	H26 新規登録件数128,000件(県)	H27 新規登録件数92,000件(県)	
		水害発生時の災害時要援護者の円滑な避難(市)	地区内で住民同士が助け合う取組の促進【市】	災害時要援護者の円滑な避難に資する取り組み方策等の検討・実施	災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化等の取り組みを実施(西宮市、伊丹市、三田市、篠山市)	・災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化等の取り組みを継続実施(西宮市、伊丹市、三田市、篠山市) ・災害時要援護者支援連絡会を設置(尼崎市) ・災害時要援護者支援指針(案)を策定(宝塚市)	・災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化等の取り組みを継続実施(神戸市、西宮市、伊丹市、三田市、篠山市) ・災害時要援護者の名簿作成等に向けた準備(尼崎市) ・災害時要援護者避難行動支援マニュアルを策定(宝塚市)	・災害時要援護者支援登録台帳等の整備、情報共有化等の取り組みを継続実施(神戸市、西宮市、伊丹市、三田市、篠山市) ・災害時要援護者支援を盛り込んだ防災訓練の実施(三田市)など		
(3)的確な避難のための啓発(逃げる)	②共助の取組の推進	住民の避難判断の支援	再掲 防災情報の提供体制の充実【県】	雨量、河川水位、河川監視画像、洪水予報、氾濫予測等の情報の継続発信及び充実	河川監視カメラ6基の増設、氾濫予測システムの整備を実施し、各種防災情報を継続発信	・県は氾濫予測システムの運用を継続発信 ・ツイッター等による情報発信開始(尼崎市、西宮市)、緊急速報メール運用開始(尼崎市、三田市)	・県は氾濫予測システムの運用を継続実施、各種防災情報を継続発信 ・ツイッター等による情報発信(尼崎市、西宮市、宝塚市)、緊急速報メール(尼崎市、三田市、篠山市)の継続配信、全国瞬時警報システム(Jアラート)の緊急情報をコミュニティFMから自動配信が可能に(宝塚市)	・県は氾濫予測システムの運用を継続実施、各種防災情報を継続発信 ・ツイッター等による情報発信(尼崎市、西宮市、宝塚市)、緊急速報メール(尼崎市、三田市、篠山市)の継続配信、Jアラートの緊急情報をコミュニティFMから自動配信(宝塚市)、チャットの配布(神戸市)、定期放送の充実(西宮市)、屋外拡声器を増設(尼崎市、伊丹市)	・県は氾濫予測システムの運用を継続実施、各種防災情報を継続発信 ・防災啓発ポータルサイトの開設等(神戸市)、緊急告知ラジオ購入費補助の充実等(西宮市)、防災訓練時に緊急速報メール等の提供体制の確認(伊丹市)、インターネットと災害時協定を締結し避難所情報や被害情報を掲載する仕組みを構築(宝塚市)	
										③公助の取組の推進

(3)的確な避難のための啓発(逃げる)	③公助の取組の推進	住民の避難判断の助けとなるような公助の取組(市)	・隣接市間で避難情報の共有 ・隣接市の避難所の相互活用 の検討【市】	避難情報の共有化と避難所相互活用のための仕組みの検討	県市による災害時応援協定の締結(H18.11)	・阪神地域広域避難計画研究会の設置(H25.2月) ・緊急退避所[児童擁護施設、病院]の新設(神戸市) ・津波避難ビルの指定及び洪水時活用(尼崎市、西宮市)	・第2回阪神地域広域避難計画研究会を開催(H25.10月) ・津波避難ビルの指定及び洪水時活用促進(尼崎市、西宮市)	・第3回阪神地域広域避難計画研究会に向けた検討会を開催(H26.11月、H27.2月) ・津波避難ビルの指定及び洪水時活用促進(尼崎市、西宮市) ・各種協定を締結(西宮市)	・第3回阪神地域広域避難計画研究会を開催(H27.11月:最終会) ・津波避難ビルの指定及び洪水時活用促進等(尼崎市、西宮市)
		避難経路等の屋外表示の検討【市】	避難経路等の屋外表示の検討	避難経路や避難所に関する情報の屋外表示を検討(西宮市、伊丹市)	・指定避難所に災害別明示や地盤高表示板を設置(西宮市) ・市内掲示板に避難所方向、距離等を示したステッカー掲載(伊丹市) ・避難所の屋外教示は避難所指定時に実施済(尼崎市)	・指定避難所に災害別明示や地盤高表示板を設置(西宮市) ・市内掲示板に避難所方向、距離等を示したステッカー掲載(伊丹市) ・避難所の屋外教示は避難所指定時に実施済(尼崎市)	・指定避難所に災害別明示や地盤高表示板を設置(西宮市) ・市内掲示板に避難所方向、距離等を示したステッカー掲載(伊丹市)	・指定避難所に災害別明示や地盤高表示板を設置(西宮市) ・市内掲示板に避難所方向、距離等を示したステッカー掲載(伊丹市)	・広域避難地看板を設置(西宮市) ・市内掲示板に避難所方向、距離等を示したステッカー掲載(伊丹市)
(4)水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え(備える)	①水害に備えるまちづくりへの誘導	水害に備えたまちづくりの実現に向けた検討	・水害リスクに対する認識の向上 ・減災のための土地利用や上層階避難が可能でかつ堅牢な建物への誘導等【県、市】	危険度マップの作成と同マップの活用	・県市で危険度マップ作成について検討 ・市は出前講座等で地域の水害リスクを提示し、啓発を実施	県は危険度マップの基礎データ(流速、浸水深)の整理・分析を実施	県は国マニュアル改訂に合わせて、浸水想定区域図改訂版の検討に着手	・県は国マニュアル改訂に合わせて、浸水想定区域図の作成を検討中 ・尼崎市で各種災害のハザードマップを盛り込んだ「尼崎市防災ブック」を作成するなど各市で実施	・県は水防法改正を踏まえた浸水想定区域図の作成を検討中 ・出前講座での住民啓発活動や開発業者へのHM確認依頼等を各市で実施 ・上層階への避難訓練等(尼崎市)
		②重要施設の浸水対策	浸水による建築物の被害を未然に防止し、水害に備えたりまちづくりへの誘導を図る	建築物の耐水化等の検討・実施	県は建物等の耐水機能に関する指針策定について検討	県は総合治水条例に基づく「建物等の耐水機能に関する指針」策定(H24.8)	県は「建物等の耐水機能に関する指針」により耐水化を促進	・県は「建物等の耐水機能に関する指針」により耐水化を促進 ・市防災センター、市庁舎において自家発電装置を屋上階に設置する等耐水化を実施(伊丹市、三田市)	・県は「建物等の耐水機能に関する指針」により耐水化を促進 ・市防災センター屋上に設置した自家発電機・燃料槽の点検等耐水化施設の維持管理(伊丹市)など
	③水害に備える共済制度への加入促進	水害に対する共済制度への加入促進	「フェニックス共済」等への加入促進【県】	フェニックス共済加入率15% (県) (当面の目標)	加入率8.5% (県) (うち、6.1% (市))	加入率8.8% (県) (うち、6.3% (市))	加入率9.0% (県) (うち、6.5% (市))	加入率9.2% (県) (うち、6.6% (市))	加入率9.3% (県) (うち、6.8% (市))

<凡例> (県) : 全県の合計値、(市) : 関係4県民局全体の合計値、(市) : 流域7市域全体の合計値、(圏) : 武庫川流域+ (尼崎・西宮両市の南部地域) の合計値

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 【水害リスクに対する認識の向上 (知る)】 県ではシンポジウムや減災対策講習会を開催、神戸市、西宮市、三田市、篠山市では体験型講座を開催するなど、住民が水害リスクを知る機会の提供に努めた。また、市においてはHM改良や内水HMの作成、モデル地区での手づくりHM作成を推進した。今後も県市共同で水害リスクの認識向上に努めていく。 【情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る)】 県では6基の河川監視カメラを新設するとともに、水位情報等をTVのデータ放送でも配信を開始するなど、防災情報提供の充実にも努めた。また、県と市は洪水に関する実践的な演習や訓練を実施し、水防体制の強化を図った。今後、県と市は提供する情報及び演習・訓練のさらなる充実にも努めていく。 【的確な避難のための啓発 (逃げる)】 西宮市、伊丹市、三田市、篠山市では災害時要援護者の避難を支援する台帳の整備や情報の共有化に努めたほか、西宮市及び伊丹市では避難経路や避難所の屋外表示等の検討を行った。今後も住民が的確に避難するための取り組みを推進していく。 【水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)】 県と市は水害に備えるまちづくりへの誘導を図るため、危険度マップ作成について検討を進めたほか、市においては出前講座等で地域の水害リスクに関する啓発に努めた。今後、県と市は引き続き水害に備えるための方策を検討し、実施に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【水害リスクに対する認識の向上 (知る)】 尼崎市・西宮市・伊丹市・三田市では、住民自らが自分たちのまちを歩きながら手づくりのハザードマップを作成するなど、地域の水害リスクを知る機会の提供に努めた。また、県市では防災の担い手となる人材育成のため、研修会や出前講座を精力的に開催した。今後も県市共同で水害リスクの認識向上及び人材育成の推進に努めていく。 【情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る)】 県は氾濫予測システムの運用を実施するとともに、河川監視カメラ等による防災情報の提供に努めた。尼崎市及び西宮市では、Twitter等による防災情報の配信を開始するとともに、尼崎市及び三田市では緊急速報メールの運用を開始した。今後、県と市は住民に提供する防災情報のさらなる充実にも努めていく。 【的確な避難のための啓発 (逃げる)】 各市では災害時要援護者の避難を支援する方策(台帳整備や情報共有、指針策定等)を実施。また県と市は大規模災害の発生時に備え、広域避難研究会を設置し、広域避難のあり方について検討を進めることとした。今後も住民が安全かつスムーズに避難するための取り組みを推進していく。 【水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)】 県は浸水による建築物への被害を未然に防止するため、「建物等の耐震機能に関する指針」を策定した。今後、県と市は水害に備えるための方策を引き続き検討し、実施に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【水害リスクに対する認識の向上 (知る)】 尼崎市・西宮市・伊丹市・三田市・篠山市では、住民自らが自分たちのまちを歩きながら手づくりのハザードマップを作成するなど、地域の水害リスクを知る機会の提供に努めた。また、県と市では防災の担い手となる人材育成のため、研修会や出前講座を精力的に開催した。今後も県市共同で水害リスクの認識向上及び人材育成の推進に努めていく。 【情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る)】 県は氾濫予測システムの運用を継続し、精度検証するとともに、河川監視カメラ等による防災情報の提供に努めた。尼崎市及び西宮市では、Twitter等による防災情報の配信、尼崎市及び三田市では緊急速報メールの運用を継続、宝塚市では、全国瞬時警報システム(Jアラート)の緊急情報をコミュニティFMから自動配信可能とする整備を実施した。今後、県と市は住民に提供する防災情報のさらなる充実にも努めていく。 【的確な避難のための啓発 (逃げる)】 神戸市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市、篠山市では災害時要援護者の避難を支援する方策(台帳整備や情報共有、指針策定等)を実施。また県と市は大規模災害の発生時に備え、広域避難研究会を設置し、広域避難のあり方について検討を進めることとした。今後も住民が安全かつスムーズに避難するための取り組みを推進していく。 【水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)】 県は洪水ハザードマップ作成マニュアルの改訂を踏まえ、流速を加味した浸水想定区域図を作成するための検討に着手した。今後、県と市は水害に備える対策を幅広く検討し、実施していく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 【水害リスクに対する認識の向上 (知る)】 尼崎市・西宮市・伊丹市・三田市・篠山市では、住民自らが自分たちのまちを歩きながら手づくりのハザードマップを作成するなど、地域の水害リスクを知る機会の提供に努めた。また、県と市では防災の担い手となる人材育成のため、研修会や出前講座を精力的に開催した。今後も県市共同で水害リスクの認識向上及び人材育成の推進に努めていく。 【情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る)】 県は氾濫予測システムの運用を継続し、精度検証するとともに、河川監視カメラ等による防災情報の提供に努めた。尼崎市ではLineで緊急情報等の発信を開始、宝塚市ではFacebook、Twitterによる防災イベント開催情報等啓発情報の発信を開始、伊丹市では難聴地域への対応として屋外拡声器の増設を行うなど、各市において防災情報提供体制の充実を図った。今後も県・市ともに住民に提供する防災情報のさらなる充実にも努めていく。 【的確な避難のための啓発 (逃げる)】 神戸市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市、篠山市では災害時要援護者の避難を支援する方策(台帳整備や情報共有、マニュアル策定等)を実施。今後も住民が安全かつスムーズに避難するための取り組みを推進していく。 【水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)】 県は洪水ハザードマップ作成マニュアルの改訂を踏まえ、浸水想定区域図改訂版の検討を進めた。伊丹市では防災センターにおいて、三田市では新庁舎において自家発電装置を庁舎の屋上に設置するなど浸水対策を行った。今後、県と市は水害に備える対策を幅広く検討し、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【水害リスクに対する認識の向上 (知る)】 尼崎市・西宮市・伊丹市・三田市・篠山市では、住民自らが自分たちのまちを歩きながら手づくりのハザードマップを作成するなど、地域の水害リスクを知る機会の提供に努めた。また、県と市では防災の担い手となる人材育成のため、研修会や出前講座を精力的に開催した。今後も県市共同で水害リスクの認識向上及び人材育成の推進に努めていく。 【情報提供体制の充実と水防体制の強化 (守る)】 県は氾濫予測システムの運用を継続し、精度検証するとともに、河川監視カメラ等による防災情報の提供に努めた。神戸市では市民が気軽に楽しく防災について学ぶことができるよう防災啓発ポータルサイトを開設、宝塚市ではインターネットサイトで避難所情報や被害情報を閲覧出来る仕組みを構築するなど、各市において防災情報提供体制の充実を図った。今後も県・市ともに住民に提供する防災情報のさらなる充実にも努めていく。 【的確な避難のための啓発 (逃げる)】 神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市、篠山市では災害時要援護者の避難を支援する方策(台帳整備や情報共有、マニュアル策定等)を実施。今後も住民が安全かつスムーズに避難するための取り組みを推進していく。 【水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え (備える)】 県は水防法改正を踏まえた浸水想定区域図の作成を検討中。伊丹市では防災センターの庁舎屋上に設置した自家発電機や燃料槽の定期点検を実施するなど耐水化施設の適正な維持管理に努めた。今後、県・市は水害に備える対策を幅広く検討し、実施していく。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)
<p>(1)水害リスクに対する認識の向上(知る)についての取組みとして、我がまちを歩く体験型講座の開催(手作り HM の作成)を通して住民が水害リスクを知る機会の提供、地域の防災リーダー育成のための講座や防災に関する出前講座の開催を通して防災の担い手となる人材の育成などを県・市ともに積極的に進めている。</p> <p>(2)情報提供体制の充実と水防体制の強化(守る)についての取組みとして、河川情報(雨量・河川水位・カメラ画像等)の提供に努めるとともに、実践的な防災訓練を通して防災体制の充実を図っている。</p> <p>(3)的確な避難のための啓発(逃げる)についての取組みとして、住民の的確な避難行動につながるよう、自助・共助・公助の取組みを各主体の立場で推進している。</p> <p>(4)水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え(備える)についての取組みとして、防災マップ等を活用して水害リスク等の掲示・啓発することにより水害に備えたまちづくりへの誘導や重要施設の浸水対策(庁舎の屋上に自家発電機を設置等)に努めている。武庫川流域市フェニックス共済の加入率が県平均より低いことから、PRに努め加入促進に取り組む。</p> <p>上記(1)~(4)の減災対策の取組みを、第2期(H28~H32)においても引き続き推進していくとともに、より一層の充実を図る。</p>

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項	実施目標	既存の水利用や流れの連続性の確保、動植物の生活環境や景観の保全などを考慮しつつ、合理的な水利用を促進することによって、より豊かな流量の確保に努める。
	第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 1 正常流量の確保 (1) 流水利用の適正化 (2) 適正な水利用		
施策の概要	河川の流況については、生瀬大橋地点で過去12年間(平成5~16年)の最小の濁水流量が1.43m ³ /sであり、概ね正常流量(1.5m ³ /s)を満足しているが、より豊かな流量を確保するため、流水利用の適正化、適正な水利用の推進によって合理的な水		

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
(1) 流水利用の適正化	流水利用の適正化	農業用水の慣行水利権の取水実態の把握	取水実態の把握	-	-	-	武庫川水系に220件の慣行水利権があり、この内の15件が事業予定箇所が存在することを把握	-	-	慣行水利権を許可水利権へ切替えた事により、慣行水利権が1件減少した(全219件中15件が事業予定箇所)	-
		農業用水の慣行水利権から許可水利権への切替等	取水施設の改築や治水事業の施行等の機会をとらえ、利水者の理解と協力を得て許可水利権への切り替えを進める。				点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	1件の慣行水利権を許可水利権へ切替えた。	点検指標に該当する事案がなかったため未実施
(2) 適正な水利用	適正な水利用の推進(関係機関連携)	節水の啓発・水利用の合理化	普及啓発に努めるとともに、水利用施設等の適切な維持管理を行うことにより、漏水の防止・有収率の向上を図る。				ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施。なお、自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。	ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施。なお、自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。	ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施。なお、自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。	ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施。なお、自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。	ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施。なお、自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。
		雨水・再生水利用の促進	普及啓発に努め、雨水・再生水利用を促進				雨水タンク助成基数144件(西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) 下水処理水を街路樹への散水等に有効利用(西宮市、尼崎市)	雨水タンク助成基数174件(尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) 下水処理水を街路樹への散水等に有効利用(西宮市、尼崎市)	雨水タンク助成基数173件(尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市の合計) 下水処理水を街路樹への散水等に有効利用(西宮市、尼崎市)	雨水タンク助成基数111件(尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市の合計) 下水処理水を街路樹への散水等に有効利用(西宮市、尼崎市)	雨水タンク助成基数84件(尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市の合計) 下水処理水を街路樹への散水等に有効利用(西宮市、尼崎市)

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])	
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24
<ul style="list-style-type: none"> 事業予定箇所に存在する15件の慣行水利権については、河川改修の機会等を捉え許可水利権への切り替えに努める。 残る205件については、取水施設の改築の機会等をとらえ、許可水利権への切り替えについて、理解と協力を求めていく。 節水の啓発については、今後も引き続き、ホームページでの啓発に取り組む。 自治体毎の有収率を確認し、有収率が著しく悪化した場合には、水道事業者に原因説明や改善を要請する。 今後も引き続き、節水の啓発、水利用の合理化に努めるとともに、助成制度を活用した各戸への雨水貯留タンクの普及を促進するなど適切な水利用の推進に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> H24年度については、正常流量1.5m³/sを確保できた。 引き続き、事業予定箇所に存在する15件の慣行水利権については、河川改修の機会等を捉え許可水利権への切り替えに努める。 残る205件については、取水施設の改築の機会等をとらえ、許可水利権への切り替えについて、理解と協力を求めていく。 節水の啓発については、今後も引き続き、ホームページでの啓発に取り組む。 自治体毎の有収率を確認し、有収率が著しく悪化した場合には、水道事業者に原因説明や改善を要請する。 今後も引き続き、節水の啓発、水利用の合理化に努めるとともに、助成制度を活用した各戸への雨水貯留タンクの普及を促進するなど適切な水利用の推進に取り組む。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27
<ul style="list-style-type: none"> H26年度については、正常流量1.5m³/sを概ね確保できた。今後もより豊かな流量の確保に努める。 事業予定箇所に存在する15件の慣行水利権については、河川改修の機会等を捉え許可水利権への切り替えに努める。(なお、整備計画事業予定箇所ではないが、慣行水利権を許可水利権へ1件切り替えた。) 節水の啓発については、今後も引き続き、ホームページでの啓発に取り組んでいく。 自治体毎の有収率を確認し、有収率が著しく悪化した場合には、水道事業者に原因説明や改善を要請する。 今後も引き続き、節水の啓発、水利用の合理化に努めるとともに、助成制度を活用した各戸への雨水貯留タンクの普及を促進するなど適切な水利用の推進に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> H27年度については、正常流量1.5m³/sを概ね確保できた。今後もより豊かな流量の確保に努める。 事業予定箇所に存在する15件の慣行水利権については、河川改修の機会等を捉え許可水利権への切り替えに努める。 節水の啓発については、今後も引き続き、ホームページでの啓発に取り組んでいく。 自治体毎の有収率を確認し、有収率が著しく悪化した場合には、水道事業者に原因説明や改善を要請する。 今後も引き続き、節水の啓発、水利用の合理化に努めるとともに、助成制度を活用した各戸への雨水貯留タンクの普及を促進するなど適切な水利用の推進に取り組む。

4. 改善（A）（第2期 [H28～H32] に向けて）

- ・農業用水の慣行水利権の取水実態の把握については、第1期で実態を把握できた。把握した事業予定箇所が存在する慣行水利権については、河川改修の機会等を捉え、引き続き許可水利権への切り替えに努める。
- ・節水の啓発・水利用の合理化については、ホームページによる節水啓発、老朽管の更新や漏水調査、管路巡視等により適切な維持管理を実施した。また自治体毎の有収率に大きな変動はなかった。今後も自治体毎の有収率を確認し、有収率が著しく悪化した場合には、水道事業者の原因説明や改善を要請する。
- ・雨水・再生水利用の促進については、助成制度を活用した各戸への雨水貯留タンクの普及を促進するなど適切な水利用の推進に取り組んだ。今後も継続して実施していく。

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項	実施目標	渇水時の被害の最小化。 震災などにおける河川水利用の円滑化。
	第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 2 緊急時の水利用 (1) 渇水調整および広域的水融通の円滑化 (2) 緊急時の河川水利用		
施策の概要	渇水時には、渇水調整会議等を設置し、利水者間の相互調整が円滑に行われるよう努める。また、関係機関および利水者と連携して、水道施設の広域化による渇水時の水道水源や供給量の安定性向上に取り組む。震災などの緊急時には、河川水を利用できるよう配慮する。		

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
(1) 渇水調整および広域的水融通の円滑化	利水者間の相互調整の円滑化	(渇水時) 渇水調整会議*等における利水者への必要な情報提供、取水制限等の調整	渇水の状況に応じて実施				点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施
	広域的な水融通の円滑化 (関係機関連携・利水者連携)	給水ネットワークの整備	水需要の動向を踏まえ実施				水需要の増加がなかったため未実施	水需要の増加がなかったため未実施	水需要の増加がなかったため未実施	水需要の増加がなかったため未実施	水需要の増加がなかったため未実施
(2) 緊急時の河川水利用	緊急時の河川水利用の円滑化	(緊急時) 消火用水や生活用水等としての河川水の取水への配慮、ダムからの緊急放流等	緊急時の状況に応じて実施				点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施	点検指標に該当する事案がなかったため未実施

※渇水時に渇水調整会議を設置することについては、県及び関係機関において規約を制定済

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])			点検・評価 (C) H24		点検・評価 (C) H25	
点検・評価 (C) H23 ・ 渇水や震災等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置や河川水の緊急時利用等は必要なかった。 ・ 給水ネットワークの整備については、現在の水需要において既存施設でのバックアップが可能のため、当面の間、事業着手は行わない。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。			・ 渇水や震災等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置や河川水の緊急時利用等は必要なかった。 ・ 給水ネットワークの整備については、現在の水需要において、既存の浄水場や給水車等の組合せによりバックアップが可能のため、当面の間、事業着手は行わない。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。		・ 渇水や震災等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置や河川水の緊急時利用等は必要なかった。 ・ 給水ネットワークの整備については、現在の水需要において、既存の浄水場や給水車等の組合せによりバックアップが可能のため、当面の間、事業着手は行わない。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。	
点検・評価 (C) H26 ・ 渇水や震災等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置や河川水の緊急時利用等は必要なかった。 ・ 給水ネットワークの整備については、現在の水需要において、既存の浄水場や給水車等の組合せによりバックアップが可能のため、当面の間、事業着手は行わない。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。			点検・評価 (C) H27 ・ 渇水や震災等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置や河川水の緊急時利用等は必要なかった。 ・ 給水ネットワークの整備については、現在の水需要において、既存の浄水場や給水車等の組合せによりバックアップが可能のため、当面の間、事業着手は行わない。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。			

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)	
・ 利水者間の相互調整の円滑化については、渇水時等に渇水調整会議を実施するなど利水者への必要な情報提供、取水制限等の調整を行うこととしているが、第1期では渇水等による被害が発生しなかったため、渇水調整会議の設置は必要なかった。今後、渇水等の状況に応じて必要な対策を実施していく。 ・ 広域的な水融通の円滑化については、第1期については水需要の増加がなかった。また、現在の水需要においては既存施設でバックアップが可能のため、当面の間は給水ネットワークの整備について事業着手はしないこととした。今後、水需要の動向を踏まえ、必要に応じて整備を行う。 ・ 緊急時の河川水利用の円滑化について、震災時等の緊急時には河川水を利用できるよう配慮することとしているが、第1期については震災等による被害は発生しなかったため、河川水の緊急利用は必要なかった。今後、震災等の状況に応じて必要な対策を実施していく。	

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項	実施目標	兵庫県の水に関する総合的な指針である「ひょうご水ビジョン」に基づく、健全な水循環系の確保
	第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 3 健全な水循環の確保		
施策の概要	流域水循環の把握に努めるとともに、実効性のある取り組みを実施する。 なお、地下水かん養は、河川流量確保に寄与する要素のひとつと考えられることから、この保全に取り組む。		

河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				2. 実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	実績 (D)				
							H23	H24	H25	H26	H27
3. 健全な水循環の確保	流域水循環の把握	流域水循環の把握	流域水循環把握に必要なデータの収集				雨量、水位、低水量、高水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積。	雨量、水位、低水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積。	雨量、水位、低水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積。	雨量、水位、低水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積。	雨量、水位、低水量、地下水位、県管理ダム貯水位等のデータを蓄積。
	森林、農地、ため池の整備や適正な管理 (関係機関連携)	再掲 人工林の間伐等 (関係機関連携・住民連携)	事業計画を策定し、順次実施 (但し計画策定は県民局単位)				312ha (市)	85ha (市)	108ha (市)	392ha (市)	361ha (市)
		再掲 急傾斜地等にある間伐対象人工林の表土侵食防止対策	事業計画を策定し、順次実施 (但し計画策定は県民局単位)		(今後検討)		125ha (市)	41ha (市)	37ha (市)	269ha (市)	274ha (市)
		再掲 高齢人工林の広葉樹林への一部誘導 (混交林整備)	100ha 着手 (市) (篠山市域での施工面積)		(今後検討)		30ha 着手 (市) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (市) (累計60ha) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (市) (累計90ha) (篠山市域での施工面積)	30ha 着手 (市) (累計120ha) (篠山市域での施工面積)	-
		再掲 水田の保全 (関係機関連携・農業者連携)	10, 141ha (市) 優良農地 (農振農用地)		継続 (今後検討)		10, 123ha (市)	10, 121ha (市)	10, 099ha (市)	10, 093ha (市)	10, 098ha (市)
	ため池の保全	ひょうご農林水産ビジョンに基づくため池の保全・整備				県単独緊急ため池整備事業制度の創設	県単独緊急ため池整備事業及びため池定期点検事業の実施	県単独緊急ため池整備事業及びため池定期点検事業の実施	ため池整備事業及びため池定期点検事業の実施	ため池整備事業及びため池定期点検事業の実施	
	貯留浸透施設の整備 (関係機関連携)	再掲 透水性舗装	歩道整備に併せ整備を推進				H16年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済	H16年より、県下全域で透水性舗装を標準仕様として適用済
		再掲 浸透ます等の整備 (道路側溝の浸透化)	道路側溝・宅内排水等の浸透化推進策について検討・実施				・「浸透側溝設置ガイドライン」を策定(県) ・約4.5km (市) (尼崎市：市及び開発者) [累計約149km (市)]	・「浸透側溝設置ガイドライン(改訂版)」を策定(県) ・約8.9km (市) (尼崎市：市及び開発者) [累計約158km (市)]	・約2.5km (市) (尼崎市：市及び開発者) [累計約160km (市)]	・約6.2km (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市) [累計約166km (市)]	・約4.8km (市) (尼崎市、西宮市、伊丹市) [累計約171km (市)]

※ 100ha=1km²

<凡例> (市)：関係4県民局の合計値、(市)：流域7市域全体の合計値

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 流域の水循環を把握するため、雨量、水位、低水量、高水量、地下水位、ダム貯水位等のデータ収集に努めた。 地下水かん養機能向上に資する森林整備は、「森林管理 100%計画」及び「災害に強い森づくり」に基づき、森林所有者と調整の上、整備推進に努めた。 水循環に寄与する透水性舗装については、地下水位等の条件を満たす箇所では、浸透施設(道路側溝、宅内排水等)の整備については民間開発者の協力も得て、尼崎・西宮・伊丹の各市で取り組みが進んでおり、特に尼崎市域では H23 年度末迄に累計約 150km の実績があるなど、浸透施設整備への取り組みが展開されている。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域の水循環を把握するため、雨量、水位、低水量、地下水位、ダム貯水位等のデータ収集に努めた。 水源かん養機能の維持・向上に資する森林整備については、前年度から実績値は減少したものの、期別計画の整備目標値を達成すべく、引き続き整備に取り組んでいく。 水循環に寄与する透水性舗装については、地下水位等の条件を満たす箇所では、浸透施設(道路側溝、宅内排水等)の整備については、民間開発者の協力も得て約 9km の整備が実施された。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域の水循環を把握するため、雨量、水位、低水量、地下水位、ダム貯水位等のデータ収集に努めた。 水源かん養機能の維持・向上に資する森林整備については、期別計画の整備目標値を達成すべく、引き続き整備に取り組んでいく。 水循環に寄与する透水性舗装については、地下水位等の条件を満たす箇所では、浸透施設(道路側溝、宅内排水等)の整備については、民間開発者の協力も得て約 2.5km の整備が実施された。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を推進していく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 流域の水循環を把握するため、雨量、水位、低水量、地下水位、ダム貯水位等のデータ収集に努めた。 水源かん養機能の維持・向上に資する森林整備については、期別計画の整備目標値を達成すべく、引き続き整備に取り組んでいく。 水循環に寄与する透水性舗装については、地下水位等の条件を満たす箇所では、浸透施設(道路側溝、宅内排水等)の整備については、民間開発者の協力も得て約 6.2km の整備が実施された。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域の水循環を把握するため、雨量、水位、低水量、地下水位、ダム貯水位等のデータ収集に努めた。 水源かん養機能の維持・向上に資する森林整備については、期別計画の整備目標値を達成すべく、引き続き整備に取り組んでいく。 水循環に寄与する透水性舗装については、地下水位等の条件を満たす箇所では、浸透施設(道路側溝、宅内排水等)の整備については、民間開発者の協力も得て約 4.8km の整備が実施された。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を推進していく。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)	
<ul style="list-style-type: none"> 各項目について、第1期(H23~H27)において、関係部局、市と連携しており、期別計画に対しての目標は達成した。 今後も健全な水循環を確保するため、流域水環境を把握するとともに地下水かん養及び水循環に寄与する各事業を関係部局、市と連携しながら推進していく。 	

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第3節 河川環境の整備と保全に関する事項 1 動植物の生活環境の保全・再生 (1) 「2つの原則」の適用にあたっての考え方 (2) 「2つの原則」を適用した河川整備の実施箇所における主な対策 ① 下流部築堤区間 ② 下流部掘込区間 ③ 上流部</p>	<p>実施目標</p> <p>武庫川水系の多種多様な動植物が今後も生息・生育できる豊かな自然環境の保全・再生を図る。 (武庫川下流部築堤区間) 汽水域の拡大と干潟の創出 (武庫川下流部掘込区間) 礫河原の再生 (武庫川上流部) タナゴ類の生息環境の再生</p>
<p>施策の概要</p>	<p>河川整備に際して「武庫川水系に生息・生育する生物及びその生活環境の持続に関する2つの原則」(以下「2つの原則」という)を適用して、多様な生物の生活環境等に与える影響を可能な限り回避・低減または代替できる環境保全措置を講じる。 (水系全体で戦略的に自然環境を保全できるよう「2つの原則」に係る専門検討会[※]の検討結果を踏まえ、河床掘削や低水路拡幅などの河道対策と環境対策との整合のとれた河川整備に取り組む。)</p> <p>[※]「2つの原則」に基づき、武庫川水系の生物及び生活環境の現状評価を行い、河川事業の計画案による影響評価と保全・再生するための方策の検討を行うため、平成20年に兵庫県が設置した学識経験者からなる委員会</p>	

1. 期別計画 (P)			期別計画 (P)				2. 実績 (D)				
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
1. 動植物の生活環境の保全・再生	「2つの原則」の留意事項等を取りまとめた手引きの作成	手引きの作成	手引き作成	-	-	-	専門家の意見を聴きながら、「2つの原則」適用の考え方や進め方などを取りまとめた手引き(案)を作成	専門家の意見を聴きながら「手引き」を策定(H25.3)した。(期別計画完了)			
	「2つの原則」のパンフレット作成	パンフレットの作成	パンフレットの作成	パンフレットの作成	-	-	パンフレット素案を作成	手引きとの整合を図りながら、パンフレットの内容について検討	手引きとの整合を図りながら、パンフレットの内容について継続検討	手引きとの整合を図りながら、パンフレットの内容について継続検討	武庫川の川づくりパンフレットを活用
	地域住民や団体等による生態系の保全・再生活動の円滑化	・行政手続きの迅速化 ・技術面でのサポート	地域住民や団体等の要望に応じて実施				武庫川漁協等が行った産卵場造成やアドプト制度を活用した地域活動等について、申請手続きのサポートによる手続きの迅速化、資材等のサポートを実施	武庫川漁協等が行ったアユの産卵場造成やアドプト制度を活用した地域活動について、申請手続きの迅速化、資材等のサポートを実施	武庫川漁協等が行ったアユの産卵場造成やアドプト制度を活用した地域活動について、申請手続きの迅速化、資材等のサポートを実施	特定外来植物オオキンケイギクの駆除イベントやアドプト制度を活用した地域活動について、申請手続きの迅速化、資材・技術面等のサポートを実施	武庫川漁協等が行ったアユの産卵場造成やアドプト制度を活用した地域活動について、申請手続きの迅速化、資材・技術面等のサポートを実施
(1) 「2つの原則」の適用にあたっての考え方	河川整備に際しての「2つの原則」の適用	「2つの原則」の適用	河川整備の実施計画段階で専門家の意見を聴くとともに、施工後も専門家の意見を聴いて事後評価を実施				支川の大堀川で橋梁架替工事を実施中だが「2つの原則」該当区間は無し				
	重点化を図りつつ優先順位の高いものから配慮を検討すべき「生物の生活空間」を改善	配慮を検討すべき「生物の生活空間」の改善	ワークショップ等で実施方策を検討し実施				-	-	-	-	-
(2) 「2つの原則」を適用した河川整備の実施箇所における主な対策	① 下流部築堤区間	河床掘削に併せた潮止堰等の撤去	潮止堰撤去着手	潮止堰撤去完了	1号床止工撤去	-	河川改修の実施設計において環境保全・再生策に関する検討に着手	来年度のアユの遡上時期に向けて、潮止堰の転倒実験に関する関係者調整を実施	H25.4に潮止堰の転倒実験を実施	-	・潮止施設(矢板)設置 ・試験転倒の実施を検討
		魚類等の移動の連続性確保	-	-	-	2号・3号床止工の撤去又は改築に併せて実施			2号床止で魚道の小規模改良工事を試験的に実施	下流部1~8号床止工付近でアユの遡上・分布調査を実施	・下流部1~8号床止付近でアユの遡上・分布調査を実施 ・2号床止(右岸側)で魚道の小規模改良工事を試験的に実施
	干潟の創出	水制工等の設置	-	河床掘削等による流下能力拡大の後、実施					-	-	-

② 下流部掘込区間	礫河原と瀬・淵の再生	現状の砂州形状や礫河原の比高を考慮した河床掘削	河川改修にあわせて実施		河川改修の進捗にあわせて実施するため今年度は未実施	河川改修の進捗にあわせて実施するため今年度は未実施	河川改修の進捗にあわせて実施するため今年度は未実施	河川改修の進捗にあわせて実施するため今年度は未実施	河川改修の進捗にあわせて実施するため今年度は未実施
	外来植物の除去	・河床掘削によるシダレツメガヤの除去 ・関係機関や地域住民と連携したシダレツメガヤの除去	河川改修にあわせて実施						
	代償措置としての礫河原の再生	区間外での礫河原の再生	必要に応じて実施						
③ 上流部	移動性が低い生物の移植対策	オグラコウホネ等の植物やカタハガイ等の二枚貝類の移植対策	河川改修にあわせて実施	—	—	河川改修の実施設計において環境保全・再生策に関する検討に着手	河川改修区間において実施	オグラコウホネの保全対策を継続実施（経過観察、現在も良好に生育）	オグラコウホネの保全対策を継続実施（経過観察、現在も良好に生育）
	みお筋の再生	現況と同様の蛇行部確保	河川改修にあわせて実施	—	—				
	瀬・淵の再生	河道が直線的で河床勾配が一定な区間での木杭や根固工等の設置	河川改修にあわせて実施	—	—				
	ワンド・たまりの再生	・河床の横断方向に傾斜や凹凸をつけ冠水頻度に変化 ・ワンド・たまりの再生	河川改修にあわせて実施	—	—				
	オギ群集の再生	現地発生した表土の再利用	河川改修にあわせて実施	—	—				
	代償措置としての瀬・淵やワンド等の創出	区間外での瀬・淵やワンド等の創出	必要に応じて実施		区間内で瀬・淵やワンドを創出しているため、区間外での代償措置の必要なし				

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 手引きについては、専門家の意見を踏まえ、H24年度中の完成を目指す。 河川整備の実施箇所における対策については、今後、専門家の意見を聴いて具体化し、河川整備にあわせて実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家の意見を踏まえ、「手引き」を策定(H25.3)した。 平成24年8月に「環境の2つの原則専門検討会」を開催し、専門家の意見を聴きながら、武庫川下流部築堤区間・武庫川上流部の環境保全再生方策等を取りまとめた「川づくり計画図」を作成した。 (武庫川下流部築堤区間) <ul style="list-style-type: none"> H24年度は河道内での工事はなかったため、自然環境への対策が不要であった。 今後、河道内で工事を実施する場合には、「川づくり計画図」に基づき、自然環境の保全・再生に必要な対策を実施していく。 (武庫川上流部) <ul style="list-style-type: none"> 「川づくり計画図」に基づく河川改修に着手し、河道掘削工事(L=0.2km)を実施した。 工事実施箇所にオグラコウホネの生育地があるため、専門家の意見を聴いて、掘削範囲の変更等による保全対策を行った。(工事実施箇所の二枚貝類の移植は過年度実施済み。) 工事に併せて、みお筋、瀬・淵、ワンドの再生や、オギ群衆再生のための現地表土の再利用を行い、タナゴ類等の生息環境の再生に努めた。 今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、「川づくり計画図」に基づく自然環境の保全・再生に必要な対策を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> (武庫川下流部築堤区間) <ul style="list-style-type: none"> H25年度に実施した河床掘削工事の区間において、自然環境に対する影響を把握するため、水質検査等を行った。 今後、河道内で工事を実施する場合には、「川づくり計画図」に基づき、自然環境の保全・再生に必要な対策を実施していく。 2号床止において魚道の小規模改良を試験的に実施した(突出型魚道の付け根部に扇型魚道を設置)。今後、魚道設置の効果を検証していく予定。 アユの遡上時期に合わせて潮止堰の転倒実験(5日間)を実施したが、期間が短かったことや、魚道の瀬切れが発生したこと等により、アユの遡上効果が明確には表れなかった。 (武庫川上流部) <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「川づくり計画図」に基づく河川改修に着手し、河道掘削工事(L=0.3km)を実施した。工事に併せて、オギ群衆再生のための現地表土の再利用を行い、タナゴ類等の生息環境の再生に努めた。 今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、「川づくり設計図」に基づく自然環境保全・再生に必要な対策を実施していく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> (武庫川下流部築堤区間) <ul style="list-style-type: none"> H26年度に実施した河床掘削工事の区間において、自然環境に対する影響を把握するため、水質検査等を行った。 今後、河道内で工事を実施する場合には、「川づくり計画図」に基づき、自然環境の保全・再生に必要な対策を実施していく。 H26年度は、下流部1~8号床止工付近でアユの遡上調査を実施。その結果を踏まえ、今後、専門家や漁業組合等の意見を聴きながら、魚道構造について検討を進めていく。 (武庫川上流部) <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「川づくり計画図」に基づく河川改修に着手し、河道掘削工事(L=0.07km)を実施した。工事に併せて、オギ群衆再生のための現地表土の再利用を行い、タナゴ類等の生息環境の再生に努めた。 今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、「川づくり設計図」に基づく自然環境保全・再生に必要な対策を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2つの原則」のパンフレット作成については、検討の結果、武庫川の川づくりパンフレットに「2つの原則」のことがわかりやすく書かれており、これを活用することで関係機関や地域住民、事業者などへ普及ができると判断した。 (武庫川下流部築堤区間) <ul style="list-style-type: none"> H27年度に実施した河床掘削工事の区間において、自然環境に対する影響を把握するため、水質検査等を行った。 H27年度は、下流部1~8号床止工付近でアユの遡上調査を実施。その結果を踏まえ、今後、専門家や漁業組合等の意見を聴きながら、魚道構造について検討を進めていく。 (武庫川上流部) <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「川づくり計画図」に基づく河川改修に着手し、河道掘削工事(L=0.05km)を実施した。工事に併せて、オギ群衆再生のための現地表土の再利用を行い、タナゴ類等の生息環境の再生に努めた。 今後も引き続き、専門家の意見を聴きながら、「川づくり計画図」に基づく自然環境保全・再生に必要な対策を実施していく。 	
4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)		
<ul style="list-style-type: none"> 「2つの原則」の留意事項等を取りまとめた手引きについては、第1期で作成した。 「2つの原則」のパンフレット作成については、手引きとの整合性を図りながら内容を検討した結果、武庫川の川づくりパンフレットで代用できると判断した。 地域住民や団体等による団体等による生態系の保全・再生活動の円滑化については、第1期では武庫川漁協等が行ったアユの産卵場造成やアドプト制度を活用した地域活動について、申請手続きの迅速化、資材・技術面等のサポートを実施した。今後も、地域住民や団体等の要望に応じて必要な支援を実施していく。 下流部築堤区間、上流部において、専門家の意見を聴きつつ、「川づくり計画図」を作成した。今後も適宜専門家の意見を聴きながら工事を実施していく。 配慮を検討すべき「生物の生活空間」の改善について、第1期ではワークショップ等で実施方策を検討することができなかった。今後、実施方策を検討するよう努力する。 <p>【環境の「2つの原則」を適用した主な対策】</p> <p><下流部築堤区間></p> <ul style="list-style-type: none"> 魚類等の移動の連続性の確保について、第1期においては1~8号床止付近でアユの分布調査を実施した。また、2号床止付近を中心に専門家の意見を聴きつつ魚道の小規模改良を試験的に実施した。今後も魚道改良の効果を検証しながら魚類の遡上促進に必要な対策を実施していく。 潮止堰撤去については、撤去による周辺井戸の塩水化の調査・検討を行い、撤去に先立ち塩水化対策工事(矢板打設)を実施することとし、H27年度に着手したところである。第2期においては、引き続き実施する塩水化対策工事の完了後に潮止堰撤去工事に着手する予定であり、地下水のモニタリングと合わせて、早期完了に向けて必要な対策を進めていく。 干潟の創生については、河床掘削等による流下能力の拡大に併せて、今後必要な対策を実施していく。 <p><下流部掘込区間></p> <ul style="list-style-type: none"> 礫河原や瀬・淵の再生、シナダレスズメガヤの除去等は、今後河川改修の進捗にあわせて実施していく。 代償措置として、区間外での礫河原の再生については、必要に応じて実施していく。 <p><上流部></p> <ul style="list-style-type: none"> 「川づくり計画図」に基づく河川改修に着手し、みお筋や瀬・淵、ワンド・たまりの再生、オギ群衆再生のための現地表土の再利用やタナゴ類等の生息環境の再生に努めた。今後も引き続き、河川改修にあわせて実施していく。 代償措置としての区間外の瀬・淵やワンド等の創出については、区間内で瀬・淵やワンドを創出しているため、必要なかった。今後必要に応じて実施していく。 		

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第3節 河川環境の整備と保全に関する事項 1 動植物の生活環境の保全・再生 (3) 天然アユが遡上する川づくり	実施目標 アユをシンボル・フィッシュと位置付け、魚類にとってより望ましい川づくりに取り組む。
施策の概要	関係者や地域住民の適切な役割分担のもと、魚道の改善やみお筋の確保などによる移動の連続性の向上、産卵場及び稚魚期の生息場所の確保等の必要な対策を検討し、実施可能なものから取り組んでいく。また、アユの生息実態の追加調査については、必要に応じて検討を行う。	

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
(3) 天然アユが遡上する川づくり	関係機関や地域住民との適切な役割分担のもと、必要な対策を検討し実施可能な対策に取り組む(住民連携)	<ul style="list-style-type: none"> 魚道の改善やみお筋の確保などによる移動の連続性の向上 産卵場及び稚魚期の生息場所の確保 必要に応じた生息実態の追加調査等 	魚道については重点化を図りつつ、改善に取り組む。また、河川整備を実施する箇所ではみお筋、産卵場、稚魚期の生息場所の保全・再生に取り組む。アユの生息実態の追加調査については、必要に応じて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 武庫川で生息するアユの実態を把握するため、H21年度からの3カ年にわたり分布調査、産卵場調査、仔アユの流下調査などの生息実態調査を実施した。この調査結果については、専門家の意見を聴きながら取りまとめるとともに、ホームページでの公開、講演会での報告などにより、周知に努めた。 県、漁協、地域住民、学識者の適切な役割分担のもと、2号床止工下流において産卵場再生を実施(重機による粗造成の後、住民参加を得て人力による整地を実施)。当日は専門家を交えた生物観察会も実施。(H23. 10. 8) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様に県、漁協、地域住民、学識者の適切な役割分担のもと、2号床止工下流において、産卵場再生、専門家を交えた生物観察会を実施した。(H24. 10. 6) 2号床止の魚道内の流速低減がアユの遡上に寄与することから、試験的に魚道上流側にコンクリートのせき板を設置した。(H24. 5) 2号床止の魚道改良について素案を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様に県、漁協、地域住民、学識者の適切な役割分担のもと、2号床止工下流において、産卵場再生、専門家を交えた生物観察会を実施した。(H25. 10. 5) 2号床止で魚道の小規模改良工事を試験的に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様に県、漁協、地域住民、学識者の適切な役割分担のもと、2号床止工下流において、産卵場再生、専門家を交えた生物観察会を実施する予定だったが、台風接近のため中止した。(H26. 10. 12) 	<ul style="list-style-type: none"> 県、漁協、地域住民、学識者の適切な役割分担のもと、2号床止工下流において、産卵場再生、専門家を交えた生物観察会を実施した。(H27. 10. 18) 2号床止(右岸側)で魚道の小規模改良工事を試験的に実施。 			

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 天然アユ基礎調査結果の総括を踏まえ、今後、実施可能な対策に取り組んでいく。 特に移動障害となっている2号床止の魚道改良については、専門家や地域住民等の意見を聴きながら、具体的な改善方策について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場再生を継続して実施した。 2号床止の魚道に試験的にコンクリート板を設置した結果、流速を抑えることができ、目視によってアユ・オイカワ等の遡上が確認された。 2号床止の魚道改良について素案を作成した。今後、専門家や漁業組合等の意見を聴きながら、アユのみならず、他の魚類の移動(生物多様性の向上)にも配慮した魚道構造について検討を行い、工事実施に向けた検討を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場再生を継続して実施した。 2号床止において魚道の小規模改良を試験的に実施した(突出型魚道の付け根部に扇型魚道を設置)。今後、魚道設置の効果を検証していく予定。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場再生を継続する予定だったが、台風接近により中止したが、出水により河床が攪乱されたので産卵場が結果的に確保される結果となった。今後、アユ調査の結果を踏まえ、魚道の構造等について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> アユの産卵場再生を継続して実施した。 2号床止において魚道の小規模改良を試験的に実施した(床止工直下流に水位の落差を軽減するための袋詰玉石等を設置)。今後も魚道設置の効果を検証していく。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)
<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や住民との連携による天然アユが遡上する川づくりについては、第1期では、アユの実態調査の実施・公開や2号床止の小規模魚道改良、アユの産卵場再生・生物観察会等を実施した。今後も引き続き、必要な魚道改善や実態調査、アユの産卵場、生息場所の保全・再生に取り組む。

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第3節 河川環境の整備と保全に関する事項 2 良好な景観の保全・創出	実施目標 自然景観を基調とした武庫川らしい景観を保全・創出する。
	施策の概要 武庫川を特徴づける自然環境や、下流域のクロマツ・アキニレ等の樹木、武庫川峡谷の自然景観、瀬戸内海と日本海を結ぶ「ふるさと桜づつみ回廊」など、地域固有の景観資源を保全するとともに、歴史・文化といった沿川の地域特性に配慮しつつ、地域と一体となった景観形成に努める。 また、現在の自然環境を維持するだけでなく、地域住民による自然再生活動や河川環境の整備と保全への取り組みなど、自然環境に積極的に働きかけることによって、生物多様性の恵みとして得られる景観の創成につないでいく。	

1. 期別計画 (P)			期別計画 (P)				2. 実績 (D)					
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期	第2期	第3期	第4期	実績 (D)					
			(H23~H27)	(H28~H32)	(H33~H37)	(H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
2. 良好な景観の保全・創出	地域固有の景観資源の保全、沿川の地域特性に配慮しつつ地域と一体となった景観形成、生物多様性の恵みとして得られる景観の創成	・地域固有の生態系の保全 ・自然素材や多自然工法の採用 ・構造物の明度・彩度・肌理と周囲との調和などへの配慮	河川整備に際しては、「ひょうご・人と自然の川づくり基本理念・基本方針」「兵庫県公共施設景観指針」に基づき、自然景観を基調とした武庫川らしい景観の保全・創出。					下流部築堤区間、上流部の河道計画検討において、「ひょうご・人と自然の川づくり基本理念・基本方針」「兵庫県公共施設景観指針」に基づき検討。	上流部において武庫川らしい景観を保全するため、オギ群落の再生に向けた現地表土の再利用を実施。	上流部において武庫川らしい景観を保全するため、オギ群落の再生に向けた現地表土の再利用を実施。	上流部において武庫川らしい景観を保全するため、オギ群落の再生に向けた現地表土の再利用を実施。	上流部において武庫川らしい景観を保全するため、オギ群落の再生に向けた現地表土の再利用を実施。
		治水上支障がない範囲での堤防法面や高水敷の緑化修景	堤内等地等治水上支障がなく、地域住民等の理解と協力が得られた箇所について緑化修景。					治水上支障がない範囲で、「ふるさと桜づつみ回廊」のうち、枯死した桜等については、地元団体等の協力を得て、補植を行い、景観の維持に努めた。	治水上支障がない範囲で、「ふるさと桜づつみ回廊」で補植を実施。 (篠山市栗栖野の武庫川堤防に9本補植)	治水上支障がない範囲で、枯木植替を実施。	堤防強化対策工事等で掘削した堤防法面を張芝で復旧し、緑化修景。	堤防強化対策工事等で掘削した堤防法面を張芝で復旧し、緑化修景。
		<下流部築堤区間> 樹木伐採を必要最小限とする工法の検討等	樹木伐採を必要最小限とする河道計画、施工方法等の検討					住民説明会や出前講座等を合計50回開催するとともに、「武庫川河川整備地域懇談会」を設置するなど、広く沿川住民等の意見を聴いて、下流部築堤区間の河道設計を検討。このなかで、樹木伐採の最小化について検討し、河道計画に反映した。	樹木伐採を最小限とする河道計画に基づき工事に着手。	樹木伐採を最小限とする河道計画に基づき工事に着手。	樹木伐採を最小限とする河道計画に基づき工事に着手。	樹木伐採を最小限とする河道計画に基づき工事に着手。
		魅力ある河川景観の創出(住民連携)	<下流部築堤区間> 汽水域拡大・干潟創出を活用した魅力ある河川景観の創出	<下流部築堤区間> 汽水域拡大・干潟創出を活用した魅力ある河川景観の創出	河川整備の進捗にあわせて実施				河川改修の実施設計において、汽水域の拡大・干潟創出等の検討に着手。	「環境の2つの原則専門検討会」の専門家から意見を聴きながら、干潟創出等の検討を行った。	今後、河川整備の進捗にあわせて実施していく。	今後、河川整備の進捗にあわせて実施していく。
	地域のまちづくりにあわせた景観づくり(各市連携)	地域の個性に配慮した景観づくり	市の要請に応じて実施				除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間、上流部の河道計画について、武庫川らしい景観の保全・創出に配慮した検討を行った。また、下流部築堤区間では、既存樹木の伐採の最小化を図った。今後は、河道計画に基づき、工事を実施していく。 県内で取り組んだ多自然川づくりの事例を「ひょうご・人と自然の川づくり事例集」(平成11年、16年、23年発刊)として取りまとめており、今後も事例の蓄積を図っていく。 堤内地等治水上支障がない範囲での緑化修景については、地域住民等の理解と協力が得られた箇所での、植樹等について実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流部において武庫川らしい景観の保全に配慮し、河川改修工事に併せて、オギ群落の再生を目的とした現地表土の再利用を実施した。 最小限の既存樹木伐採を取り入れた河道計画に基づき工事に着手した。今後も引き続き実施していく。 下流部築堤区間での干潟創出等の検討を実施した。今後、河川改修の進捗にあわせて干潟の整備に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流部において武庫川らしい景観の保全に配慮し、河川改修工事に併せて、オギ群落の再生を目的とした現地表土の再利用を実施した。 最小限の既存樹木伐採を取り入れた河道計画に基づき工事に着手しており、今後も引き続き実施していく。 下流部築堤区間での干潟創出等については、今後、河川改修の進捗にあわせて干潟の整備に着手する。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 上流部において武庫川らしい景観の保全に配慮し、河川改修工事に併せて、オギ群落の再生を目的とした現地表土の再利用を実施した。 最小限の既存樹木伐採を取り入れた河道計画に基づき工事に着手しており、今後も引き続き実施していく。 下流部築堤区間での干潟創出等については、今後、河川改修の進捗にあわせて干潟の整備に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流部において武庫川らしい景観の保全に配慮し、河川改修工事に併せて、オギ群落の再生を目的とした現地表土の再利用を実施した。 最小限の既存樹木伐採を取り入れた河道計画に基づき工事に着手しており、今後も引き続き実施していく。 下流部築堤区間での干潟創出等については、今後、河川改修の進捗にあわせて干潟の整備に着手する。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)	
<ul style="list-style-type: none"> 地域固有の景観資源の保全や地域特性に配慮した景観形成等については、第1期では、上流部でオギ群落の再生に向けた現地表土の再利用、下流部で治水上支障のない範囲で堤防法面の緑化など自然環境を基調とした武庫川らしい景観を保全・創出した。今後も引き続き、武庫川らしい景観の保全・創出のため、必要な対策を実施していく。 除草など、維持管理の経費が多く必要であり、緑化は管理コストを見据えた整備が課題である。また、今後河川全体を維持管理していくために、住民等に関わってもらえる動機付けや枠組みが必要である。 下流部築堤区間において、樹木伐採を必要最小限とする工法を検討し、工事に着手した。今後も樹木伐採を必要とする工事を実施するため、第2期も引き続き、樹木伐採を最小限にとどめられるよう工法を検討していく。 汽水域拡大・干潟創出を活用した魅力ある河川景観の創出については、河床掘削工事による流下能力拡大後や潮止堰撤去後、実施していく。 	

河川整備計画
の事項・項目

第4章 河川整備の実施に関する事項
第3節 河川環境の整備と保全に関する事項
3 河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保

実施目標

人と河川の豊かなふれあひ及び適正な河川利用の確保。

施策の概要

自然環境及び治水計画との調和に留意しつつ、水と緑のオープンスペースとしての河川利用など、多様な要請に応えられるよう努める。また、環境学習の支援を行うため、関係機関と連携して、河川利用の利便性の確保を図るとともに、自然を生かした水辺の創出や施設の整備に努める。河川の水面利用に関しては、流域市や関係機関などと連携して秩序ある利用に努める。
なお、河口部では潮止堰等の撤去により、汽水域が拡大され、干潟が創出されることから、これらを活かした魅力ある水辺とのふれあいの場の創造を地域住民等との参画と協働のもとで進めていく。

1. 期別計画 (P)		期別計画 (P)				2. 実績 (D)						
河川整備計画 の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
3. 河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保	自然環境・治水計画との調和に留意しつつ多様な要請に対応	多様な要請への対応	地域住民等の意見を踏まえ、実施可能なものについて対応。				下流部築堤区間の河道計画検討にあたり、地元説明会や出前講座等の積極的な開催(計50回)、事業説明チラシの配布、地域懇談会の設置などに取り組み、広く県民意見を聴取し、河川敷利用のあり方を検討した。「治水安全度の向上が最優先」「津波に対する安全性確保」「利用面を考慮して、高水敷の段差はなくしてほしい」「干潟の創出やアユの生息環境改善」「景観保全上、高水敷の樹木は切らないでほしい」等多様な要請があり、対応可能なものについては実施計画に反映した。	下流部築堤区間の工事実施においては、樹木伐採や、高水敷の掘削により利用の制限が伴うことから、地域住民等の理解を得るため、現地にインフォメーションセンターを設置したほか、地元説明会や出前講座等の開催(計21回)、事業説明チラシの配布等の広報に努めた。	下流部築堤区間の工事実施においては、樹木伐採や、高水敷の掘削により利用の制限が伴うことから、地域住民等の理解を得るため、現地にインフォメーションセンターを設置したほか、地元説明会や出前講座等の開催(計20回)、事業説明チラシの配布等の広報に努めた。	下流部築堤区間の工事実施においては、樹木伐採や、高水敷の掘削により利用の制限が伴うことから、地域住民等の理解を得るため、現地の事業PR用掲示板を活用したほか、地元説明会や出前講座等の開催(計11回)等の広報に努めた。	下流部築堤区間の工事実施においては、樹木伐採や、高水敷の掘削により利用の制限が伴うことから、地域住民等の理解を得るため、現地の事業PR用掲示板を活用したほか、地元説明会や出前講座等の開催(計12回)等の広報に努めた。	下流部築堤区間の工事実施においては、樹木伐採や、高水敷の掘削により利用の制限が伴うことから、地域住民等の理解を得るため、現地の事業PR用掲示板を活用したほか、地元説明会や出前講座等の開催(計12回)等の広報に努めた。
	武庫川の自然環境や水辺を利用した環境学習の支援(関係機関連携)	・河川利用の利便性の確保 ・自然を生かした水辺の創出や施設の整備	関係機関と連携して、河川利用の利便性の確保を図るとともに、自然を生かした水辺の創出や施設の整備に努める。	下流部築堤区間の河道計画検討においては、現況の親水護岸や護岸勾配を維持できるよう河川利用の利便性や親水性に配慮した設計に努めたほか、河口部での干潟創出については、全国の事例を収集し、整備手法について検討を行った。				河口部での干潟創出については、「環境の2つの原則検討会」の意見を聴きながら検討を実施	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。
	秩序ある水面利用(流域市連携・関係機関連携)	秩序ある水面利用	流域市や関係機関などと連携し、不法係留等の違法な水面利用が無い状態を維持する。	不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。				不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。	不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。	不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。	不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。	不法係留等の違法な水面利用は確認されなかった。
	汽水域拡大・干潟創出を活かした魅力ある水辺とのふれあいの場の創造(住民連携)	<下流部築堤区間>魅力ある水辺とのふれあいの場の創造	河川整備の進捗にあわせて実施				河川改修の実施設計において、汽水域の拡大・干潟創出等の検討に着手。	河口部での干潟創出については、「環境の2つの原則検討会」の意見を聴きながら検討を実施	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。	河口部での干潟創出の前提となる低水護岸の整備を推進。

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間の河道計画検討にあたり、計画内容の周知や住民意見聴取に積極的に取り組んだ結果、ホームページ[※]へのアクセス数が増加[243件/月(7~9月の平均)→485件/月(1~3月の平均)]するなど、説明会等の効果が見られた。工事の実施段階においても、引き続き、住民意見を聴取し、多様な要請への対応に努める。また、関係機関や地域住民との連携を図りながら、自然とのふれあいや環境学習の場の整備・保全に取り組んでいく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html 河川の水面利用については、今後も秩序ある利用が維持できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間において、地元説明会や出前講座等の開催、事業説明チラシの配布等の広報に努めた結果、概ね地元の理解が得られ、H24.11より低水路護岸工事に着手することができた。さらなる住民理解を得ることを目的に工事現場にインフォメーションセンターを設置した。 下流部築堤区間については、現状の利便性や親水性を極力確保できるよう河川改修に合わせて整備していく。 河口部の干潟については、「環境の2つの原則検討会」の専門家の意見を聴きながら検討を行った。今後、河川改修の進捗にあわせて整備に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、地元説明会や出前講座等の開催、事業説明チラシの配布等の広報に努め、地元の詳細を得ながら、低水路護岸の工事を継続する。さらなる住民理解を得ることを目的に工事現場にインフォメーションセンターを設置した。 河口部の干潟については、今後、河川改修の進捗にあわせて整備に着手する。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、地元説明会や出前講座等の開催等の広報に努め、地元の詳細を得ながら、低水路護岸の工事を継続する。さらなる住民理解を得ることを目的に工事内容のわかる看板等を現場に設置した。 河口部の干潟については、今後、河川改修の進捗にあわせて整備に着手する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元説明会や出前講座等の開催等の広報に努め、地元の詳細を得ながら、護岸工事等を実施した。さらなる住民理解を得ることを目的に、下流部築堤区間においては、工事内容のわかる看板等を現場に設置した。 河口部の干潟については、今後、河川改修の進捗にあわせて整備に着手する。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)	
<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や治水との調和に留意した要請への対応については、第1期では特に下流部築堤区間の工事において、地元説明会や出前講座等の開催等の広報に努め、樹木伐採や高水敷の掘削に伴うことへの理解を求める場や住民の意見を聴く機会を設けた。今後も引き続き、必要に応じて地元説明会や出前講座を実施していく。 魅力ある水辺とのふれあいの場の創造については、第1期では河口部の干潟創出の前提となる低水路護岸の整備を推進した。今後も干潟創出に取り組めるよう低水路護岸の整備を引き続き実施していく。 秩序ある水面利用については、流域市や関係機関と連携し不法係留等の違法な水面利用が無い状態を維持することとしているが、第1期では不法係留等違法な水面利用は確認されなかった。今後も引き続き、違法な水面利用が無い状態を維持できるよう努める。 	

河川整備計画の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第3節 河川環境の整備と保全に関する事項 4 水質の向上 (1) 下水道整備の推進 (2) 水質調査等の継続実施 (3) 水質事故への対応 (4) わかりやすい水質指標による調査 (5) 水生植物による自然浄化機能の向上	実施目標	関係機関や地域住民と連携して、更なる水の「質」の向上を図る。
	施策の概要		武庫川の水質については、環境基準を満足しているが、更なる水の「質」の向上を目指して、環境基準の水域類型の格上げや類型指定区間の見直しを視野に入れるとともに、下水道整備の推進、水質調査等の継続実施、水質事故への対応、わかりやすい水質指標による調査、水生植物による自然浄化機能の向上、の取り組みを進める。

1. 期別計画 (P)			期別計画 (P)				2. 実績 (D)				
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
			4. 水質の向上	(1) 下水道整備の推進	放流水のさらなる水質改善	下水処理施設の高高度処理化 〈上流処理区〉 今後の汚水量の増加に応じて施設を増設 (既存施設は高度処理化済)	—			既存施設 (高度処理化済) で対応可能	既存施設 (高度処理化済) で対応可能
(2) 水質調査等の継続実施	水質状況の的確な把握 (関係機関連携)	定期的な水質調査や底質調査 (関係機関連携)		水質汚濁防止法に基づき継続して実施			水質汚濁防止法第16条に基づき測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的に実施	水質汚濁防止法第16条に基づき測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的に実施	水質汚濁防止法第16条に基づき測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的に実施	水質汚濁防止法第16条に基づき測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的に実施	水質汚濁防止法第16条に基づき測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的に実施
(3) 水質事故への対応	水質事故時の情報の迅速な伝達と共有化 (関係機関連携)	「武庫川水質連絡会議」*等との連携		継続して実施			「武庫川水質連絡会議」を開催 (H23. 9. 21)	水質事故はなかったが、情報共有を図るため、「武庫川水質連絡会議」を開催 (年4回実施: 8月、11月、1月、3月)	事故発生時に連絡体制表に基づき連携を行ったほか、「武庫川水質連絡会議」を開催 (年4回実施: 7月、11月、1月、3月)	事故発生時に連絡体制表に基づき連携を行ったほか、「武庫川水質連絡会議」を開催 (年4回実施: 7月、10月、1月、3月)	水質事故はなかったが、情報共有を図るため、「武庫川水質連絡会議」を開催 (年4回実施: 7月、10月、1月、3月)
(4) わかりやすい水質指標による調査	地域住民が身近な河川の水質調査を実施する通じて川とのつながりを深める	わかりやすい水質指標による調査の実施を検討 (関係機関連携)		関係機関と連携し実施方針を検討			わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	県主催の交流会で地域が取り組む水質指標について事例紹介	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積
(5) 水生植物による自然浄化機能の向上	河積に余裕がある箇所での自然浄化機能の向上	オギやヨシ等の水生植物の再生		実施方針を検討し順次実施			該当箇所 (武庫川上流部) の工事に合わせ、水生植物の再生を実施	該当箇所 (武庫川上流部) の工事に合わせ、水生植物の再生を実施	該当箇所 (武庫川上流部) の工事に合わせ、水生植物の再生を実施	該当箇所 (武庫川上流部) の工事に合わせ、水生植物の再生を実施	該当箇所 (武庫川上流部) の工事に合わせ、水生植物の再生を実施

※水質汚染等の情報交換のため、昭和48年に設立された武庫川流域の7水道事業体で構成する連絡会議

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])			点検・評価 (C) H23			点検・評価 (C) H24			点検・評価 (C) H25		
<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備については、合流式下水道緊急改善計画を平成25年度末までに完了できるよう、関係市への働きかけを行う。 水質調査等については、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は環境基準を達成。) 水質事故等に備え、今後も定期的に「武庫川水質連絡会議」を開催し、情報共有に努めていく。 流域連携を促進するために、今後、環境を切り口としたワークショップ等の開催を検討し、このなかで、わかりやすい水質指標による調査や、オギ・ヨシ等の水生植物の再生についての実施方針等を検討のうえ、適切な役割分担の下、具体化を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備については、合流式下水道緊急改善計画を平成25年度末までに完了できるよう、関係市への働きかけを行う。 水質調査等については、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は環境基準を達成。) 水質事故等に備え、今後も定期的に「武庫川水質連絡会議」を開催し、情報共有に努めていく。 今後「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を活用し、わかりやすい水質指標による調査や、オギ・ヨシ等の水生植物の再生についての実施方針等を検討のうえ、適切な役割分担の下、具体化を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備については、合流改善にかかる施設整備は完了しており、今後、その効果の検証を行うこととしている。 水質調査等については、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は環境基準を達成。) 水質事故等に備え、今後も定期的に「武庫川水質連絡会議」を開催し、情報共有に努めていく。 					
<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備については、合流改善にかかる施設整備は完了しており、H26年度は放流水質測定を行い、効果の検証を実施していく。 水質調査等については、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は環境基準を達成。) 水質事故等に備え、今後も定期的に「武庫川水質連絡会議」を開催し、情報共有に努めていく。 			<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備については、合流改善にかかる施設整備は完了しており、放流水質測定を行い、検証の結果をH28年度に公表する。 水質調査等については、水質汚濁防止法に基づき、今後も継続して調査を実施する。(健康項目は概ね環境基準を達成。生活環境項目は環境基準を達成。) 水質事故等に備え、今後も定期的に「武庫川水質連絡会議」を開催し、情報共有に努めていく。 								

4. 改善（A）（第2期 [H28～H32] に向けて）

・放流水のさらなる水質改善のための下水道整備の推進については、第1期は下水道事業者と連携し水質の改善に取り組んだ。

<上流処理区>

・下水道処理施設の上流処理区については、第1期では高度処理化済の既存施設で対応可能であった。今後、汚水量の増加に応じて施設の増設を検討する。

<下流処理区>

・下水道処理施設の下流処理区については、第1期で合流改善事業を完了し、評価を実施した。第2期は評価の結果を公表する予定である。

・水質状況の把握については、第1期では水質汚濁防止法に基づいた測定計画を策定し、公共用水域の水質及び底質の調査を定期的にも実施した。今後も引き続き調査し、水質状況の的確な把握に努める。

・水質事故等への対応については、第1期では年4回「武庫川水質連絡会議」を実施し、水質情報の共有に努めた。今後も引き続き「武庫川水質連絡会議」を開催し、水質情報の共有に努める。

・わかりやすい水質指標による調査については、第1期ではわかりやすい指標設定に向け、水質データを蓄積した。平成25年には県主催の「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」で、地域住民が調査を実施しやすい水質指標について事例紹介した。今後、関係機関と連携し、蓄積したデータを活用してわかりやすい水質指標を順次検討していく。

・水生生物による自然浄化機能の向上については、第1期では、上流部で工事にあわせ水生植物の再生を実施し、概ね順調に再生した。今後も継続して水生植物の再生に取り組んでいく。

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第4節 河川の維持管理等に関する事項 1 河川の維持管理 (1) 維持・修繕工事の実施 ① 河道、堤防、護岸等 ② 親水施設等 ③ 樹木等 ④ 水文観測施設 (2) 不法行為等への指導 (3) 除草・清掃の実施 (4) 適切な施設操作の実施 (5) 占用許可工作物への適切指導</p>	<p>実施目標</p> <p>河道の確保、堤防・護岸の機能維持、河川利用者の安全確保、不法行為等の防止、施設の機能維持、占用許可工作物への適切指導に取り組む。</p>
<p>施策の概要</p> <p>平成21年度に策定した「兵庫県河川維持管理計画」に基づき、定期的に点検を行って河川の状態を把握し、効果的・効率的に河川の維持管理を行う。</p>		

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)									
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)					
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27	
(1) 維持・修繕工事の実施	① 河道、堤防、護岸等 河道の確保、堤防・護岸の機能維持	河床低下や異常な洗掘箇所における根固工などの洗掘対策、流下能力が著しく低下している箇所における河道掘削等、堤防・護岸の変状箇所における修繕工事 ＜下流部築堤区間＞ ・定期的な横断測量や堤防・護岸の点検 ・必要に応じた維持掘削 ・堤防・護岸の修繕工事	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ洗掘対策、河道掘削、修繕工事等を実施				巡視点検の結果、洗掘対策、河道掘削、修繕工事等を実施	巡視点検の結果、洗掘対策、河道掘削、修繕工事等を実施 有馬川の護岸修繕 L=77m 維持掘削 L=1,340m 等	巡視点検の結果、洗掘対策、修繕工事等を実施 ・本川（天王寺川合流点～逆瀬川合流点）の洗掘対策及び維持掘削 L=2,700m ・有野川の護岸修繕 L=144m 等	巡視点検の結果、洗掘対策、修繕工事等を実施 ・本川（仁川合流点）の洗掘対策及び護岸修繕 L=340m ・船坂川の護岸修繕 L=18m 等	巡視点検の結果、洗掘対策、修繕工事等を実施 ・有馬川の護岸修繕 L=70m ・有野川の土砂撤去 L=20m 等	
	② 親水施設等 河川利用施設及び警報システムや避難誘導施設の機能確保	老朽化した河川利用施設及び警報システムや避難誘導施設の更新	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ施設の更新を実施				巡視点検の結果、護岸の修繕工事を実施 武庫川(西宮市堤町)護岸修繕 L=49.0m 等	巡視点検の結果、護岸の更新なし	巡視点検の結果、修繕工事なし	巡視点検の結果、修繕工事なし	巡視点検の結果、修繕工事なし	
	③ 樹木等 適切な樹木管理 適切な樹木管理についての検討	・河川区域内樹木等の巡視・点検 ・堤防の安全性に悪影響を及ぼす樹木の伐採・抜根等 治水支障となる樹木の伐採や治水上の支障がない範囲での植樹等	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ樹木の伐採・抜根等を実施				巡視点検の結果、樹木の伐採・抜根等を実施	巡視点検の結果、樹木の伐採・抜根等を実施 ・武庫川下流部築堤区間の危険木 72本 ・有野川 10本	巡視点検の結果、樹木の伐採・抜根等を実施 ・武庫川（天王寺川合流点～観音谷川合流点）等	巡視点検の結果、樹木の伐採・抜根等を実施 ・有野川 10本 ・八多川 3本、等	巡視点検の結果、樹木の伐採・抜根等を実施 ・武庫川 15本 （尼崎市武庫町9、西宮市日野町3、甲子園口3）等	
			適正な樹木管理についての検討	適正な樹木管理について検討				現況の樹木調査を実施 (下流部築堤区間)				

	④水文観測施設	水文観測施設の機能確保	・適切な維持管理 ・老朽施設の更新	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ施設の更新を実施	巡視点検の結果、施設の更新なし	河川水位及び監視カメラの Wed 配信サーバの更新を行った（宝塚土木）	武田尾水位計交換及び各種河川監視システムの UPS 無停電装置交換等（宝塚土木）	武雨量水位計（武田尾）、河川監視カメラ（武田尾）の災害復旧を実施	雨量水位計（武田尾）、河川監視カメラ（武田尾）の災害復旧を実施
(2) 不法行為等への指導		治水上著しい支障がある不法行為者への指導（関係部局連携）	不法行為者への指導	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ不法行為者への指導を実施	巡視点検の結果、不法行為者への指導を実施	巡視点検の結果、不法行為者への指導を実施	巡視点検の結果、不法行為者への指導を実施	巡視点検の結果、不法行為者への指導を実施	巡視点検の結果、不法行為者への指導を実施
(3) 除草・清掃の実施		安全な河川利用の促進、防犯防火等を目的とした除草・清掃の実施	・クリーン作戦（県市共同） ・利用者の多い箇所における定期的な除草・清掃	継続的に実施	クリーン作戦を実施	クリーン作戦を実施	クリーン作戦を実施	クリーン作戦を実施	クリーン作戦を実施
			河川愛護活動・ひょうごアドプト等に対する清掃資材提供等の支援	継続的に実施	清掃資材提供等を実施	清掃資材提供等を実施	清掃資材提供等を実施	清掃資材提供等を実施	清掃資材提供等を実施
			回収ゴミの適切な処理（県市連携）	継続的に実施	適切な処理を実施	適切な処理を実施	適切な処理を実施	適切な処理を実施	適切な処理を実施
(4) 適切な施設操作の実施	樋門等の適正な機能発揮	樋門等の操作の実施・指導	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ操作責任者や関係者とともにルールや操作体制について確認	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持	巡視点検を実施し、樋門等の機能を維持
	水防倉庫の適正活用	水防倉庫の適正活用	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検、水防時の適正活用	巡視点検を行い資材補充するとともに、水防時には適正に活用	巡視点検を行い資材補充するとともに、水防時には適正に活用	巡視点検を行い資材補充するとともに、水防時には適正に活用	巡視点検を行い資材補充するとともに、水防時には適正に活用	巡視点検を行い資材補充するとともに、水防時には適正に活用	
(5) 占用許可工作物への適切指導		河川管理上支障となる占用許可工作物の改善、現行の構造基準を満たしていない施設の改善	施設管理者への指導	「兵庫県河川維持管理計画」に基づく巡視点検を行い、必要に応じ施設管理者への指導を実施	巡視点検の結果、速やかに点検、修繕等を必要とする施設はなかった	巡視点検の結果、速やかに点検、修繕等を必要とする施設はなかった	巡視点検の結果、速やかに点検、修繕等を必要とする施設はなかった	巡視点検の結果、速やかに点検、修繕等を必要とする施設はなかった	巡視点検の結果、速やかに点検、修繕等を必要とする施設はなかった
		出水時における排水ポンプ場の合理的な運転調整方法の検討	運転調整方法の検討	総合治水条例に規定された排水計画の指針に基づいた指定ポンプ施設の排水計画を策定する	宝塚市ポンプ場への運転調整に係る浸水シミュレーションを実施した	下水道管理者と協議しながら排水計画の指針の検討を行った。	下水道管理者と協議しながら排水計画の指針の検討を行った。	下水道管理者と協議しながら排水計画の指針の検討を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 下水道管理者と協議しながら排水計画の指針の検討を行った。 下水道管理者及び関係市等からなる準備会を設置し今後の運転調整について意見交換を行った（H28. 3. 24）

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
点検・評価 (C) H23	点検・評価 (C) H24	点検・評価 (C) H25
<ul style="list-style-type: none"> 河川の巡視点検を行い、必要に応じて、維持・修繕工事、不法行為等への指導、除草・清掃、適切な施設操作を実施した。今後も継続して、適正な維持管理に努める。 排水ポンプ場の合理的な運転調整方法の検討については、宝塚市ポンプ場の運転調整に係る浸水シミュレーションを実施し、内水被害の把握を行った。今後、検討結果を踏まえ、排水計画の策定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の巡視点検を行い、必要に応じて、維持・修繕工事、樹木伐採、除草・清掃を実施した。今後も継続して、適正な維持管理に努める。 下水道管理者と協議を行いながら排水計画の指針について検討を行った。早期の計画策定を目指し、今後も検討を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の巡視点検を行い、必要に応じて、維持・修繕工事、樹木伐採、除草・清掃を実施した。今後も継続して、適正な維持管理に努める。 下水道管理者と協議を行いながら排水計画の指針について検討を行った。早期の計画策定を目指し、今後も検討を継続していく。
点検・評価 (C) H26	点検・評価 (C) H27	
<ul style="list-style-type: none"> 河川の巡視点検を行い、必要に応じて、維持・修繕工事、樹木伐採、除草・清掃を実施した。今後も継続して、適正な維持管理に努める。 下水道管理者と協議を行いながら排水計画の指針について検討を行った。早期の計画策定を目指し、今後も検討を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川の巡視点検を行い、必要に応じて、維持・修繕工事、樹木伐採、除草・清掃を実施した。今後も継続して、適正な維持管理に努める。 下水道管理者と協議を行いながら排水計画の指針について検討を行った。早期の計画策定を目指し、今後も検討を継続していく。 	

4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)		
<ul style="list-style-type: none"> 河川の適切な維持管理について、第1期(H23~H27)において、「兵庫県河川維持管理計画」に基づき、定期的に点検を行ない河川の状態を把握し、効果的・効率的に維持管理を実施した。 今後も継続して、適正な河川の維持管理に努める。 樹木管理については、第1期(H23~H27)において、調査を実施し、危険木等の除去は行なっているが、河川内の総合的な樹木管理についての検討が未実施。 第2期(H28~H32)において、適正な樹木管理のため検討を行なう。 出水時における排水ポンプ場の合理的な運転調整方法について下水道管理者と協議継続中である。 第2期(H28~H32)において、ポンプ運転調整のルール策定を目指す。 		

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第4節 河川の維持管理に関する事項 2 流域連携 (1) 地域社会と河川の良い関係の構築 ① 流域対策・減災対策 ② 動植物の生活環境の保全・再生 ③ 川の計画づくり ④ 河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保等 ⑤ 水質の向上 (2) 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援 (3) 自律的な流域ネットワークとの連携</p>	<p>実施目標</p> <p>「参画と協働」による武庫川づくりを基本として、地域住民等、大学、NPO、事業者の研究機関、流域市、県が適切な役割分担のもと連携を進め、「地域共有の財産」である武庫川を守り育てる。</p>
<p>施策の概要</p> <p>適切な役割分担のもと連携を進めるとともに、「地域社会と河川の良い関係の構築」「多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援」「自律的な流域ネットワークとの連携」を柱とした武庫川づくりに取り組む。</p>		

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
(1) 地域社会と河川の良い関係の構築	<p>地域住民等と連携した河川の維持管理等</p>	<p>ひょうごアドプト等の実施</p>	<p>「参画と協働」の推進</p>				<p>・工事への理解と協力を得るための住民説明会等(50回)や、河川敷利用のあり方等について意見を聴く地域懇談会(3回)等を開催するとともに、住民意見をできるだけ反映した計画づくりを実施(下流部築堤区間) ・シンポジウム「武庫川からはじめる総合治水」(H23.9開催、参加者約450人) ・ひょうごアドプトによる河川敷清掃等の支援(12団体)等</p>	<p>・工事への理解と協力を得るための住民説明会等(21回)を実施(下流部築堤区間) ・「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」の開催(H25.3) ・ひょうごアドプトによる河川敷清掃等の支援(14団体)等</p>	<p>・工事への理解と協力を得るための住民説明会等(11回)を実施(下流部築堤区間) ・「第2回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」の開催(H25.12) ・ひょうごアドプトによる河川敷清掃等の支援(14団体)等</p>	<p>・工事への理解と協力を得るための住民説明会等(11回)を実施(下流部築堤区間) ・「第3回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」の開催(H26.9) ・ひょうごアドプトによる河川敷清掃等の支援(17団体)等</p>	<p>・工事への理解と協力を得るための住民説明会等(32回)を実施 ・「第4回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」の開催(H27.10) ・現地体感バスツアーを実施(H28.3) ・ひょうごアドプトによる河川敷清掃等の支援(14団体)等</p>
	<p>「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 「武庫川流域総合治水推進計画」の策定</p>	<p>・「武庫川流域総合治水推進協議会」の設置 ・「武庫川流域総合治水推進計画」の策定</p>					<p>・県市共同で「協議会」設置(H22.11) ・「推進計画」策定(H22.11) 「流域対策実施計画」策定(H24.2)</p>	<p>総合治水条例に基づき総合治水推進協議会を設置し、「阪神西部(武庫川流域)地域総合治水推進計画」を策定(H25.3)</p>	<p>総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域)地域総合治水推進協議会」を1回開催</p>	<p>総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域)地域総合治水推進協議会」を1回開催</p>	<p>・専門部会1回、幹事会を開催し、「武庫川流域総合治水推進計画流域対策実施計画」を策定(H28.3) ・総合治水条例に基づく「阪神西部(武庫川流域)地域総合治水推進協議会」を1回開催</p>
① 流域対策・減災対策	<p>学校、公園、ため池等を利用した貯留施設の整備(流域市連携)</p>	<p>学校・公園・ため池等を利用した貯留施設等の整備(貯留量約64万m³)</p>	<p>約0.3万m³着手(学校2箇所) [累計約0.4万m³着手] (H23年度までに公園1箇所、学校2箇所)</p>				<p>累計約1.0万m³着手(累計:公園1箇所、学校3箇所)</p>	<p>累計約1.5万m³着手(累計:公園1箇所、学校6箇所、その他1箇所着手)</p>	<p>累計約1.8万m³着手(累計:公園1箇所、学校8箇所、その他1箇所着手)</p>	<p>累計約2.0万m³着手(累計:公園1箇所、学校9箇所、その他1箇所着手)</p>	
	<p>水害リスクに対する認識の向上や避難方法の周知</p>	<p>わがまちを歩く体験型講座や住民主体のハザードマップづくりなどの支援</p>					<p>住民自らがまちを歩きながら地域の危険箇所等を確認する体験型講座を実施(市12回)</p>	<p>住民自らがまちを歩きながら地域の危険箇所等を確認する体験型講座を実施(市8回)</p>	<p>住民自らがまちを歩きながら地域の危険箇所等を確認する体験型講座を実施(市26回)</p>	<p>住民自らがまちを歩きながら地域の危険箇所等を確認する体験型講座を実施(市42回)</p>	<p>住民自らがまちを歩きながら地域の危険箇所等を確認する体験型講座を実施(市25回)</p>
② 動植物の生活環境の保全・再生	<p>動植物の生活環境の保全・再生(住民連携)</p>	<p>アユが遡上する川づくりや外来種除去を通じた在来種の保全等</p>	<p>県、漁協、地域住民、学識者の連携によるアユの産卵場造成(2号床止下流)</p>				<p>県、漁協、地域住民、学識者の連携によるアユの産卵場造成(2号床止下流)</p>	<p>・県、漁協、地域住民、学識者の連携によるアユの産卵場造成(2号床止下流) ・2号床止で魚道の小規模改良工事を試験的に実施</p>	<p>・県、漁協、地域住民、学識者の連携によるアユの産卵場造成(2号床止下流) ・武庫川づくり交流会(9/20)で特定外来植物ミズヒマリの駆除を実施</p>	<p>・県、漁協、地域住民、学識者の連携によるアユの産卵場造成(2号床止下流)</p>	

	③川の景観づくり	地域のまちづくりにあわせた景観づくり(各市連携)	地域の個性に配慮した景観づくり		除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。	除草や清掃等を実施し、武庫川らしい良好な景観維持に努めた。
	④河川利用と人と河川の豊かなふれあいの確保等	河川利用と人と川の豊かなふれあいの確保等(住民連携)	河口部での干潟の創出等を活用した魅力ある水辺とのふれあいの場の創造等		河川改修の実施設計において、汽水域の拡大・干潟創出等の検討に着手。	河口部での干潟創出については、「環境の2つの原則検討会」の意見を聴きながら検討を実施	河口部での干潟創出については、今後、河川改修の進捗に併せて整備に着手。	河口部での干潟創出については、今後、河川改修の進捗に併せて整備に着手。	河口部での干潟創出については、今後、河川改修の進捗に併せて整備に着手。
	⑤水質の向上	地域住民が水質調査を通じて川とのつながりを深める	わかりやすい水質指標による調査の実施を検討(関係機関連携)		わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積 県主催の交流会で地域が取り組む水質指標について事例紹介	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積	わかりやすい水質指標設定に向け、水質データを蓄積
(2) 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援		公平性、透明性を基本に活動主体の自発性、自律性を損なわないよう配慮した支援	活動資金の助成 ・活動主体の情報発信 ・相互の連携・交流の支援等	「参画と協働の推進方策」に基づき、各種助成を継続して実施 「参画と協働の推進方策」に基づき、情報発信、連携・交流の支援等を継続して実施	地域づくり活動応援事業、ひょうごボランティア基金助成事業等による助成を実施	地域づくり活動応援事業、ひょうごボランティア基金助成事業等による助成を実施	地域づくり活動応援事業、ひょうごボランティア基金助成事業等による助成を実施	地域づくり活動応援事業、ひょうごボランティア基金助成事業等による助成を実施	地域づくり活動応援事業、ひょうごボランティア基金助成事業等による助成を実施
					地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、地域づくりネットワーク会議等を実施	地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、地域づくりネットワーク会議等を実施	地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、地域づくりネットワーク会議等を実施	地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、地域づくりネットワーク会議等を実施	地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運営、地域づくりネットワーク会議等を実施
	①連携・交流のための機会提供	流域ネットワークの自律的な形成に向けた支援	他の活動主体との連携・交流の機会となるシンポジウム等の開催	適宜実施	シンポジウム「武庫川からはじめる総合治水」を開催(H23. 9)	「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催(H25. 3)	「第2回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催(H25. 12)	「第3回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催(H26. 9)	「第4回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催(H27. 10)
	②連携・交流のための情報提供		活動主体の概要とその活動内容などの情報提供	ホームページを活用した情報提供の実施	—	活動団体の概要や活動内容を分かりやすく情報提供できるホームページの内容について検討	活動団体の概要や活動内容を分かりやすく情報提供できるホームページの内容について検討	活動団体が地域づくり活動情報システム「コラボネット」など既存のホームページプラットフォームを活用中	活動団体が地域づくり活動情報システム「コラボネット」など既存のホームページプラットフォームを活用中
(3) 自律的な流域ネットワークとの連携		自律的な流域ネットワークとの連携	流域ネットワークとの連携の具体化	流域を代表するネットワーク等が形成された場合には、流域市や流域ネットワークの意見も聴きながら連携のあり方について検討し、具体化を図る。	—	流域ネットワークの形成に向けて「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催	流域ネットワークの形成に向けて「第2回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催	流域ネットワークの形成に向けて「第3回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催	流域ネットワークの形成に向けて「第4回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催

<凡例> (注) : 武庫川流域内の合計値

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
<p>点検・評価 (C) H23</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画に基づく取り組みの初年度であったことから、広く住民の理解と協力を得るため、主に下流部築堤区間において住民説明会や地域懇談会等により事業説明や住民意見聴取に努めた。また、総合治水の必要性をPRするシンポジウムの開催、ひょうごアドプト、アユの産卵場造成など、地域住民等との連携に資する取り組みを実施した。今後も連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援については、「参画と協働の推進方策」に基づき、今後も継続して助成や情報提供等の取り組みを実施していく。 武庫川流域には環境に関連する団体が多数存在することから、今後、環境を切り口としたワークショップを開催するなど、連携の機会や情報提供の支援方策について検討していく。 	<p>点検・評価 (C) H24</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、広く住民の理解と協力を得るため、住民説明会や出前講座等により事業説明や住民意見聴取に努めた。 総合治水条例に基づき、地域住民等の幅広い意見を聴きながら「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画」を策定した。 ひょうごアドプト、アユの産卵場造成など、地域住民等との連携に資する取り組みを実施した。今後も連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援については、「参画と協働の推進方策」に基づき、今後も継続して助成や情報提供等の取り組みを実施していく。 流域連携促進の足掛かりとするため、主に市民団体を対象とした「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」(H25.3.20)を開催し、今後の流域連携のあり方について参加者とワークショップ形式で議論した。参加者は31名であり、流域連携は大切との意見が大半である一方、現在の団体活動を行ううえで若者不足(団体構成員の高齢化)が課題であるとの意見も多くあった。今後も引き続き、流域連携の促進を図るため、交流会を継続して開催していく。 	<p>点検・評価 (C) H25</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、広く住民の理解と協力を得るため、住民説明会や出前講座等により事業説明や住民意見聴取に努めた。 総合治水条例に基づく阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会を1回開催し、意見交換を行った。今後も引き続き総合治水の推進に努めていく。 ひょうごアドプト、アユの産卵場造成など、地域住民等との連携に資する取り組みを実施した。今後も連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援については、「参画と協働の推進方策」に基づき、今後も継続して助成や情報提供等の取り組みを実施していく。 流域連携促進の足掛かりとするため、主に市民団体を対象とした「第2回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」(H25.12.15)を開催(参加者70名)。パネルディスカッションでは、流域連携のあり方について、個々の団体での取組だけでは限界があり、幅広い連携が必要との意見や、世代間の連携も重要で、子供が参加しやすい仕掛けが必要との意見があった。今後も引き続き、流域連携の促進を図るため、交流会を継続して開催していく。
<p>点検・評価 (C) H26</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、広く住民の理解と協力を得るため、住民説明会や出前講座等により事業説明や住民意見聴取に努めた。 総合治水条例に基づく阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会を1回開催し、意見交換を行った。今後も引き続き総合治水の推進に努めていく。 ひょうごアドプト、地域住民等との連携に資する取り組みを実施した。今後も連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援については、「参画と協働の推進方策」に基づき、今後も継続して助成や情報提供等の取り組みを実施していく。 流域連携促進の足掛かりとするため、主に市民団体を対象とした「第3回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」(H26.9.6)を開催(参加者63名)。今後も引き続き、流域連携の促進を図る。 連携・交流のための情報提供としてホームページを活用した情報提供の実施については、活動団体が地域づくり活動情報システム「コラボネット」など既存のホームページを活用中であり、既存システムの有効活用を支持する。 	<p>点検・評価 (C) H27</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流部築堤区間においては、広く住民の理解と協力を得るため、住民説明会や出前講座等により事業説明や住民意見聴取に努めた。 総合治水条例に基づく阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会を1回開催し、意見交換を行った。今後も引き続き総合治水の推進に努めていく。 ひょうごアドプト、地域住民等との連携に資する取り組みを実施した。今後も連携を支援・促進するための取り組みを適宜・適切に実施していく。 多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援については、「参画と協働の推進方策」に基づき、今後も継続して助成や情報提供等の取り組みを実施していく。 流域連携促進の足掛かりとするため、主に市民団体を対象とした「第4回みんなで取り組む武庫川づくり交流会」(H27.10.17)を開催(参加者52名)。今後も引き続き、流域連携の促進を図る。 連携・交流のための情報提供としてホームページを活用した情報提供の実施については、活動団体が地域づくり活動情報システム「コラボネット」など既存のホームページを活用中であり、既存システムの有効活用を支持する。 	
4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)		
<ul style="list-style-type: none"> 「参画と協働」による武庫川づくりを基本として、ひょうごアドプトなどの地域住民等と連携した河川の維持管理等について取り組むとともに、多様な活動主体間の幅広い流域ネットワークの形成に寄与する「みんなで取り組む武庫川づくり交流会」を開催してきた。 「地域共有の財産」である武庫川を守り育てるため、地域住民等、研究機関、流域市、県が適切な役割分担のもと、さらなる連携を進めるとともに、多様な主体が自発的で自律的に武庫川づくりに取り組むための仕組みを検討する。 		

河川整備計画 の事項・項目	第4章 河川整備の実施に関する事項 第4節 河川の維持管理等に関する事項 3 モニタリング ① 定期的な観測によるデータの把握 ② 事業実施前後のモニタリング ③ 流量観測データの蓄積	実施目標	治水、利水、環境の観点から河川の総合的な管理を行う。
	施策の概要		地球温暖化に伴う気候変化の影響にも留意しつつ、必要な観測データや新たな知見を蓄積する。これらのデータは、河川計画を含む河川管理技術の向上、河川整備計画の進行管理等に活用すると共に、住民等との情報共有にも努める。 また、観測精度を維持するため、日常の保守点検を実施するとともに、観測精度向上に向け必要に応じて観測施設の配置、観測手法等を改善する。

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画 の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
3. モニタリング	観測データの活用、住民等との情報共有	・河川管理技術の向上 ・河川整備計画の進行管理等への観測データの活用	継続的に実施				・雨量、河川水位データ等を実施設計などに活用 ・水位予測システム構築 (H21)、氾濫予測システム構築 (H23)	雨量、河川水位データ等を河道や遊水地の設計、青野ダム事前放流の実施などに活用	雨量、河川水位データ等を河道や遊水地の設計、青野ダム事前放流の実施などに活用	雨量、河川水位データ等を河道や遊水地の設計、青野ダム事前放流の実施などに活用	雨量、河川水位データ等を河道や遊水地の設計、青野ダム事前放流の実施などに活用
		住民等との情報共有	継続的に実施				ホームページを活用した情報共有を実施 （「地域の風水害対策情報※」へのアクセス数：約25万4千件/年） ※http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/	ホームページを活用した情報共有を実施 （「地域の風水害対策情報※」へのアクセス数：約17万2千件/年） ※http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/	ホームページを活用した情報共有を実施 （「地域の風水害対策情報※」へのアクセス数：約24万4千件/年） ※http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/	ホームページを活用した情報共有を実施 （「地域の風水害対策情報※」へのアクセス数：約38万1千件/年） ※http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/	ホームページを活用した情報共有を実施 （「地域の風水害対策情報※」へのアクセス数：約50万4千件/年） ※http://www.hazardmap.pref.hyogo.jp/ 新たにスマホサイトを開設（H27.6～）
	日常の保守点検	「兵庫県河川維持管理計画」に基づき実施				巡視点検を実施し、観測施設の観測精度を維持	巡視点検を実施し、観測施設の観測精度を維持	巡視点検を実施し、観測施設の観測精度を維持	巡視点検を実施し、観測施設の観測精度を維持	巡視点検を実施し、観測施設の観測精度を維持	
	観測精度の維持・向上	必要に応じた観測施設の配置・観測手法等の改善	必要に応じ実施				・巡視点検の結果、改善の必要なしと判断 ・河川監視カメラ6基増設	巡視点検の結果、改善の必要なしと判断	巡視点検の結果、改善の必要なしと判断	巡視点検の結果、改善の必要なしと判断	巡視点検の結果、改善の必要なしと判断
①定期的な観測によるデータの把握	定期的・継続的な観測の実施、データの蓄積	流域内雨量、河川水位、土砂堆積、水質、水温、潮位の継続調査・データ蓄積	継続的に実施				雨量、河川水位、水質、水温などの調査およびデータ蓄積を実施	雨量、河川水位、水質、水温などの調査およびデータ蓄積を実施	雨量、河川水位、水質、水温などの調査およびデータ蓄積を実施	雨量、河川水位、水質、水温などの調査およびデータ蓄積を実施	雨量、河川水位、水質、水温などの調査およびデータ蓄積を実施
②事業実施前後のモニタリング	環境への影響把握、順応的管理、知見の蓄積、事業への反映	魚類、底生動物、植生、瀬・淵の状況、河川景観等のモニタリング	継続的に実施				H23年度までの3年間に行ったアユの生息実態調査結果の総括を実施。総括結果は、ホームページで公開するほか、講演会で報告を行うなど、周知に努めた。 河川モニタリング調査（貴重種）を実施。	武庫川上流部や武庫川峡谷での貴重種のモニタリングを実施	武庫川上流部や武庫川峡谷での貴重種のモニタリングを実施	武庫川上流部や武庫川峡谷での貴重種のモニタリングを実施	・H27年度に行ったアユの遡上調査結果をホームページで公開するほか、関係者へ報告を行うなど周知に努めた。 ・武庫川上流部や武庫川峡谷での貴重種のモニタリングを実施
③流量観測データの蓄積	増水時や平常時の流況把握	増水時や平常時の流量観測データの蓄積	継続的に実施				増水時および平常時の流量観測を実施	平常時の流量観測を実施	増水時および平常時の流量観測を実施	増水時および平常時の流量観測を実施	増水時および平常時の流量観測を実施

3. 点検・評価（C）（第1期 [H23～H27]）		
点検・評価（C） H23	点検・評価（C） H24	点検・評価（C） H25
<ul style="list-style-type: none"> 雨量や河川水位等の定期的な観測、および増水時・平常時の流量観測、モニタリング調査を実施した。また、これらのデータ活用についても取り組んだ。今後も引き続き継続的に実施していく。 河川水位などの観測データについてはホームページでの公開を行い、住民等との情報共有に努めており、今後も継続的に実施していく。 観測施設については、今後も適正な保守に努め、観測精度の維持・向上に努めていく。 水位予測及び氾濫予測システムについては、観測データを活用し、予測精度向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨量や河川水位等の定期的な観測、平常時の流量観測、モニタリング調査を実施した。また、これらのデータ活用についても取り組んだ。今後も引き続き継続的に実施していく。 河川水位などの観測データについてはホームページでの公開を行い、住民等との情報共有に努めており、今後も継続的に実施していく。 観測施設については、今後も適正な保守に努め、観測精度の維持・向上に努めていく。 水位予測及び氾濫予測システムについては、観測データを活用し、予測精度向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨量や河川水位等の定期的な観測、平常時の流量観測、モニタリング調査を実施した。また、これらのデータ活用についても取り組んだ。今後も引き続き継続的に実施していく。 河川水位などの観測データについてはホームページでの公開を行い、住民等との情報共有に努めており、今後も継続的に実施していく。 観測施設については、今後も適正な保守に努め、観測精度の維持・向上に努めていく。 水位予測及び氾濫予測システムについては、観測データを活用し、予測精度向上に努めていく。
点検・評価（C） H26	点検・評価（C） H27	
<ul style="list-style-type: none"> 雨量や河川水位等の定期的な観測、増水時および平常時の流量観測、モニタリング調査を実施した。また、これらのデータ活用についても取り組んだ。今後も引き続き継続的に実施していく。 河川水位などの観測データについてはホームページでの公開を行い、住民等との情報共有に努めており、今後も継続的に実施していく。 観測施設については、今後も適正な保守に努め、観測精度の維持・向上に努めていく。 水位予測及び氾濫予測システムについては、観測データを活用し、予測精度向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 雨量や河川水位等の定期的な観測、増水時および平常時の流量観測、モニタリング調査を実施した。また、これらのデータ活用についても取り組んだ。今後も引き続き継続的に実施していく。 河川水位や観測井戸などの観測データについてはホームページでの公開を行い、住民等との情報共有に努めており、地域の風水害対策情報 HP (CG ハザードマップ) については新たにスマホサイトを開設しよりいっそうの情報提供を図った。今後も情報共有・提供を継続的に実施していく。 観測施設については、今後も適正な保守に努め、観測精度の維持・向上に努めていく。 水位予測及び氾濫予測システムについては、観測データを活用し、予測精度向上に努めていく。 	

4. 改善（A）（第2期 [H28～H32]）に向けて）		
<ul style="list-style-type: none"> 治水、利水、環境の観点から河川の総合的な管理を行なうにあたり、必要な観測データを蓄積している。これらのデータを、河川計画を含む河川管理技術の向上、河川整備計画の進行管理等に活用すると共に、住民等との情報共有にも努めていく。 観測精度を維持するため、「兵庫県河川維持管理計画」に基づき日常の保守点検を実施している。引続き保守点検を実施するとともに、観測精度向上に向け必要に応じて観測施設の配置、観測手法等を改善する。 		

<p>河川整備計画の事項・項目</p>	<p>第4章 河川整備の実施に関する事項 第4節 河川の維持管理等に関する事項 4 河川整備計画のフォローアップ (1) 河川整備計画の進行管理 (2) フォローアップ委員会の設置 (3) 地域住民等との情報の共有</p>	<p>実施目標</p>	<p>河川整備計画の着実な推進。</p>
<p>施策の概要</p>	<p>PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理、フォローアップ委員会の設置を行うとともに、地域住民等との情報の共有を図る。</p>		

1. 期別計画 (P)			2. 実績 (D)								
河川整備計画の事項・項目	取組方針	点検指標	期別計画 (P)				実績 (D)				
			第1期 (H23~H27)	第2期 (H28~H32)	第3期 (H33~H37)	第4期 (H38~H42)	H23	H24	H25	H26	H27
(1)河川整備計画の進行管理	PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を図る仕組みの導入	PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理の実施	継続的に実施				進行管理の仕組みを検討	第2回委員会において、PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理方法について提案し、了承を得た。	第3回委員会でPDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施	第4回懇話会でPDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施	第5回懇話会でPDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施
(2)フォローアップ委員会の設置	フォローアップ委員会の設置	フォローアップ委員会の開催	継続的に実施				9月に設置し第1回委員会を開催(H23.9)	第2回委員会を開催(H24.11)	第3回委員会を開催(H25.10)	第4回懇話会を開催(H26.9)	第5回懇話会を開催(H27.9)
(3)地域住民等との情報の共有	地域住民等との情報の共有化	施策・事業の実施状況等の情報発信	継続的に実施				<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「武庫川からはじめる総合治水」(H23.9開催、参加者約450人) ・事業説明会、現地説明会、出前講座(H23.5~H24.3(50回開催)参加者累計約1,900人) ・武庫川河川整備地域懇談会(H23.8~H24.1(全3回完了)) ・パンフレット(5,000部)、リーフレット(50,000部)の発行 ・事業概要説明チラシの配布(下流部築堤区間の沿川約17万戸を対象に配布) ・広報誌、ホームページへの掲載 ・アンケート調査の実施 ・現地広報看板(21箇所)・意見募集箱(6箇所)の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会、現地説明会、出前講座(H24.4~H25.3)(21回開催)参加者累計約655人 ・事業概要説明チラシを配布(34,000部)、 ・工事説明チラシを配布(10,800部)、 ・井戸利用の実態調査票の配布(95,000部) ・広報誌、ホームページへの掲載 ・現地広報看板(21箇所)により工事概要を周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会、現地説明会、出前講座(H25.4~H26.3)(20回開催)参加者累計約370人 ・事業概要・工事説明チラシを配布(10,000部)、 ・広報誌、ホームページへの掲載 ・現地広報看板(21箇所)により工事概要を周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会、現地説明会、出前講座(H26.4~H27.3)(11回開催)参加者累計約438人 ・広報誌、ホームページへの掲載 ・現地広報看板(24箇所)により工事概要を周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明会、現地説明会、出前講座(H27.4~H28.3)(32回開催)参加者累計約1,359人 ・広報誌、ホームページへの掲載 ・現地広報看板(23箇所)により工事概要を周知 ・現地体感バスツアーを実施(H28.3)参加者35名

3. 点検・評価 (C) (第1期 [H23~H27])		
<p align="center">点検・評価 (C) H23</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を図る仕組みについて検討。今後、具体化を図り、河川整備計画の進行管理に適用していく。 ・ フォローアップ委員会を9月に設置、第1回委員会を開催。今後も定期的に開催する。 ・ 事業内容等を紹介するホームページ*へのアクセス数 [243件/月 (7~9月の平均) →485件/月 (1~3月の平均)] や住民からの計画に対する問合せの増加は、シンポジウムや説明会など「地域住民等との情報の共有」に積極的に取り組んだことによる効果と考えている。今後も継続して情報発信を行っていく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html 	<p align="center">点検・評価 (C) H24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理方法について提案し、了承を得た。今後、河川整備計画の進行管理に適用し、委員会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善に努めていく。 ・ 第2回フォローアップ委員会を11月に開催。今後も定期的に開催する。 ・ 事業内容等を紹介するホームページ*へのアクセス数は、月平均で350件 (H24.4~H25.3の平均) を超えるなど住民等の関心の高さを示しており、説明会や出前講座など「地域住民等との情報の共有」に積極的に取り組んだことによる効果と考えている。今後も継続して情報発信を行っていく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html 	<p align="center">点検・評価 (C) H25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施。今後、委員会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善に努めていく。 ・ 第3回フォローアップ委員会を10月に開催。今後も定期的に開催する。 ・ 事業内容等を紹介するホームページ*へのアクセス数は、月平均で290件 (H25.4~H26.3の平均) を超えるなど住民等の関心の高さを示しており、説明会や出前講座など「地域住民等との情報の共有」に積極的に取り組んだことによる効果と考えている。今後も継続して情報発信を行っていく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html
<p align="center">点検・評価 (C) H26</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施。今後、懇話会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善に努めていく。 ・ 第4回フォローアップ懇話会を9月に開催。今後も定期的に開催する。 ・ 事業内容等を紹介するホームページ*へのアクセス数は、月平均で350件 (H26.4~H27.3の平均) を超えるなど住民等の関心の高さを示しており、説明会や出前講座など「地域住民等との情報の共有」に積極的に取り組んだことによる効果と考えている。今後も継続して情報発信を行っていく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html 	<p align="center">点検・評価 (C) H27</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施。今後、懇話会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善に努めていく。 ・ 第5回フォローアップ懇話会を9月に開催。今後も定期的に開催する。 ・ 事業内容等を紹介するホームページ*へのアクセス数は、月平均で340件 (H27.4~H28.3の平均) を超えるなど住民等の関心の高さを示しており、説明会や出前講座など「地域住民等との情報の共有」に積極的に取り組んだことによる効果と考えている。H27年度は新たに現地体感バスツアーを実施 (H28.3) し、県民に対し「総合治水」対策の必要性や重要性を情報発信した。今後も継続して情報発信を行っていく。 ※「(阪神南地域) 武庫川河川整備事業について」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/hs04/hs04_4_000000033.html 	
4. 改善 (A) (第2期 [H28~H32] に向けて)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ P D C Aサイクルの考え方に基づいた進行管理を実施し、地域住民等との情報の共有化を図った。懇話会からの意見を聴いて整備計画の次なる進行と改善に努めていく。 ・ 地域住民等との情報の共有化については、施策・事業の実施状況等の情報発信の工夫に努めた。今後も継続して情報発信し、施策・事業の理解が得られるよう努めていく。 		